

# 第 15 回 日口知事会議概要報告

平成22年5月1日～5月6日

## 目 次

1. 全国知事会訪ロ代表团名簿	-----	1
2. 全国知事会訪ロ代表团日程	-----	4
3. 日ロ知事会議概要	-----	5
(1) 挨拶概要		
・日ロ首脳メッセージ	-----	5
・日ロ両国来賓挨拶	-----	7
(2) 議事概要	-----	11
(3) 記者会見	-----	44
(4) 共同声明	-----	別紙
4. モスクワ大学訪問	-----	47
5. 要人表敬の概要	-----	49
(1) 地方発展省次官	-----	49
(2) 外務省次官	-----	55
(2) ロシアの柱会長	-----	60
6. 沿海地方視察	-----	65
(1) 知事意見交換概要	-----	65
(2) 極東工科大学訪問概要	-----	72
7. 参考資料	-----	別紙
(1) 参加地域概要	-----	別紙
(2) ロシア関係資料	-----	別紙

## 1. 全国知事会ロシア訪問代表団名簿

団長	全国知事会会長	福岡県知事	麻生 渡
団員	北海道知事	高橋 はるみ	
	秋田県知事	佐竹 敬久	
	山形県知事	吉村 美栄子	
	新潟県知事	泉田 裕彦	
	富山県知事	石井 隆一	
	鳥取県知事	平井 伸治	
	東京都副知事	村山 寛司	
随員	福岡県	分権改革推進室長	藤山 泰三
		秘書室参事補佐	牛島 英典
		分権改革推進室主任主事	信川 裕樹
	北海道	ロシア担当課長	檜山 明男
		秘書課主査	竹澤 孝夫
		総務課主任	宮崎 裕一
	秋田県	秘書課政策監	水澤 聡
		総合政策課長	光安 達也
	山形県	総合政策局長	秋葉 秀出男
		戦略調整主幹	佐々木 昭喜
	新潟県	政策監兼政策課長	藤山 育郎
		秘書課長補佐	若杉 直樹
		国際課政策企画員	古田 一人
	富山県	商工労働部次長	日吉 敏幸
		秘書第一係長	渡辺 正和
		国際交流員	アナスタシア・シェルバチュク
	鳥取県	交流推進課	清水 明史
		国際交流員	クセーニャ・コレスニコヴァ
	東京都	外務部長	遠藤 雅彦
		外務部外務課主任	矢沢 英明
事務局	全国知事会	事務総長	中川 浩明
		国際部副部長	宮嶋 和志
		国際部副参事	松橋 弘子

添乗員 近畿日本ツーリスト

根本 安崇

通訳 サイマル・インターナショナル

吉岡 ゆき  
柴田 友子  
セルゲイ・チローノフ

## 第15回日ロ知事会議ロシア連邦地方政府代表出席者

ロシア21世紀委員会議長 モスクワ市長	ユーリー M・ルシコフ
トムスク州知事	ヴィクトル M・クレス
リペツク州知事	オレグ P・コロリョフ
ヤロスラヴリ州知事	セルゲイ A・ヴァフルコフ
カルーガ州知事	アナトリー D・アルタモノフ
ハバロフスク地方知事	ヴァチェスラフ I・シュポルト
コストロマ州知事	イーゴリ N・スリュニャエフ
サハリン州知事	アレクサンドル V・ホロシヤヴィン
カムチャツカ地方知事	アレクセイ A・クジミツキー
カリーニングラード州知事	ゲオルギー・V・ボース
ロシア21世紀委員会 事務局長	イゴール・チトフ ヴァチェスラフ S・ルーニン

## 2. 全国知事会代表団ロシア訪問代表団日程

平成 22 年 5 月 1 日(土)～5 月 6 日(木)

- 5 月 1 日(土) 11:55 JL441 便モスクワ行 成田空港第2ターミナル発  
16:30 モスクワドモジエドヴォ空港着  
18:30 ペテロフスキープチェヴォイ宮殿着  
20:00 河野雅治大使主催懇談会「大使公邸」
- 5 月 2 日(日) 09:00 モスクワ市内市場、商店視察  
10:00 個別会談  
12:00 第 15 回日ロ知事会議「ペテロフスキープチェヴォイ宮殿」  
記者会見  
17:30 モスクワ市主催歓迎レセプション「ダンチェンコ記念劇場」
- 5 月 3 日(月) 10:30 桜記念植樹「ヴォロヴィヨールヴィ・ゴールイ」  
11:45 桜記念植樹式典「モスクワ大学インテレクチュアルセンター」  
12:30 モスクワ大学学生による歓迎公演及びレセプション  
15:00 モスクワ市内視察「クレムリン宮殿・赤の広場」
- 5 月 4 日(火) 10:00 政府要人面談 マキシム A・トラウニコフ 地方発展省次官  
12:00 経済界要人面談 セルゲイ・ボリソフ ロシアの柱会長  
13:30 政府要人面談 アレクセイ N・ボロダフキン 外務省次官  
20:15 SU719 便ウラジオストク行き モスクワシェレメチェボ空港発
- 5 月 5 日(水) 11:45 ウラジオストク空港着  
14:30 APEC関連施設建設現場洋上視察  
16:30 ダリキン沿海地方知事との意見交換及び懇談会「迎賓館」  
20:00 沿海地方政府・ウラジオストク市政府・ナホトカ市政府・  
地元産業界との懇談会「総領事公邸」
- 5 月 6 日(木) 09:30 極東工科大学訪問  
学長及び研究者との意見交換  
日本語学科授業見学及び懇談  
14:30 XF8827 便成田行 ウラジオストク空港発  
14:40 成田空港着

### 3. 第15回日露知事会議議事概要

#### (1) 挨拶概要

#### 鳩山内閣総理大臣メッセージ

第15回日露知事会議にご出席の皆様、約40年に及ぶ歴史を有する日露知事会議が昨年のプーチン首相訪日時に行われた日露知事同士の意見交換を経て、再び開催されることを歓迎いたします。

日露両国政府間では、ロシア側におけるアジア太平洋地域との関係強化という方針を受けて、同地域におけるパートナーとして行動すべきことで一致しております。

こうした中、近年、メドベージェフ大統領がロシアの政治システムの近代化を提唱されているというを受け政府間で議論をしているところであります。

その一方で、両国の地方自治体同士による地域間交流を深めることは、日露経済関係全体に厚みをもたらすとともに、人的交流及び文化交流の拡大をもたらすものであり、政府間の取り組みを下支えする重要な要素と評価しております。

今回の会議における有意義な議論を通じて、両国の地域間での互恵的な協力が促進され、ひいては日露関係全体のすそ野が広がることになるよう、心より期待しております。

## メドベージェフ ロシア連邦大統領メッセージ

私は日露知事会議を歓迎する。

地域間交流は露日関係の重要な一部であり、広範な方面性にわたり、特に経済分野から姉妹都市関係を含めた文化交流まで多岐にわたるものである。

そして、そうした交換が両国の国民の間の信頼関係の拡大に貢献し、具体的な社会・経済問題の解決につながるものである。

こうした協力により多くの地域が参加してくることが重要であり、特にヨーロッパ・ロシアだけではなく、極東シベリア・ロシアも参加してくることが重要である。

今回の会議が、この会議によって両国の交換、交流がさらなる発展との波源におけることを確信しており、二国間の相互信頼関係の構築につながると確信している。

それは鳩山総理と私の合意である以上、皆様の崇高なる会議を祈る。



## フリステンコ産業貿易大臣挨拶

私の最新の印象、そして、最新のニュースを皆様にお知らせいたしたいと思います。ルシコフ市長は2008年で300億ドルという記録的な貿易高があったということをおっしゃっていますが、それは非常に意義のある数字だと私は思います。特に日本のビジネスがロシアの経済にどれほど進出しようとしているのかということを示す数字であると思います。そして、それは採掘部門だけでなく、ロシア経済の発展につながるような協力への関心を示す数字ではないかと思います。ただ、2009年という経済危機の年を受けて、貿易高というものは著しく減少しております。倍以上の減少が見られました。それは疑いもなく検討、研究に値するものでしょうけれども、特にビジネスに限らず、政府の関係者もその原因を分析するのに、十分な努力をしなければならないとは思いますが、その分析の目的というのは、新たな成長につなげれば十分だと思います。

いずれにしましても、今年の第1・四半期に入って、いささか立ち直っています。私は岡田外相との会合の場でもその情報ができています。ですから、プラス面での情報もあるわけであります。つまり、貿易高が減っているものの、一方では対ロの日本の投資の総額はふえておりまして、89億ドルという水準になろうとしているところです。日本は現在、ロシアへの投資国家の重要な一つであるというような段階にきています。ということで、貿易高が減っているのはあくまで一時的な現象に過ぎず、両国間の経済関係の原動力となるファクターにはもっと重要な、もっと長期的なものがあるということが示されていると思います。

ここで特に重要になってくるのは、石油・ガス部門への投資であると思います。サハリン1、サハリン2というプロジェクトへの日本の参加のことを皆様は熟知しておられると思います。そして、いろいろ議論がありましたが、ロシアの港から日本の消費地に向けて、ロシアの石油、原油というものが運ばれ始めていますし、長期的な契約ベースでのそうした協力が発展しつつあることも、現在、疑いもない事実となっております。そして、そのおかげで三井や三菱といった日本の大手商社、大企業をロシアの資源開発にさらに関心を掘り起こすということにもつながっています。特にヤマルという西シベリアの北部のガス田、油田の開発に日本の資本が参加していくということが、そこから生まれていこうと思います。ほかにもいろいろな資源の開発が考えられます。石炭ですとか、あるいは森林資源の開発も可能であると思います。

いずれにしても、私たちの分析ではこういうことが明らかになっています。ロシアの経済、そして、日本の経済というものは、長期的な変換の道筋というものを見出しているのではないかということでもあります。つまり、イノベーション的な経済、深い意味での近代化への道筋が示されており、単に貿易し合うだけではなく、共同で一定の成果に達するということができるようになってきているのではないかと思います。少なくとも私たちは新しい可能性、理解を今、模索しておりますし、幾つかの優先的な課題として大統領に示された分野においても、そうした進展が見られています。特に省エネ、航空機製作、IT、宇宙開発に見られます。

そして、ほかにもいろいろな分野があります。私の訪日のときにもガスタービンなどの機械建設工業のことが話し合われましたし、また、日本自動車メーカーの極東ロシアへの進出、あるいはウラジオストクがAPECの開催地となることに向けた協力といったものが政府間委員会の間でも行われました。それは単なる政治家の話というものではありませんでした。政治家は口先でことを言うというのがふだんのことでありますが、ビジネスの実際のプロジェクトにつながるということが現段階の違いで

あります。特に私は経団連の指導部とも会いましたけれども、経団連のほうからも、やはりこのような方面性での作業を続けていこうという意図が発せられました。

そして、カルーガでの三菱の工場は先月、可動式が行われましたけれども、ロトウボウ(ロシア東欧貿易会)のミッションをウラル地方に派遣するということが6月に予定されていますけれども、それは合同ミッションとして、ビジネスの関係者も、ロシアに経済協力の可能性を探るためにおいでになるということが合意されています。そして、この5月にも円卓会議がロシアで行われます。あらゆるレベルで、多面的に、多層的にビジネス、中小企業、大企業、そして政府、そして地方といったレベル、そのすべてを活用して関係を動かす、経済交流を動かすということになりますが、やはり最近の調査などでわかることですが、日本の大企業が投資先の環境を重視しているということがわかっていますので、それも一つの我々の政策の目的となるのではないかと思います。

そのことは経団連との会合の場で私は発見したのですが、幾つか経団連が行った調査でネガティブな印象として、日本の企業におけるファクターが取り上げられました。というのは、例えば法の適用問題が取り上げられました。具体策に至るまで良い方は、必ずしも十分に運用されないかもしれないという、ゆがみが出てくるというようなことが指摘されました。こうしたことはやはりロシアの行政制度そのものが近代化、改革されつつあることにはつながっていることに原因があるのでしょうけれども、我々政府としては開かれた形で、そうした諸問題を日本のビジネスとともに話し合うべきだと思いますし、こうしたロシアの改革、近代化の一環として行政政府のあり方の自由化も考えるべきなのでしょう。

最後にもう一度、強調したいと思いますが、地域間交流を我々は非常に重視してきています。政府間委員会の中でも地域間交流をテーマとした分科会もありますし、そして皆様方のフォーラムの非常に大きな可能性を秘めた一つのフォーマットではないかと思います。そこで行われる討論、ディスカッションが非常に実のあるものを私は期待したいと思いますし、2つの国の関係に大きな励みを与えるということを確認しております。

## 河野雅治駐ロシア特命全権大使

政府を代表する在ロシア日本大使として、一言、二言、申し上げたいと思いましたが、既に市長も大臣も私の申し上げたいことを伝えましたから、もう十分かと思いますが、あえて、一言、二言、追加的に申し上げたいと思います。

皆様がおっしゃったことに私は全く同感なんですが、あえて違う角度から言えば、日本とロシアの関係というのは、大国と大国の関係でございます。そして、隣同士の関係でございます。それにしても、まだまだ関係は深くなっていない。言いかえれば、将来に向けての発展性、潜在性が非常に大きい関係だというふうに思います。そういうことも踏まえて、外交上は極めて異例なことだと思いますけれども、鳩山総理大臣とメドベージェフ大統領は既に今年2回あるいは3回、時間をかけて政治対話をしようということ为先日の4月に、ワシントンの会議で合意しております。

すなわち6月のG8サミット、そして10月の日本で開かれるAPEC、そして検討中ではありますが、9月のヤロスラヴリフォーラム、ここでもし時間が合えばじっくりと話し合いたい。日本から見ても、これだけ今年3回、総理と大統領とが既に時間をかけて話し合おうというふうに話し合っているということ自体が極めて異例なことで、これからの日露関係の発展に対する両首脳の間期待ということがあろうかと思えます。

フリステンコ大臣とは昨年末に岡田外務大臣が訪ロシアして、年末にもかかわらず、じっくりと話し合われました。そして、それを受けて、今回、4月に大臣が日本に行って、さらに議論を深めていただくと、こういうこと自体も今日の最近の日露関係、政府レベルの関係の深まりを示していると思えます。先ほど経済の関係で幾つかの例をお示しになりましたが、日本とロシアの企業同士でも、我々両国とも経済は非常に危機の状況があったわけですが、そんな危機の中で準備をし、努力をし、そして、ようやく危機を乗り越えるかという時期になって、一つ一つ、その努力の成果が生まれつつあると思えます。

今、ここに同僚の知事の皆様がいらっしゃいますが、リペツクでの3月の横浜ゴムの起工式、あるいは4月の三菱自動車のカルーガでのオープニング、そして、6月にはヤロスラヴリでコマツの工場がオープンすることが予定されております。そして、ルシコフ市長のためにもう一言申し上げるならば、4月には日本では有名な衣料品メーカーのユニクロが第1の店舗をモスクワにもオープンいたしました。こういった日露双方の努力も、言ってみるならば、厳しい時期の間によく準備をされたことが、ようやく花が開きつつあるということであらうかと思えます。

本日、先ほど麻生知事もおっしゃいましたが、ここに集まっている日本からの知事の方は、言ってみればロシアのほうに向かった、ロシアを見ている知事の皆さんです。日本海に面して、日本海の先のロシアというのを見ている知事の皆さんです。そして、ロシアのほうも昨年、年末にはプーチン首相が2025年に向けての極東シベリアの開発の戦略というものを策定され、そして、再来年のAPECのウラジオストク開催に向かって、極東に目が向いてきております。まさに我々のほうも、そちらのほうも、お互いに向き合っている関係ということで行われてきているわけでありまして。したがって、こういった勢いをいよいよぜひひとつも私どもは生かして、日露関係のさらなる発展に続けていきたいと思えます。

日本とロシアはこういうことですから、経済も政治も文化の交流、そして人の交流、地域の交流ということもさらに進めていく時期に来ていると思えますが、ロシアからは最近海外に旅行する方々

が大変多くなってきておると伺っています。ごく最近の数字でも 3,600 万人の方がロシアから海外に旅行する、そして、アジア太平洋地域でロシアの方が一番行きたい国というのは日本だと伺っております。しかし、実際の数字は、ロシアから日本に行かれる方はロシア人で海外に行かれる方のわずか 0.2%に過ぎません。これも見方を変えれば、将来の潜在力が大変に多いということだと思います。日本にもっとロシアの方が訪れそして、日本人がもっとロシアに来るといった、人間と人間の交流が日本とロシアを奥深く、幅広く理解することであろうかと思えます。

以上、私が申し上げたことは既に市長ほか、皆様がおっしゃったことだと思います。明日でしょうか、東京都と姉妹関係にあるモスクワ市において、日本から送られてきた桜の植樹式というのがございます。まさにこれから 21 世紀に発展しようという日本とロシアの関係、この将来の潜在性を秘めた関係を象徴するような桜の植樹式というのが明日、行われることになっております。

そういった、言ってみれば、これから将来にさらに広がる日本とロシアの関係、そういった、その入り口に我々はいるわけでございますので、本日のこの議論がぜひそれに向けて有意義な会議になるということを心から祈念して、大使として一言、ごあいさつ申し上げます。ようやくマイクの機械も動くようになって本格的な議論ができるかと思えます。どうもありがとうございました。

## (2) 日露知事会議議事概要(要人挨拶一部重複)

### ーロシア21世紀委員会議長 モスクワ市長(ユーリ・ルシコフ)ー

この宮殿は旅のための宮殿とも言われています。ここは18世紀にエカテリーナ女帝の命令で建てられた宮殿であります。なぜ旅のための宮殿かといいますと、サンクトペテルブルクからモスクワに皇帝、皇族が向かうときに、その前日に一泊をしたという宮殿だからです。したがって、エカテリーナ女帝をはじめニコライ2世に至るまでの歴代のロシアの皇帝が泊まったこの宮殿に皆さんにお泊りいただき、そして、今日のこの会議を開くのであります。

さて、今日は5月2日、日本においてもロシアにおいても、5月の祝日というのが今の時期であります。なのにもかかわらず、私たちはここで仕事をしているのであります。これは私たちがワーカホリックであるというのが理由の一つかもしれませんが、理由はそれだけではありません。今日、私たちがここで会議をしているのはワーカホリックであるからではなく、この会議が日本、ロシア双方にとって、とても重要な会議であるからであります。日本とロシア両国間のさまざまな交流、それもあらゆる分野における交流、そして、さまざまなレベルでの交流をどう発展させるかということを皆で話し合っていきたいと思っております。

さて、昨年でありますけれども、5月12日に東京において第1回目の日露知事会議が開催されました。プーチン首相もその会議に出席されまして、報告・発表をしてくださりました。そして、私たち知事たちのイニシアチブを高く評価してくださったのであります。今、昨年の会議を第1回会議と申しあげましたけれども、これは新しいロシアにとっての第1回目の日露の知事会議であったからという意味でありまして、もちろん、1968年から1997年まで14回の両国間の知事会議が開催されたというのは、私たち全員がよく知っていることであります。昨年第1回目と申しあげたのは、古い伝統を新しいフォーマットで再生させたという意味での第1回の会議が昨年、行われたという意味であります。日露の知事会議ですけれども、再び日露の指導部の重要な交流のための会議、会談、会合の場となったということが言えると思っております。

さて、このような形で昨年第1回、今年が第2回のこの新生日露知事会議を開催することが可能になったのは、日露の経済協力が非常に活発になったからであります。日露の貿易高が300億ドルになったというのは、記憶に新しいかと思っております。2003年、2004年の貿易高は年間、たったの40億から50億ドルでありました。それと非常に好対照の成果を上げることができたからであります。そして、そのことによって日本はロシアにとって、アジア太平洋地域の貿易相手国としては、中国に次いで最大の貿易相手国となったわけでありまして。

さて、日本の企業でありますけれども、ロシアにおいてさまざまに展開をしております。カルーガ州には三菱自動車工場がオープンし、リペツク市には横浜タイヤがオープンしました。ヤロスラヴリ州では、コマツの工場がオープンしております。これは卑近な例のみであります。

さて、政治の面での対話というものも継続して発展しております。元首級の会談は絶えることなく行われております。国会議員同士の交流も定期的に行われております。これはロシアの国家院議員、ロシアの上院である連邦院議員も参加しての交流であります。

そして、先日、東京で貿易経済の政府間委員会の共同議長会合が開催されました。この共同議長はロシア側の共同議長がロシアの産業貿易大臣、プリステンコ氏であり、そして、日本側の共同議長は現在の岡田外務大臣であります。

さて、ロシアの極東の幾つもの地方と日本の都道府県の間での直接の交流ですが、これもとても盛ん

になっております。また、文化、若者の交流、観光の交流も盛んになっております。このような形でさまざまな分野、さまざまなレベルで交流が活発化しております。ここで特に強調したいのはやはり経済交流であります。それも地方レベルでの経済交流ということに私はアクセントを置き、強調したいと思います。といいますのは、これこそがつまりロシアと日本の地域レベルでの経済交流がより一層活発になるというのが我々の課題であり、また、地域の責任として最大限に住民に貢献できるということでもあります。そして、経済こそが文化交流、政治的な傾向にインセンティブを与えるものであり、我々全体の実り多い対話となるものであります。

さて、最後に呼びかけたいと思いますけれども、すべての分野、すべてのレベルでの協力を活性化すべきであると思います。そのための道、幾つもの道がありますけれども、それを模索するというのがこの会議になると思います。

さて、フリステンコ大臣に次に報告をお願いいたします。

### ー産業貿易大臣(ヴィクトル・フリステンコ)ー

尊敬する皆さん、フリステンコと申します。まず、この光栄なミッションを行うにあたりまして今回の日露知事会議に対する一つの文章を読み上げさせていただきたいと思います。私はこの会議へのメドベージェフ大統領の挨拶文を読み上げたいと思います。

「私は日露知事会議を歓迎する。地域間交流は露日関係の重要な一部であり、広範な方面性にわたり、特に経済分野から姉妹都市関係を含めた文化交流まで多岐にわたるものである。そして、そうした交換が両国の国民の間の信頼関係の拡大に貢献し、具体的な社会・経済問題の解決につながるものである。こうした協力により多くの地域が参加してくることが重要であり、特にヨーロッパ・ロシアだけではなく、極東シベリア・ロシアも参加してくることが重要である。今回の会議が、この会議によって両国の交換、交流がさらなる発展との波源におけることを確信しており、二国間の相互信頼関係の構築につながることを確信している。それは鳩山総理と私の合意である以上、皆様の崇高なる会議を祈る」。

メドベージェフ大統領からの挨拶文でありました。

そして、続きましてルシコフ議長、麻生議長にもしお許しをいただければ、一言、私のほうからも発言させていただきたいと思います。私は発言する権利というものを持っています。なぜならば、私は10年間以上にわたりまして、露日貿易経済・科学技術協力共同委員会の共同議長を務めています。今回、ルシコフ議長と会ったときには、私はまだまだロシアの時間に時計を戻していないということに気づいております。なぜならば、つい最近、日本からの旅から戻ったばかりだからであります。

私の最新の印象、そして、最新のニュースを皆様にお知らせいたしたいと思います。ルシコフ市長は2008年で300億ドルという記録的な貿易高があったということをおっしゃっていますが、それは非常に意義のある数字だと私は思います。特に日本のビジネスがロシアの経済にどれほど進出しようとしているのかということを示す数字であると思います。そして、それは採掘部門だけでなく、ロシア経済の発展につながるような協力への関心を示す数字ではないかと思います。ただ、2009年という経済危機の年を受けて、貿易高というものは著しく減少しております。倍以上の減少が見られました。それは疑いもなく検討、研究に値するものでしょうけれども、特にビジネスに限らず、政府の関係者もその原因を分析するのに、十分な努力をしなければならぬとは思いますが、その分析の目的というのは、新たな成長につなげれば十分だと思います。

いずれにしても、今年の第1・四半期に入って、いささか立ち直っています。私は岡田外相との会合の場でもその情報ができています。ですから、プラス面での情報もあるわけでありまして、つまり、貿易高が減っているものの、一方では対ロの日本の投資の総額はふえておりまして、89億ドルという水準になろうとしているところです。日本は現在、ロシアへの投資国家の重要な一つであるというような段階にきています。ということで、貿易高が減っているのはあくまで一時的な現象に過ぎず、両国間の経済関係の原動力となるファクターにはもっと重要な、もっと長期的なものがあるということが示されていると思います。

ここで特に重要になってくるのは、石油・ガス部門への投資であると思います。サハリン1、サハリン2というプロジェクトへの日本の参加のことを皆様は熟知しておられると思います。そして、いろいろ議論がありましたが、ロシアの港から日本の消費地に向けて、ロシアの石油、原油というものが運ばれ始めていますし、長期的な契約ベースでのそうした協力が発展しつつあることも、現在、疑いもない事実となっております。そして、そのおかげで三井や三菱といった日本の大手商社、大企業をロシアの資源開発にさらに関心を掘り起こすということにもつながっています。特にヤマルという西シベリアの北部のガス田、油田の開発に日本の資本が参加していくということが、そこから生まれていこうと思います。ほかにもいろいろな資源の開発が考えられます。石炭ですとか、あるいは森林資源の開発も可能であると思います。

いずれにしても、私たちの分析ではこういうことが明らかになっています。ロシアの経済、そして、日本の経済というものは、長期的な変換の道筋というものを見出しているのではないかと考えてあります。つまり、イノベーション的な経済、深い意味での近代化への道筋が示されており、単に貿易し合うだけではなく、共同で一定の成果に達するということができるようになっていないかと思えます。少なくとも私たちは新しい可能性、理解を今、模索しておりますし、幾つかの優先的な課題として大統領に示された分野においても、そうした進展が見られています。特に省エネ、航空機製作、IT、宇宙開発に見られます。

そして、ほかにもいろいろな分野があります。私の訪日のときにもガスタービンなどの機械建設工業のことが話し合われましたし、また、日本自動車メーカーの極東ロシアへの進出、あるいはウラジオストクがAPECの開催地となることに向けた協力といったものが政府間委員会の場でも行われました。それは単なる政治家の話というものではありませんでした。政治家は口先で事を言うというのがふだんのことでありますが、ビジネスの実際のプロジェクトにつながるということが現段階の違いであります。特に私は経団連の指導部とも会いましたけれども、経団連のほうからも、やはりこのような方面性での作業を続けていこうという意図が発せられました。

そして、カルーガでの三菱の工場は先月、可動式が行われましたけれども、ロトウボウ(ロシア東欧貿易会)のミッションをウラル地方に派遣するということが6月に予定されていますけれども、それは合同ミッションとして、ビジネスの関係者も、ロシアに経済協力の可能性を探るためにおいでになるということが合意されています。そして、この5月にも円卓会議がロシアで行われます。あらゆるレベルで、多面的に、多層的にビジネス、中小企業、大企業、そして政府、そして地方といったレベル、そのすべてを活用して関係を動かす、経済交流を動かすということになりますが、やはり最近の調査などでわかることですが、日本の大企業が投資先の環境を重視しているということがわかっていきますので、それも一つの我々の政策の目的となるのではないかと思います。

そのことは経団連との会合の場で私は発見したのですがけれども、幾つか経団連が行った調査でネガティブな印象として、日本の企業におけるファクターが取り上げられました。というのは、例えば

法の適用問題が取り上げられました。具体策に至るまで良い法は、必ずしも十分に運用されないかもしれないという、ゆがみが出てくるというようなことが指摘されました。こうしたことはやはりロシアの行政制度そのものが近代化、改革されつつあることにはつながっていることに原因があるのだでしょうけれども、我々政府としては開かれた形で、そうした諸問題を日本のビジネスとともに話し合うべきだと思いますし、こうしたロシアの改革、近代化の一環として行政政府のあり方の自由化も考えるべきなのでしょう。

最後にもう一度、強調したいと思いますが、地域間交流を我々は非常に重視してきました。政府間委員会の中でも地域間交流をテーマとした分科会もありますし、そして皆様方のフォーラムの非常に大きな可能性を秘めた一つのフォーマットではないかと思います。そこで行われる討論、ディスカッションが非常に実のあるものを私は期待したいと思いますし、2つの国の関係に大きな励みを与えるということを確認しております。

#### ーロシア21世紀委員会議長(モスクワ市長ユーリ・ルシコフ)ー

それでは、全国知事会会長、福岡県知事、麻生渡様にご発言をお願いいたします。

#### ー全国知事会会長(福岡県知事麻生渡)ー

本日は、ルシコフ・モスクワ市長をはじめロシアの地方政府代表者の皆様、ロシア21世紀委員会の皆様におかれましては、祝日にも関わらず、全国知事会代表団をお招きいただき、ありがとうございます。

世界は今、金融・経済危機の痛手からようやく立ち直りつつあります。今後とも各国が政策協調することで、景気回復・経済成長を確固たるものにしていかねばなりません。

貴国におかれましては、極東・東シベリア地域を開発し、これらの地域をアジア太平洋に統合させる戦略を進めておられると聞き及んでおります。つい先日も、ロシア極東連邦管区大統領全権代表のイシャエフ氏が来日され、ロシア極東での主要開発プロジェクトが三千億ドルに達する見通しであることを示されました。また、日本企業による投資に大きな期待を表明されました。

2012年には、我々が今回訪問することとしておりますウラジオストクでAPECの会議も開催されます。これを契機にますます極東地域での大規模なインフラ開発も進むものと考えております。

このような状況の中で、シベリア極東の豊富な地下資源の開発に向けまして、今月末には日本の大手商社、鉄鋼メーカーを中心した官民合同のミッションが派遣をされまして、具体的にプロジェクトの進行につきましての話し合いが行われるわけです。このような大きなロシアの発展と、そして、また我々日本との関係が相互補完関係、協力関係のもとに進んでいくということに期待をいたしております。

私ども全国知事会は、まさに地方行政をあずかるものでございます。このような両国間の将来に大きな期待を持つ経済交流、これが円滑に活発に進みますように、それぞれの分野で協力あるいは支援を行う考えです。また、経済交流のみならず、科学技術、環境、青少年あるいは文化といった多面的な分野におきまして、一層、地域間の協力を進め、これを基礎に両国間の更なる発展を目指さねばならないと考えております。

本日は、このような考え方の中で、さまざまな分野におきます地域間交流につきまして、率直な意見の交換を行いたいと考えております。それらを通じまして、我々地域間同士はもちろん、さらに広く日本とロシアとの友好関係の発展、この方向を見出し、また、その発展のために貢献をして



まいりたいと考えております。

私どもの全国知事会は、47 の都道府県により構成されておりますが、今回は8人の代表団が参っております。主としてロシアに近い地方の知事でございます。つきましては、私のほうから日本側の出席者を御紹介申し上げたいと思います。

まず、高橋はるみ北海道知事でございます。

佐竹敬久秋田県知事でございます。

泉田裕彦新潟県知事でございます。

吉村美栄子山形県知事でございます。

石井・一富山県知事でございます。

平井伸治鳥取県知事でございます。

村山寛司東京都副知事でございます。

そして、私ども全国知事会の事務総長、中川浩明でございます。

以上、よろしく願い申し上げます。ありがとうございました。

#### ーロシア21世紀委員会議長(モスクワ市長ユーリ・ルシコフ)ー

ありがとうございます、麻生会長。

それでは、会議を続けたいと思います。今日の会議の進め方ですけれども、まず、皆様方には6分間という時間でスピーチをしていただきたいと思います。その後でディスカッションをするための時間を残していただきますようお願いいたします。そして、麻生会長とともに進めさせていただきたいと思っております。

まず、第1セッションにおきましては、基本的なスピーチ、報告を、そして第2セッションにおきましては、フリーディスカッションという組み立てにしていきたいと思います。そして第1セッションで間に合わなかったお話の部分は、第2セッションのほうでスピーチをいただきたいと思います。

それでは、麻生会長のほうから進めていただければと思います。発言者の方にお渡しください。

#### ー全国知事会会長(福岡県知事麻生渡)ー

知事から発言する前に、河野大使からご挨拶をさせていただきたいと思います。

#### ー駐ロシア特命全権日本大使(河野雅治)ー

よろしいですか。ありがとうございます。

ルシコフ市長、フリステンコ大臣、そして各知事の皆さん、日本側の参加者の皆さん、ルシコフ市長の言葉をかりるならば、再開第2回の日露の知事会議ということでございますが、この長い40年以上の歴史のある日露の知事会議が本日、本格的に開かれるということに、大使として心からお祝い申し上げます。

私がまずフリステンコ大臣にお答えする形でもございますけれども、日本の鳩山内閣総理大臣のメッセージを代読させていただきたいと思います。

「第15回日露知事会議にご出席の皆様、約40年に及ぶ歴史を有する日露知事会議が昨年のプーチン首相訪日時に行われた日露知事同士の意見交換を経て、再び開催されることを歓迎いたします。日露両国政府間では、ロシア側におけるアジア太平洋地域との関係強化という方針を受けて、同地域におけるパートナーとして行動すべきことで一致しております。

こうした中、近年、メドベージェフ大統領がロシアの政治システムの近代化を提唱されているというを受け政府間で議論をしているところでもあります。その一方で、両国の地方自治体同士による地域間交流を深めることは、日露経済関係全体に厚みをもたらすとともに、人的交流及び文化交流の拡大をもたらすものであり、政府間の取り組みを下支えする重要な要素と評価しております。今回の会議における有意義な議論を通じて、両国の地域間での互恵的な協力が促進され、ひいては日露関係全体のすそ野が広がることになるよう、心より期待しております。

平成 22 年5月2日、日本国総理大臣、鳩山由紀夫。

政府を代表する在ロシア日本大使として、一言、二言、申し上げたいと思いましたが、既に市長も大臣も私の申し上げたいことを伝えましたから、もう十分かと思いますが、あえて、一言、二言、追加的に申し上げたいと思います。

皆様がおっしゃったことに私は全く同感なんですけど、あえて違う角度から言えば、日本とロシアの関係というのは、大国と大国の関係でございます。そして、隣同士の関係でございます。それにしてもまだまだ関係は深くなっていない。言いかえれば、将来に向けての発展性、潜在性が非常に大きい関係だというふうに思います。そういうことも踏まえて、外交上は極めて異例なことだと思いますけれども、鳩山総理大臣とメドベージェフ大統領は既に今年2回あるいは3回、時間をかけて政治対話をしようということ为先日の4月に、ワシントンの会議で合意しております。

すなわち6月のG8サミット、そして10月の日本で開かれるAPEC、そして検討中ではありますが、9月のヤロスラヴリフォーラム、ここでももし時間が合えばじっくりと話し合いたい。日本から見ても、これだけ今年3回、総理と大統領とが既に時間をかけて話し合おうというふうに話し合っているということ自体が極めて異例なことで、これからの日露関係の発展に対する両首脳の間期待ということがあろうかと思えます。

フリステンコ大臣とは昨年末に岡田外務大臣が訪ロシアして、年末にもかかわらず、じっくりと話し合われました。そして、それを受けて、今回、4月に大臣が日本に行って、さらに議論を深めていただくと、こういうこと自体も今日の最近の日露関係、政府レベルの関係の深まりを示していると思えます。先ほど経済の関係で幾つかの例をお示しになりましたが、日本とロシアの企業同士でも、我々両国とも経済は非常に危機の状況があったわけですが、そんな危機の中で準備をし、努力をし、そして、ようやく危機を乗り越えるかという時期になって、一つ一つ、その努力の成果が生まれつつあると思えます。

今、ここに同僚の知事の皆様がおりますが、リペツクでの3月の横浜ゴムの起工式、あるいは4月の三菱自動車のカルーガでのオープニング、そして、6月にはヤロスラヴリでコマツの工場がオープンすることが予定されております。そして、ルシコフ市長のためにもう一言申し上げるならば、4月には日本では有名な衣料品メーカーのユニクロが第1の店舗をモスクワにもオープンいたしました。こういった日露双方の努力も、言ってみるならば、厳しい時期の間によく準備をされたことが、ようやく花が開きつつあるということであろうかと思えます。

本日、先ほど麻生知事もおっしゃいましたが、ここに集まっている日本からの知事の方は、言ってみればロシアのほうに向かった、ロシアを見ている知事の皆さんです。日本海に面して、日本海の先のロシアというのを見ている知事の皆さんです。そして、ロシアのほうも昨年、年末にはプーチン首相が2025年に向けての極東シベリアの開発の戦略というものを策定され、そして、再来年のAPECのウラジオストク開催に向かって、極東に目が向いてきております。まさに我々のほうも、そちらのほうも、お互いに向き合っている関係ということで行われてきているわけでもあります。したがっ

て、こういった勢いをいよいよぜひとも私どもは生かして、日露関係のさらなる発展に続けていきたいと思っております。

日本とロシアはこういうことですから、経済も政治も文化の交流、そして人の交流、地域の交流ということをもさらに進めていく時期に来ていると思っておりますが、ロシアからは最近では海外に旅行する方々が大変多くなってきておると伺っています。ごく最近の数字でも3,600万人の方がロシアから海外に旅行する、そして、アジア太平洋地域でロシアの方が一番行きたい国というのは日本だと伺っております。しかし、実際の数字は、ロシアから日本に行かれる方はロシア人で海外に行かれる方のわずか0.2%に過ぎません。これも見方を変えれば、将来の潜在力が大変に多いということだと思います。日本にもっとロシアの方が訪れそして、日本人がもっとロシアに来るといった、人間と人間の交流が日本とロシアを奥深く、幅広く理解することであろうかと思っております。

以上、私が申し上げたことは既に市長ほか、皆様がおっしゃったことだと思います。明日でしょうか、東京都と姉妹関係にあるモスクワ市において、日本から送られてきた桜の植樹式というのがございます。まさにこれから21世紀に発展しようという日本とロシアの関係、この将来の潜在性を秘めた関係を象徴するような桜の植樹式というのが明日、行われることになっております。

そういった、言ってみれば、これから将来にさらに広がる日本とロシアの関係、そういった、その入り口に我々はいるわけですので、本日のこの議論がぜひそれに向けて有意義な会議になるということを中心から祈念して、大使として一言、ごあいさつ申し上げます。ようやく機械も動くようになって本格的な議論ができるかと思っております。どうもありがとうございました。

#### —全国知事会会長(福岡県知事麻生渡)—

それでは新潟県知事をお願いします。

#### —新潟県知事(泉田裕彦)—

ただいまご紹介をいただきました新潟県知事の泉田でございます。前のモニターを見ながらお聞きいただければと思います。

まず最初に、大変すばらしい宮殿で開催される知事会議に参加できたことを大変光栄に存じます。また、フリステンコ大臣、ルシコフ・モスクワ市長を初め、すばらしい会議を設営してくださいました関係者の皆様方に深く感謝を申し上げたいと思っております。

新潟県は極東ロシアと大変交流の歴史を長く持たせていただいております。ハバロフスク市、そしてまた、ウラジオストク市と新潟市が友好姉妹提携をさせていただいております。また、新潟市にはロシアの総領事館を設置していただいておりますので、新潟県民はこぞって大変ロシアは近い国であり、また、親近感を感じている県民性を有しております。この画面をご覧くださいたいんですが、新潟県では日本で最大級のスキーリゾート施設を持っています。また、日本で素晴らしい花火が打ち上がる県でもあります。恐らく世界でも最大ということだと思います。温泉の数も全国で3番目に多く、また、海水浴も夏で可能になっています。真ん中に芸妓さんが写っていますけれども、新潟の芸妓さんは「ハラショー」、芸妓の中でもロシア語の舞が語われているというところでございます。

そして、次のスライドをご覧ください。経済面でも大変ロシアの皆さんとは深く交流させていただいております。新潟港のコンテナ取扱高なんですが、右下の日本地図をご覧くださいたいんですが、日本海側ではやはりかなり多くの部分で新潟港に貨物が集まっております。首都・東京と近いということもあると思っておりますし、それから、さまざまな航路がありますので、富山県と並んで物

流の拠点としてご利用いただくということも多いかと思っています。現在、また試験運航ということで航行を開始しているところですが、ザルビノと新潟の間で直行便を運航できないのかと。これは飛行機と違まして、かなり低廉な価格で行き来ができるフェリーの就航ということを目指して、今、取り組みを進めているところでもあります。是非とも極東ロシアと新潟は近く、また活発な関係というのも、今後も築いていきたいと思っています。

次のスライドをお願いします。また、新潟はエネルギー面でも受け入れ基地となっています。LNGのパイプラインが東北地方、そしてまた、東京を含む関東、さらには名古屋に伸びています。現在、直江津港、左側の小さい左下の方の港ですけれども、ここで中部電力の火力発電所、これはLNGプラントですけれども、この稼働が数年後に予定されています。また、新潟港では重油の受け入れ、10万トン級のタンカーの受け入れも可能ということになっていまして、エネルギー貿易がさらに進展していくことを期待いたしております。

また、新潟側ではウラジオストクで現在建設中の精製所、リファイナリーに大きな関心を持っています。もともと新潟にも精製所はありましたが、現在、輸送基地になっていますので、石油製品貿易の可能性ということも探っていきたいと思っています。来たる5月13日に「日露エネルギー・環境対話」、これがハバロフスク市で行われますので、改めて私もそこに参加させていただきたいと思っていますが、日本の企業、需要側、そしてまた、ロシア側の供給側の企業さんの間で話し合いが進むことを期待いたしております。

最後のスライドになりますが、新潟県内にはエネルギーのほかに精密加工産業も有しております。例えば旅客機の厨房施設、商品の製造メーカーでジャムコという企業がありますが、世界シェアの約半分、50%を持っています。また、洋食器の分野ではノーベル賞の授賞式で使われる洋食器、これが新潟県内でつくられています。精密加工、金属加工の技術を持っています。是非ともロシアとの間でもさまざまな交流、技術協力ができればと思っています。日本酒、それからお米、これは日本で最もおいしい地域の一つと言われております。チューリップの輸出というのも、これはロシアに、特に国際婦人年に合わせた需要で、大変多くお買い上げいただいております。この場をかりて改めて感謝を申し上げたいと思います。

今年にはAPECの食糧安全保障大臣会合も新潟市で開催が予定されております。ロシアからの代表団のご来県を心からお待ちいたしております。加えまして、この交流を活発化するために、ビザの要件が日露両国で緩和されて、さらに地域レベルの交流が進むことを期待いたしております。日露の地方間の交流がさらに進むことを祈念いたしまして、新潟からのご紹介とさせていただきます。ご清聴どうもありがとうございました。

#### ーロシア21世紀委員会議長(モスクワ市長ユーリ・ルシコフ)ー

どうもありがとうございます、泉田知事。

さて、次の報告ですけれども、ハバロフスク地方のヴァチェスラフ・シュポルト知事に報告をお願いします。

#### ーハバロフスク地方知事(ヴァチェスラフ・シュポルト)ー

尊敬するルシコフ市長、尊敬する麻生知事、そして尊敬するこの会合の日本側、ロシア側の参加者の皆様、ハバロフスク地方のプレゼンテーション、詳しいプレゼンテーションはちょうど1週間前に東京で行いましたので、我が地方に関する詳細なご紹介はこの会議ではいたしません。全体的

な普遍的な問題ということを私は述べていきたいと思ひます。

では、まず、この日露の知事会議を復活して下さったルシコフ市長、麻生知事のイニシアチブに感謝をしたいと思ひます。この日露知事会議はかつて頻りに開催されていたわけですが、それが復活されたということを楽しんでおります。そして、今日の会合がロシア国内で開催されるということも、とても重要であると思ひます。この日露の知事会議は日露の両国にとって重要な意味を持ち、そして、有益、有意義な会議であります。まさに地域においてこそ、人々の日常生活が営まれているのであり、日本、ロシア、両国の政治・経済の出来事に直接関係のあるという人々の暮らしというのは、地域においてこそ営まれているからであります。したがって、知事同士の会合というものは極めて重要な意味を持っているのであります。

ハバロフスク地方は何十年にもわたって日本の幾つもの地方と友好交流というものを維持してまいりました。兵庫県、新潟県、青森県の3つの県と友好的な交流を行ってきたのであります。近年、この交流はチャンネルが整備されてきたというのが特徴でありまして、ハバロフスク地方の行政府とこの3つの日本の各県、つまり、県庁との交流というものが基本としてあります。

そして、さまざまな形での交換交流が行われておりまして、研修生の交換、若者交流、スポーツ交流、そして子どもたちの交流というものが行われております。国際フォーラムにも参加しており、環境保護にも精力を傾け、そして経済ミッションなども互いに派遣している所以であります。

まず交流のことについてお話するに当たりまして、若者、そして子どもたちの交流から始めたいと思ひます。日本の子どもたちがハバロフスク地方で夏のキャンプで何日か、1週間以上過ごすということを毎年やっております。そしてハバロフスクの子どもたちですが、日本のこの3つの県でホームステイを楽しんでおります。

さて、次に兵庫県との交流ということをまずお話ししたいと思ひます。兵庫県とハバロフスク地方の交流は、日本の3つの県の中では最も歴史が深いからであります。昨年は友好交流が始まってから40年でありました。そして兵庫県の井戸知事を団長とする兵庫県の代表団がハバロフスク地方を訪問して下さりまして、ハバロフスク市のジナム公園に40本の木を植樹し、記念碑というものをオープンしたのであります。

さて、白いコウノトリですが、この鳥は兵庫県のシンボルでありましたが、兵庫県内では実は何年か前に完全に生息が消滅していたのであります。これをハバロフスク地方と力を合わせることで、極東白コウノトリ110頭が現在、兵庫県で生息しております。つまり、本来の自然の中での生活にこの鳥が戻っているという画期的なプロジェクトでありまして、地球上の生物多様性の維持にハバロフスク地方と兵庫県が多大に貢献したという、大変すぐれた交流の実績であります。

次に新潟県との交流ですが、既に20年以上の友好交流があります。44年前に新潟市とハバロフスク市との間に定期航路が就航したというのが友好的な交流の始まりでありました。新潟県との交流には特徴があります。行政府間の交流が活発であるということはもちろんでありますが、実はこの両地域は経済交流が着実に発展している所以であります。毎年、新潟県の経済ミッションがハバロフスク地方を訪問し、商談を初めとしてさまざまな活動を行っております。最近の最大の成果は一昨年2008年にハバロフスク市のサンベリというショッピングセンターに、「新潟おもてなし館」というところがオープンいたしました。

この「新潟おもてなし館」というところでは新潟県名産の食品が展示即売されております。ナシや桃、イチゴ、そして切り花、さまざまなソース、日本の新潟特産のお米からつくられたさまざまなお菓子などが売られています。そして、ともに力を合わせた結果、経済危機が私たちを襲う直前には、

新潟の特産品のハバロフスク、そして沿海地方への輸出高は年間 3,000 万ドル以上の規模になりました。

さて、伝統的な交流である学術交流についてもお話したいと思います。ロシア科学アカデミー極東支部の経済研究所、これはハバロフスクにあります、そこは新潟市にあります ERINA 日本海経済研究所の協力というものが既に長年の実績を誇っております。ロシア極東と日本の地域交流の経済的な側面、経済的な局面の研究というものに特に力を入れているのであります。

さて、今年でありますけれども、今年 5 月 13 日にハバロフスクで第3回の日露の対話が行われます。この対話の名称ですけれども、北東アジア、ロシア極東におけるエネルギー協力の新しい環境及び経済的な条件というものでありまして、エネルギー分野における強力な展望というものを協議することになっています。

さて、これまでご紹介した新潟県との交流ですが、実は実績のごく一部であるわけです。そして、最後に強調したいのですが、日露の地方政府はそれぞれの国の市民の日常生活と直接、そして密接に結びついているのであります。だからこそ、地方政府こそがロシアの市民、日本の国民の生活全般の気分というものを相当に大きく決めているのであり、日露国民の関係の性質を規定するということが大いにあるわけでありまして、ご清聴どうもありがとうございます。

#### －北海道知事(高橋はるみ)－

北海道から参りました高橋と申します。

昨年5月、東京で行われました再開1回目の会合に引き続き、今日、参加をさせていただきました。まず、冒頭、ルシコフ市長を初め、ロシア側の皆様方、大変に温かいおもてなしをいただいておりますことに心から御礼を申し上げたいと思います。このすばらしい宮殿に泊まらせていただいた思い出というのは、私にとって一生の思い出になるのではないかと、このように思っているところでございます。そして、フリステンコ大臣からも地域間交流の重要性ということを政府の立場からもおっしゃっていただき、大変心強く思ったところでございます。

私たち北海道は 1992 年から広いロシアの中の極東3地域、サハリン州、沿海地方、ハバロフスク地方、この極東3地域との間で経済協力のプログラムを策定をし、ここまでさまざまな協力を進めてきたところでございます。そして、今日はこういった極東の地域の知事さん方に加えまして、広いロシアの多くの地域から知事さんが参加をしておられまして、そういった地域の皆様方もぜひ北海道、モスクワ市を初めとして皆様方と仲よくしたいという思いで、今日、参加をさせていただいたところでございます。私ども北海道の概要版は、資料がたくさんある中のこういったツルがあるこの冊子にございますので、後からごらんをいただければと思う次第でございます。

さて、私たち北海道は極東3地域との交流が今までの主たる内容だったわけでありまして、そこではやはりこれからの交流をさらに進めるために、航空路線の整備ということも重要であろうということをおもひまして、既にサハリン州との間では北海道の中の2つの都市、札幌と函館のそれぞれの間で既にサハリン州との間は航空路線があるわけでありまして、一昨年秋、沿海地方とハバロフスク地方にお邪魔をして、当時の両知事、先ほどプレゼンテーションされた知事さんの御前任の知事さんでございましたが、議論をさせていただき、定期便を北海道との間でぜひ協力をというお話をし、今、チャーター便をまずはハバロフスクと札幌との間で実現をいたしましたところであり、これをさらに定期便化したいということをおもひまして、ご協力をお願い申し上げたいと思います。

やはりこういったインフラ整備というのが直接的な地域と地域の交流のためには、私は大変重要

だと思っているところでございます。こうした航空路線に加えて、サハリン州との間にはフェリー航路もございます。こういったことも活用しながら、観光、物流、人の交流、こういったものの活発をさらにやっていきたいと思っております。

また、我々北海道の経済交流の支援体制という点であります。サハリン州のユジノサハリンスクには直営の北海道の事務所を設置をしております。また、道内の銀行であります北海道銀行が昨年3月に、同じくユジノサハリンスクに事務所を開設をしているところでございまして、この同じ銀行がハバロフスク市、そしてサハリン州政府との間で経済協力協定を結ぶなどの体制をとっているところでございます。

さて、こういった交流分野のさらなる発展のために、私は2つの提案をさせていただきたいと思っております。それは、先ほどフリステンコ大臣のごあいさつの中でもちょっとあったわけですが、私たちの貿易あるいは投資を進める上で、さまざまなロシアの国の制度の面で、私たちが戸惑うことがある場合があるわけがあります。例えば北海道の企業のケースでいいますと、タマネギといった生鮮食品を輸出をしようとしたのですが、10日間程度、保税倉庫にとどめ置かれまして、生ものでありますので鮮度を失ってしまったというケースなど例が幾つかございます。

私たちは地域間の経済交流をさらに活発化するためには、こういった事態を少しでも少なくするために、まずは地域対地域の中の政府間で効果的、効率的な情報交換の仕組みづくり、これが重要だと思っております。また、こういった情報交換を踏まえて、地域間の経済交流の促進を阻んでいる制度などの改善について、日本、ロシア、双方の政府、中央政府に対し、強く要請をしていくなどの働きかけを共同でやっていく、このことも重要だと思っております。皆様方に提案をさせていただきたいと思っております。

また、経済分野でのもう一つの提案は、環境エネルギーの分野での提案であります。私ども北海道では、一昨年、G8サミットが行われまして、メドベージェフ大統領もご出席をいただいたのでありますが、その際に世界のメディアを招く国際メディアセンターの施設を丸ごと北海道の雪冷房、雪を使った冷房でおもてなしをいたしました。こういった雪氷エネルギーの活用、あるいはその他の新しいエネルギー分野の活用ということについて、ぜひ地域対地域の企業あるいは政府同士あるいは研究者相互の交流ということをぜひ提案をしていきたいと、このように思う次第であります。

以上が経済関係であります。次に人的交流について幾つか申し上げたいと思っております。昨年5月、東京で開かれました日露の再開第1回の会合の際に来賓としてご出席されたプーチン首相から、地域間交流の例として北海道とサハリン州とのやけど治療を中心とした医療交流について触れていただきました。これはサハリン州で全身やけどを負った少年を北海道に運び、そして治療をしたという経験でございます。私はプーチン首相のこのお話に、こういうことを触れていただいたことに大変感激をいたしましたところでございます。私たちお隣同士の地域では、医療の向上、医療の交流ということを通じての人的交流も重要だと思っております。私たちは今、申しました1990年のサハリン州の少年のやけどを一つの契機として、サハリン州の医者に北海道の医療機関で研修を行ってきているという交流もさせていただいております。

また、人的交流では青少年交流も重要であります。私はもう一つ大学間交流ということにも触れさせていただきたいと思っております。このことにつきましてはサハリン州とも我々はやらせていただいておりますが、また、沿海地方にございますロシア極東大学と交流も進めております。函館市という街が北海道にございます。この函館は日本で最初にロシアの総領事館が開設された地でございまして、それから150年以上の交流がございまして、

この函館市にロシア極東大学の分校がございます。そして、この分校でいろいろな文化の交流、そして学生がロシアの文化を学んでいるわけでございます。去年、この場所でロシア文化紹介センターが開設された際に、ラヴロフ外相にご来道いただき、私たちも大変感激をいたしましたところでございます。ロシア極東大学には本の寄贈を初めとして、さまざまな交流もさせていただいております。私はこうした経済交流あるいは人的な交流、文化交流、こういったものを今、極東の皆様方とやっております地域交流の場を、さらに広げていきたいというふうに考えているところでございます。

最後に、私から北方領土問題について、その地域を含む北海道の知事として、一言、触れさせていただきたいと思っております。メドベージェフ大統領と鳩山首相、鳩山首相は北海道を選挙区とする初めての総理でいらっしゃると思いますが、この両首脳は首脳会談において、両国間の政治と経済の問題を車の両輪のように進めていくことで一致し、自分たちの代で領土問題を解決していこうという意欲をお互いに述べ合っておられるところであります。私はこの北方領土問題を抱える地元の知事として、隣人同士である北海道とロシア極東地域はもとより、日本とロシアのそれぞれの地域間において真のパートナーシップを築き、協力と連携を進めていくためには、北方領土問題が解決され、日露平和条約締結につなげることが大変重要と考えているところであり、本日、ご出席のロシアの各知事の皆様方におかれても、この問題へのご理解を深めていただき、解決に向けた環境整備に取り組んでいただくことを強く期待するものであります。ご清聴ありがとうございました。

#### ーサハリン州知事(アレクサンドル・ホロシャヴィン)ー

皆様、こんにちは。ルシコフ市長、麻生会長、そして、ご列席の皆様、改めてごあいさつを申し上げます。

さて、両国の関係は近年でありますけれども、地域の交流、地域の関係を活性化するというところにますます注目が集まっております。そして、私たちでありますけれども、日本の地域との会合、そして、このような日露の知事会議でありますけれども、とても喜ばしい出来事であると思っております。このようなフォーマットの交流、そして、会合こそが両国の関係を最もよく改善するのに貢献する関係であると思っております。

さて、サハリン州でありますけれども、対日貿易というものが州の経済にとっても大きな意味を持っております。そして、つい先週といってもいいと思っておりますけれども、ロシアの極東連邦管区の代表団の一員として、私、サハリン州の知事もこのミッションに参加いたしました。そして、日本の経済界、日本の政界の方々との幾つもの会合を持ち、私たちの先日の訪日で最後の、そして一番大きな出来事となったのが、日本の鳩山総理大臣との会合であります。そして、私たちですけれども、サハリン州のプレゼンテーションを日本で開催するというのを予定しておりました、予定よりはその開催が少し先送りされておりますけれども、ぜひ、近いうちに開催するというのを予定しております。

さて、対日貿易ということからお話をまたしていきたいと思っております。2009年のサハリン州の対日貿易額は実績は33億ドルでありました。そして、サハリン州の貿易相手国としては、日本が最大のポジションを維持しているのであります。今年、2010年の1月から3月までのサハリン州の対日貿易額は既に15億ドルになっております。サハリン産の石油の輸出というものが対日貿易でも大きな位置を占めているのでありますけれども、2009年の日本向けのサハリン産の石油の輸出実績ですが530万トン、金額にして24億ドルでありました。今年の1月から3月のサハリン産の石油の日本への輸出実績は160万トン、金額にして9億ドルを超えておまして、ほぼ10億ドルに近い金額になっております。



さて、サハリンといいますが、石油・天然ガスのプロジェクト、サハリンはサハリン2というのが皆様、よくご存じのとおりでありまして、日本を代表する企業、三井、三菱という企業が参加をしておりますし、また、日本のソデコ(サハリン石油開発)という企業が参加をしております。そして、また日本のJBIC国際協力銀行ですけれども、サハリン2というプロジェクトに関しましては、最大の資金の貸し手という地位、ポジションを維持しているのです。さて、日本からサハリン州への投資でありますけれども、その実績の総額、累計額は26億米ドルを超えております。

さて、私たちの国でありますけれども、私たちの州の輸出先としても日本はとても重要な地位を占めております。伝統的なサハリン州から日本に向けての輸出産品といいますが、水産物ということになります。2009年の実績は、金額にして9,150万ドルということになります。また、石炭、そして木材、製材といったものも日本に相当の額を輸出しているのです。

さて、次は日本の地域との交流ということをお話したいと思います。サハリン州にとって日本の地域交流という面でも、最も大きな意味を持っているのが北海道との関係であります。一昨年、2008年にはサハリン州と北海道が友好協力協定を調印してから、10周年という節目の年でもありました。極東と北海道の経済協力プログラムとして常設の合同委員会というものも設けられました。そして、今年2月に北海道銀行とサハリン州が経済協力協定というものを調印いたしました。

北海道銀行は2009年3月からユジノサハリンスクに事務所を開設して、非常に活発なお仕事を展開されています。昨年のこのユジノサハリンスクの事務所を開設してまだ日が浅いときに、北海道銀行はセミナーの開催をいたしました。このセミナーのテーマは2020年までのサハリン州発展戦略の枠内での投資プロジェクト実現への北海道企業の参加というものであります。北海道から67の企業が参加いたしました。

そして、今月同様のセミナーが札幌で開催されるという予定になっておりまして、サハリン州政府も参加をいたします。どういってお話をするかということは、そのセミナーを楽しみにしていただきたいと思いますが、一言で申し上げますと、石油・ガスプロジェクトも含めた燃料・エネルギー分野そして、サハリン州のガスへの転換という分野への日本の皆様の参加を待っております。

そして、ウグレゴルスク市そして、サハリン州の特に西岸、西の海岸におきます石炭の開発、石炭の生産というものにも力を入れて、そこにも日本企業の参加を仰ぎたいと思います。高橋知事が先ほどおっしゃった省エネという問題、そして小規模な発電というもの、そして非伝統的な発電の方法ということに関しまして、サハリン州政府としても大変の関心を持っているプロジェクトであります。また、輸送インフラの整備・建設といったような分野でも強力に関心を持っておりますし、そして、住宅の建設に関しましてはサハリンにおいて、日本の寒冷地の住宅建設テクノロジーを活用した建設というものが既に実績を持っております。中小企業、観光といった分野でも今後、協力が大いに発展していくことを願っております。

さて、経済交流がとても重要でありますことは、疑いの余地はありませんけれども、文化交流、人的交流ということも当然、大切なのであります。姉妹都市提携を含めて友好協力というものに大きな実績を持っております。サハリン州と北海道の市町村、人々の交流というものも活発に行われております。今年6月に札幌でこういった友好的な交流にテーマを絞った会合が開催される予定であります。既に高橋知事もお話してくださったことでもありますので、それを繰り返すことはいたしませんけれども、北海道とサハリン州の交流はビザなし交流というものでも実績があります。日本の人々がサハリン州を訪れた人が901人、一部、南クリル諸島から日本を訪れた人も350人がいらっしゃるわけでありまして。

さて、係争に関する領土問題であります。この大変な簡単ではない問題に関する協議というものは最高のレベル、つまり、両国の外務省レベルで開催されるべき、行われるべきであると思います。私たち全員が目撃者となっているのは、我が国のメドベージェフ大統領も、そして日本の鳩山首相も非常に緊密な形で、そしてダイナミックな形で、この問題に関しましては作業を行ってくださっているということでもあります。

私たちがすべきなのは、経済・文化協力に専念するということであるかと思えます。つまり、それぞれの地域の人々の生活のレベルをより一層向上させ、そして福祉を向上させるということでもあります。少なくとも私自身は、知事としてはこういった問題、課題というのが私たちにとっての最大の課題であるという考え方です。日本の経済界の人々との協力ですけれども、クリル諸島における協力というものに対する行う用意がありますし、また友好交流、そして地域同士の交流が今後、ますます展開していくという気持ちです。

### －鳥取県知事(平井伸治)－

尊敬するルシコフ市長、尊敬するプリステンコ大臣、尊敬する知事の皆様方、私は平井伸治と申します。鳥取県知事でございます。お会いできて大変光栄に思います。

ロシアには日本で有名なすばらしい女性がいます。その方の名前はクラウディアと言います。このクラウディアという女性は蜂谷彌三郎と出会い、結婚しました。しかし、これは不幸な歴史が重なり合っています。第二次世界大戦が終わったとき、彌三郎は北朝鮮の平壤にいました。そこで奥様の久子夫人と子どもと別れてシベリアで抑留生活をおくることになりました。

その後、彌三郎は実際にはハバロフスクとか点々といたしまして、最後にアムール州のプログレス村にたどり着きます。この村でクラウディアという女性と出会いました。当時、体制の問題があって、ソビエト連邦にいた彌三郎は日本に帰れない、そう考えた二人は結婚をしまして、37年間、愛を育みました。

そして体制が変わり、ソビエトはロシア連邦に変わりました。自由に往来ができるようになったときに、彌三郎の奥様である久子さんと、それから子どもたちが生きることがわかりました。クラウディアは優しい心の持ち主で、彌三郎にもう一度、日本に帰って、元の家族と暮らすようにと勧めます。37年間連れ添った後、1997年に彌三郎は帰国をしました。クラウディアは手紙を書いています。「他人の悲しみの上に私だけの幸福を築くことはできない。私はあなたの最愛の妻であり、最も理解する友達であったことを忘れないでほしい。」このように書きつづった手紙を送りました。

この物語は出版をされました。2回、演劇にもなっています。昨年、公演をしたときにはロシアの女優がクラウディアを演じました。この物語は絵本にもなりました。昨年は日本の子どもたちの読書感想文の課題図書になりました。日本全国の子どもたちが読みました。ロシアには心の優しい人がいる。そして、分かり合える友人だということを知り、子どもたちも、私たちも学んだという歴史があります。私たちはここに国境を越えてロシアと日本から集いました。人々の交流を促進をして、本当の友情を深め合うことが必要でありますし、繁栄を築くことこそ知事や市長の使命だと思います。今日はぜひ建設的な議論をしたいと思えます。

目の前の画面、皆さんのお手元にも資料をおつけしておりますし、後ろにパネルもございます。日本の鳥取県境港からロシアのウラジオストクまで、毎週1便の定期航路が動いております。これは人も貨物も乗ることの出来る船であります。ウラジオストクから観光やビジネスで訪問しようとする220ドルの運賃で境港まで来ることができます。これはロシア、韓国、そして日本の自治体同士が協

かし合って、今、応援をしている路線であります。この船で本当の意味の日本とロシアの交流を拡大することができないかと期待をしています。

先ほどアルタモノフ知事と話をしました。三菱自動車の工場が建設をされたという話を聞きました。三菱自動車の工場の本拠地は鳥取県のすぐ隣にあります。例えば部品を運ぶときにこのような船を使いまして、そしてシベリア鉄道でモスクワやその近辺に運ぶことが可能ではないでしょうか。先ほどシュポルト知事とも話をしました。当然、そのような船があるなら、ハバロフスク経由ですばらしい鉄道路線がシベリアにはある。そうやって運べばいいんじゃないかというご提案がありました。このようなプランを次々と実行していくべきだと思います。

例えば今、日本の自動車会社がサンクトペテルブルクとか、いろんなところに物を運ぼうとします。スエズ運河を通じて40日かけて運ぶのです。もしこの船とそれとシベリア鉄道を使えば、20日間ぐらいで半分の日程で運べるんです。ロシアはアジアとヨーロッパを結ぶユーラシアの大国です。そのヨーロッパとアジアの両方の顔を持っていることをロシアは絶対に生かすべきだと、それが大国としての務めであり、メリットであると思います。

日本海を挟んで日本とロシアは隣国です。不幸な戦争はありましたけれども、友情や愛情の物語には枚挙にいとまがありません。我々は協力して、むしろ新しい世界をロシアと日本のパートナーシップで開くことができるのではないかと思います。鳥取県はウラジオストクに、TOTTORI TRADE CENTERという貿易センターをつくりました。この写真にあります。その航路も写真にあるとおりでありますけれども、韓国の会社が運営をしております、韓国とロシア、日本との間を定期的に行き来をするようになりました。時代は変わりました。

次のファイルをお願いします。これはその船でとりあえず今、運んでいるものです。例えば自動車ですとか、スイカですとか、モーターボートですとか、そういうものを運んでいます。鳥取県ではさらに生鮮食品を運べないかと模索をしまして、マイナス25度というコンテナを製作をしまして、これでお互いに行き来ができないかという模索をしています。いろいろと知恵は出せると思います。皆さんもこの船を活用するなりして、ぜひ鳥取のほうにも来ていただきたいと思います。

鳥取県には世界ジオパークネットワークに加盟しようとしている山陰海岸ジオパークがあります。西日本で随一のスキー場、大山のスキー場などがあります。そのほか、マグロ、ツナの漁獲高は日本で境港が一番であります。温泉の写真がございまして、鳥取には10を数える温泉があります。この写真にありますように、ロシアの女性も温泉に鳥取で入っていただければ、もっともっときれいになると思います。

ともにパートナーシップで新しい時代を開く建設的な議論を期待しまして、私からのまずは報告にかえさせていただきます。

#### ーカムチャツカ地方知事(アレクセイ・クジミツキー)ー

ルシコフ市長、どうもありがとうございます。皆様、こんにちは。尊敬する同僚の皆様、こんにちは。

カムチャツカ地方は地理的な位置というものを思い浮かべていただきますと、日本も含めたアジア太平洋地域の諸国との協力ということに関しまして、地理的な優位性を持っているということは、ご想像にかたくないと思います。

さて、カムチャツカ地方と日本との貿易高は米ドルにして約1億ドルという規模になっております。主に水産物を日本に輸出しております。また、カムチャツカ地方は自動車も含めました日本の機械、そして日本のさまざまな技術的な技術開発、製造業の成果といった形の製品を大変好んで輸入を

しております。そして、不凍港があります。この不凍港ペトロパブロフスク＝カムチャツキーは日本からヨーロッパへのルートというものには南のルートもありますが、北の方面でのルートということを考えるに当たりこの不凍港というものはとても大きな役割を持っていると思います。

さて、投資プロジェクトについてはこれをともに協力して行うという覚書というものが締結されました。ソデコバンクというカムチャツカの銀行と日本の銀行との間で覚書が調印されたわけでありませう。カムチャツカ地方の幾つものプロジェクト、日本において共同での事業、あるいは合弁企業を開設するという含めて、現在、協議をされているわけでありませう。そして日本文化センターというものがカムチャツカには開設されております。そしてサクラという子どものさまざまな文化関連の行事を行うクラブがありますが、そこで子どもたちが日本の文化に幼いときから接するという機会を得ております。そしてさまざまな芸術家の人たち、そして例えば踊り、そして音楽といったような分野におきまして、さまざまなグループ、芸能集団という人々がお互いに相互を訪問して、お互いの地方、お互いの国で公演をしております。

さて、研究者同士の交流というものが行われています。特に地震に関しまして、その予知、そしてもし災害が起きてしまった場合に、どのように事後処理をすればいいかということで、協力、共同研究を行っています。火山の噴火、津波ということに関しましても、研究者が共同研究を行っているわけでありませう。

さて、これまで最近の10年間でありますけれども、大学間の交流も盛んになっております。現在、カムチャツカ地方政府では水産物、そして鉱物資源も含めた形でのさまざまな共同での調査、そして観光分野での交流の促進というものに力を入れております。また、水産物に関してもカムチャツカ地方において、相当に高度な加工を行うという形で協力も重要であります。淡水をどう確保するかというプロジェクトも大きな意味を持ってありますし、また、発電に関しましても小規模発電というものですが代替的な発電の施設というものも含めまして、とても大きな将来性のある強力な分野であります。ホテル建設を含めた環境業に関しましても、今後、大きな協力の余地があると思ひます。

カムチャツカの西側の海中には天然ガスの埋蔵量も含めて大きなものがありまして、今後、開発ということも将来性があると思ひます。また炭化水素資源を開発をし生産をして、それを輸送するというので、例えばサハリンにおける液化天然ガス、天然ガスの液化プロジェクトというものにも、カムチャツカ地方の企業も含めて貢献ができるかと思ひます。

そして、カムチャツカには豊かな自然というものも大いなる観光資源であります。火山も含めて地下泉、間欠泉も含めて日本の観光の旅行者の人々の関心を引くものがあります。

2009年の観光客の数ということでは、日本の方々が外国人の中では最も多かったわけでありませう。カムチャツカ地方と日本との間の交流を行うに当たりカムチャツカ地方と日本との直接の航空路の開設というものが今後、大きな意味を持ちます。特に東京への直行便ということが私たちにとっては一番大きな関心であります。また、クルーズということでも将来性があると思ひます。

またペトロパブロフスク＝カムチャツキー市はリゾート施設として現代的な設備を整えた観光施設の建設が現在、予定されております。また、冬のスポーツということに関しましても大いに将来性があります。カムチャツカの雪はスキーも含めて冬のスポーツを楽しむには、最適な条件を持っており、最適な施設を持っているのであります。また、泥による治療というものも大いに人々の関心を呼び起こすと思ひます。また、外傷や病気後のリハビリということに関しましても、天然の温泉も含めて、リハビリをする場所としても今後、大いに将来性があると思ひます。

私たちの行政の中心のペトロパブロフスク＝カムチャツキーから50キロという大変近い距離に大

いに将来性のある火山、さまざまなリクリエーション施設での将来性のある火山があります。

スポーツでは例えばカヤックといったようなものを楽しむ人々、また、火山に関連した、そういった非常にアクティブな形でのスポーツを楽しんでいただくこともできると思います。4月の半ばにバイアスロンの国際大会の第2回目の大会が開催されました。世界の18カ国からバイアスロンの世界的に有名な選手が皆、参加された競技会でありました。また、冬のスポーツに関しましては、さまざまな国際大会が行われています。また、いわゆるスポーツを楽しんでいただける小さな町というものもでき上がっております。

今後の計画では観光のインフラ整備という計画が幾つもあります。そして、国際的なレベルでのスポーツ施設をつくるということがすべて計画されております。2016年には国際バイアスロン大会が行われることになっております。投資家の人々にはこういったスポーツ施設、リゾート施設がまだ計画の段階であっても、大いに関心を呼んでいるのであります。

さて、カムチャツカの行政政府を代表して申し上げたいことがあります。州の立法府に関しましてそれを代表する形でお答えしたいと思うんですけれども、さまざまな商業的な機関、すなわち企業の皆さんの投資というものも含めてであります。州の行政政府を含めて全面的にサポートするのが私たちの行政政府の立場であります。アジア諸国、そして日本の諸国の人々の観光であります。そういった国々にカムチャツカ地方から人々が観光客として訪れるということに関しまして、将来性があると思います。

さて、ビザとアクセスであります。カムチャツカに来ていただくには、航空路で飛行機に乗ってきていただくということになると思いますがビザの取得というものが現在、大きなネックとなっておりますので、日本からカムチャツカ訪問する場合に関しまして、また、カムチャツカから日本を訪問する場合に関しまして、ビザの取得がより容易になるということも含めて、今後の協力をお願いしたいと思います。どうもありがとうございます。

#### ー トムスク州知事(ヴィクトル・クレス) ー

ありがとうございます。ルシコフ、麻生共同議長を初めとする同僚の皆さん。

私は既に2回目としてこの会議に参加しているところですが、私が昨年初めて会議に参加したことの成果というのは、トムスクがアジアの大都市ネットワークに招待いただいたことでもあります。その組織はアジア太平洋地域の大都市の連盟です。私は日本側がいかにインフラ、そして資源開発を重要視しているか、十分に理解しているつもりであります。しかし、特にロシアの極東、東シベリアでの資源開発、インフラ整備、資源開発のみに日本側の参加が絞られることには賛成できません。それよりはハイテクイノベーション的なプロジェクトへの参加を大いに期待したいと思います。

そこでトムスクがどういう役割を果たせるかについて申し上げます。トムスクの科学技術の中心としての役割について、前回に申し上げたので今回は申し上げませんが、いろいろな国のエキスパート、有識者がトムスクの役割を十分に評価していることだけを申し上げておきましょう。

そして、日本との協力の成功例も既にあります。その一つの成功例としてパナソニック社のR&Dセンターがトムスクに開かれておまして、パナソニックロシアがR&Dセンターをトムスク特別経済区域の受供者とするという意図を示しています。もう一つには、トムスクの強電流エレクトロニクス研究所が日本のソディックなる企業に対してライセンスを与えて、金属表面加工技術が日本で使われているようです。また、トムスクの共同物理学研究所もヒライズミという企業に対して、フィッダー製作をめぐる技術のライセンスを与えています。

もう一つの分野としては大学間交流でありまして、日本には多くのトムスク出身の科学者が活動しています。しかしながら、こうした協力だけではまだまだ十分に我々の潜在能力を生かしているということにはなりません。より大きな成果に達することができると思います。トムスクでは、既にロシアの科学者が自分のアイデアを商用化することを促進するための技術センターが活動しているんですが、そうしたインフラに日本の皆さんもより積極的に参加してくださることを期待したいと思います。そういうことによって、協力の妨げとなる情報不足問題の解決にもつながると思います。

この機会を得まして、知事の皆様方のそれぞれの県で活動している企業に対して呼びかけたのですが、トムスクの技術開発とのかかわり、そして合弁会社などの参加を強く呼びかけたいと思います。例えば共同でベンチャーファンドなどをつくった場合、ロシアでの開発成果をアジア、日本の市場に向けて商業化できるんじゃないかと思います。こうした作業への地方政府としての支持が十分約束できるということです。

もう一つの有望な方面は教育であります。現在、トムスク工業大学はガस्पロムの需要によって、LNG専門家を育成し始めています。日本の企業にもそうした専門家への関心があるでしょう。そこでロシアで人材育成を考えることは、あり得るのではないかと思います。例えば日本の企業家や学生がロシア語学習をトムスクという寛容性で有名な町で行えばどうかと思います。ほかにもトムスクを逆に日本語学習者のためのセンター、その一つの中心地としたいとも考えています。ロ中、ロ米、ロ独の同じようなセンターがトムスクに既に開かれておりまして、活動しています。

そして最後に幾つか、この会議の仕事に進め方についての提案がございますが、私の意見としては我々はより具体的な、より問題のあるような点で討論をシェアすればよいと思います。例えばロシアでのイノベーション投資あるいはインフラ整備はどうするかのような問題です。ほかにもロシアのいろんな町でこの会議を開けばどうかと思います。こうしたことをすることによって、皆様方がロシアへのことによりよく理解していただけたと思います。来年は東京ということで、例えば再来年の会議をトムスクで行えばどうかと思います。ご検討いただきたいと思います。ありがとうございます。

#### －山形県知事(吉村美栄子)－

皆様、私は山形県知事の吉村美栄子でございます。皆様とお会いできてうれしいです。

ロシアの文学作品を幾つか読みました。ドストエフスキーやトルストイ、そしてツルゲーネフなど偉大な作家を生んだこのロシアを訪れて、本日、皆様方とお会いできたことを大変光栄に思っております。また、このすばらしい宮殿での豪華にして、大変親切なおもてなしを受けましたことを心より感謝を申し上げます。

さて、山形県でございますけれども、日本の本州東北部の日本海側に位置しております。東京から北に向かって300キロメートル、山形新幹線では約3時間の距離でございます。その名のとおり、山の多い県でありまして、四方を山々に囲まれた地域の内陸と、日本海側に面した平野部の庄内から成り立っております。それぞれの地域で個性豊かな歴史や文化を培ってきました。日本を代表する大河の一つ、最上川が県内全域を流れ、都市と農山村もバランスよく並んで、自然風土と人間社会の調和が、今でも理想的に保たれている県でございます。19世紀に山形県を訪れたイギリスの旅行家、イザベラ・バード女史がこのような山形県をごらんになって、著書の中で、ここはアジアのアルカディアであると記しております。アルカディアとは古代ギリシャの理想郷のことでございます。

豊かな自然、そして寒暖差の大きい山形の気候は、たくさんの食材をもたらしております。皆様方のお手元に配らせていただきましたこれは、山形県の新しいお米でございます。つや姫という名

前で、今年の秋に本格デビューしますが、日本を代表する最もおいしいお米の一つになると思います。それから、生産量・品質ともに日本一のサクランボ、それから、全国的に高い評価を得ている牛肉、山形牛、また日本酒やワインなど、たくさんおいしいものがございます。特に果樹につきましては、サクランボのほかに、スイカ、メロン、ナシ、桃、ブドウ、リンゴ、柿など、春から秋まで多彩な生産を誇る果樹王国となっております。その豊かな果樹を活用しまして、ジャムづくりやジュースづくりも盛んに行われております。また、バラやアルストロメリアなど花の栽培も盛んでありまして、その美しさと品質は全国一との高い評価を得ております。

一方で、山形県はものづくり、製造業も盛んでございます。900年前までさかのぼる鋳物である山形鋳物や織物などの伝統産業、そして、これらをもとに発達した機械工業などの有力な地域産業が形成されております。最近では、これらを基盤に世界レベルでも先進的な次世代型の照明の開発など、有機EL(エレクトロルミネッセンス)の事業化にも取り組んでおります。2008年7月に開催されました北海道洞爺湖サミットでも、山形県で開発しました有機ELによる照明器具、シャンデリアが展示されたのでございます。

山形には、地域ではぐくまれた自然や歴史、文化、食、技術に加えて、温泉、温泉は日本一の温泉王国でございます。それから、お祭り、もてなしの心など、いわば日本の心ともいべきさまざまな資源がありまして、近年では映画の撮影も盛んに行われております。映画村もできております。サムライワールドがあります。こうした山形の魅力をぜひロシアの皆様にも堪能していただけますよう、観光・交流の取り組みを積極的に進めていきたいと考えております。

また、本県の日本海側にあります酒田港は、極東ロシアと極めて近い距離にございます。これまで中国東北部との交流が盛んでありましたが、今後、さまざまな分野で極東ロシアとの絆を深めてまいりたいと考えております。貿易促進のため、ハバロフスクでの商談会の開催など、具体的な取り組みを展開する予定でございます。

ロシアと山形県との交流は今日がスタートになります。文化交流や経済交流を通じて、友好関係を築いてまいりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。ご清聴ありがとうございます。

#### ーカルーガ州知事(アナトリー・アルタモノフ)ー

ルシコフ市長、ありがとうございます。麻生会長、ありがとうございます。そして、ロシアと日本の知事の皆様方、私は今日の会議でお話をさせていただく機会を得まして、大変うれしく思います。短い時間ではありますが、お話をさせていただきたいと思っております。この機会を下さったルシコフ市長、ありがとうございます。

高橋はるみ知事がおっしゃいました。協力というものは極東の地域だけということを考えるのではないと。この言葉に私は心から賛成いたします。ロシア中央のカルーガ州にもぜひいらしていただきたいと思っております。カルーガ州はロシアの中心にあり、モスクワの近くにあります。端っこのスタブロポリ地方から700キロメートルであります。

輸送インフラ、そして、さまざまなインフラが発展しており、人的ポテンシャルも大変高く、教育の水準も大変高くなっております。また、宇宙産業の発祥の地でもあります。そして、90以上の世界の国々と協力関係を持っております。先進的な世界の経験を学び、私たちは経済発展のインストルメントとして、工業団地、テクノパークをつくるという方向性をとっております。そして、そのおかげで今日、カルーガ州は投資の受け入れや経済の発展という面でロシアを先導する立場にあります。現在、私たちはこういった状況の中で、皆様のプロジェクトが安く迅速に実現のできる条件を提供して

おります。先週、日本の大使のご臨席を得まして、カルーガで三菱自動車の竣工式が行われました。そして、それはテクノパークの作業開始という意味合いも持っております。

大きなイノベーションセンターがカルーガ州のオブニンスクにつくられております。オブニンスクは大変歴史を持つ学術都市でありまして、ロシアで初めて学術都市という地位を与えられた町であります。また、世界で初めての原子力発電所があります。そして、原子力平和利用の中心の地として、博物館もつくられております。また、核物理学、そして原子力発電の分野での、またさまざまな悪性腫瘍の診断・治療分野での技術の開発・協力が行われております。日本の学者の皆様との交流も活発に行われております。

ロシアのことわざに申しますように、百聞は一見にしかず、皆様、ただいまトムスクのクレス知事がおっしゃったように、カルーガ州にもぜひ皆様方にいらしていただき、自分の目で私どもの地方を見ていただき、私たちが協力の門戸を開いていること、そして、協力を願っていることを見ていただきたいと思います。秋に三菱の工場にいらしていただければ大変うれしく思います。大切なお客様としてお迎えしたいと思います。ありがとうございます。

#### －富山県知事(石井隆一)－

皆様、こんにちは。ルシコフ市長さんをはじめ、関係の皆様の大変なご尽力によりまして、日露知事会議がこんなにすばらしい形で開催させていただいておりますことを心から感謝をしたいと思います。お手元にロシア語で富山県とロシアとの物流・観光の取組みというのと、それから、このパンフレットがあるため、この2つで簡単にお話をしたいと思います。

まず、配付資料の1枚目を見ていただきますと、富山県は日本列島の日本海側のほぼ中心にございまして、東京、名古屋、大阪からほぼ等距離にあります。また、先ほど泉田知事からご説明がありましたが、新潟県の西隣という関係になっております。富山県は日本海側ではまず工業県として屈指の実績を持っておりまして、あと、地方の県としては芸術・文化に大変熱心な県であります。今日はどうしても日本とロシアといってもロシア極東の方以外はちょっとやっぱり距離感があると思いますが、私は最近、モスクワと富山県が意外と関係があるんだなということを実感しました。

このパンフレットを見ていただくと、これは富山県の利賀村というところですがここに鈴木忠志氏という国際的に有名な演出家がございます。ここは演劇や舞台芸術の国際的な拠点になっているんですが、3年前、ここにモスクワ芸術座の俳優の皆さんが1カ月ぐらいお集まりになって、この鈴木忠志氏の演出を受けて、その結果、モスクワ芸術座でリア王の初演をされたといったようなこともございます。

しかし、今日は時間もありませんので、富山県とロシアとの物流と観光に関することについてだけお話をしたいと思います。

富山県は工業県ではありますが同時に環日本海地域へのゲートウェイ的な位置にございます。新潟港と並んで富山県の伏木富山港は、日本海側で2つしかない特定重要港湾ということになっておりまして、ロシアとの関係ではウラジオストクに国際定期貨客船が週1便、それから、ポストーチヌイ、ウラジオストクに極東航路を月2便、それから、飛行機ではウラジオストクに週1便ということになっております。明後日にウラジオストクにビジネスサポートデスクというのを設けまして、工業製品やあるいは観光あるいは農産物、こういったことについてのサポートをしよう、そういう体制をとっております。



伏木富山港経由の国際定期コンテナ航路は、現在世界同時不況の中ではありますが伸びておりまして、過去最多の5航路、月42便となっており、3年前から比べますと、70%から80%ぐらい航路の数が増えておりまして、ポストーチヌイやウラジオストクはもちろんですが、東南アジア航路なんかも最近開設されております。

次に富山県の対岸諸国との輸出入ですが中国、韓国に次いでロシアの比重が大きいというようになっております。

2009年になりまして富山県のロシアとの貿易量は極端に落ちました。ただ、2010年になってかなり持ち直しております。2009年に落ちたのは、世界同時不況の影響ということもあるんですが、実はそれ以上に自動車に対する輸入関税が、急に引き上げられたことの影響が大きいということです。

そして伏木富山港における北洋材の輸入量、中古車の台数の推移ですが、上の段を見ていただくと北洋材は25%まで上がりましたロシアの輸出税の引き上げに伴いまして、急速に輸入量が減っています。輸出税は80%にするというお話でしたが、これは幸い延期していただいております。また、中古車についても輸入関税が2009年になりまして急速に上がりましたので、大変取引量が減りまして、倒産する企業も出ているわけでありまして。

これまで日本側の知事が何人か申し上げましたように、私どもはやはりぜひシベリア鉄道をもっと活用して、スエズ運河よりも日本から早くモスクワやサンクトペテルブルク、さらにヨーロッパに物を運ぶ、そういう強力な物流ができることを念願しております。そのことがロシアと日本の国益にかなうと思っておるわけです。

そういうことで定期コンテナ航路のルートの開発もしております。富山県も工業県ですから輸出品が多いのですが、トヨタ自動車などの本拠地である名古屋でできた自動車を東海北陸自動車道、JR貨物、国道41号線、それぞれ3ルートで、それから、船も3つのルートでウラジオストクに揚げまして、シベリア鉄道を使ってノボシビルスクまで運ぶという、そういう実験を富山県から提案をしまして国の事業として行いました。その結果、やはりスエズ運河経由よりも短く運べるということが確認できたこと、それから、自動車だとかあるいはビールも一緒に運んだのですが、自動車も損傷はありませんでしたし、ビールの味も落ちなかったということも確認できました。しかし、通関がやはり大変で1週間ぐらいと思っておったのが、10日かかったといったようなことがわかりました。

さらに、それ以外でもロシア極東などに輸出品のためのいろんなトライアルもやっております。先ほどもお話がありましたが、私はぜひシベリアランドブリッジ、シベリア鉄道をユーラシアを貫く世界的な物流の路線としてさらに地位を高めていくことが日本とロシアの国益にかなうと思っておりますので、ぜひ昨年での東京での会議でも触れましたけれども、こうした通関手続の簡素化、迅速化を図っていただければ、非常に日本とロシアにとってプラスになるのではないかと思います。

また、先ほどお話ししましたが、北洋材とか中古車の関税あるいは輸出税等については、やはりロシアはWTOに加盟申請をされていらっしゃいますし、何といたってもロシアは大国ですので、当面の保護主義的な考え方ではなくて、長い目で日本とロシアの経済発展のために考えていただけないか。そういうことを今日は知事会議でございますので、ロシア側とも日本側とも、それぞれの中央政府に提案をしていったらどうかと思っております。

それから、観光振興関係の資料が後ろについておりますが、これを見ていただきますと、富山県の代表的な観光地である立山黒部アルペンルートでは、6年前に外国人のお客さんが2万3,000人でしたが、一昨年、12万8,000人まで、5年で5.5倍に増えました。今のところ、台湾あるいは

韓国、それから、中国、香港、タイ、最近はヨーロッパ、アメリカなどが増えておりますけれども、ぜひロシアの方にも来ていただけたらと思います。

その資料をご覧くださいと富山県のまず春の風景でありまして、雪の大谷とか黒四ダムとかいったような、桜とか、それから、秋、冬、それぞれ大変景色のいいところ、自然環境の豊かなところでございます。また、食べ物もお魚をはじめとして大変おいしい。また、温泉や伝統芸能もたくさんございますが、最近では東京以外では、地方ではおそらく、富山県だけじゃないかと思いますが、アニメの企画制作会社などがありまして、国際的なヒット作品もできておるわけでございます。それから、五箇山合掌造りは世界遺産になりまして、ミシュランの3つ星もつきましたが、いろんな点で日本の中で非常に好感度の高い、満足度の高い観光地がたくさんございますので、また、ロシアからも皆様に来ていただければありがたいと思います。

最後に、ロシアとの交流の面では環境面でもいろんな交流を今までもしておりまして、沿海地方、それから、ハバロフスク地方とも交流がございまして。また、人材育成の面でも沿海地方とは友好提携を締結しまして20年近くになるところであり、これからも協力を申し上げていきたいと思っております。ひとつよろしく願い申し上げます。ありがとうございました。

#### ーカリーニングラード州知事(ゲオルギー・ボース)ー

ルシコフ市長、麻生会長、そして、尊敬するご列席の皆様、カリーニングラード州は一番西のロシア構成主体となります。飛び地でございます。ロシアのほかの地方との境界は持っておりません。一番小さな地方の一つで、1万5,000平方キロメートルで、人口も100万人より少し少ないという状況であります。でも、戦略的重要性を持つ非常に重要な地方であります。地理的にはヨーロッパの真ん中に位置しております。そして、バルト海に面しております。

私たちの地方はロシアとEUのかけ橋となっております。このことが貿易関係にも反映しており、貿易取引高はこんな小さな州ではありますけれども、また、人口も大変小さい地方ではありますけれども、150億ドルという年間貿易取引高を誇っております。地方総生産は60億ドル、そして、過去4年半で非常に大きく伸びております。ちなみに2005年のGNPは25億でありました。

産業は発展しており、インフラは大変発展しております。そして、舗装された道路はモスクワ、サンクトペテルブルクに次いで、モスクワ、サンクトペテルブルクは大都市ですけれども、それに次ぐ非常に長い総延長を持っております。4,500キロメートルという舗装道路の総延長を持っております。農業も大変発展しており、農業生産物の加工産業も発展しています。また、観光業ですけれども、過去4年間で大幅な伸びを示しております。2005年と比べ2倍という伸びを示しております。

カリーニングラード州はバルト海沿岸に面した地域で、ヨーロッパに非常に密接に統合された近い地域として、EU、ヨーロッパ諸国と協力を進めております。カリーニングラード州は産業においてヨーロッパ向け品々の提供ということに非常に高い関心を持っております。これにつきましては、発展したインフラが必要であります。また、エネルギー、電力産業も発達しております。輸出に向けて300メガワットの設備容量の発電をし、外にも向けております。また、原子力発電所でもありますけれども、2,000メガワットという総設備容量を持っております。このように私どもの州はバルチック海の地域への電力供給者となっております。

また、石油も産地を抱えております。その石油は大変軽い石油で、品質の高い石油であります。全量、輸出に回しており、石油精製は行っておりません。また、岩塩、それから、ピートモスなど、その他の有用鉱物などを持っております。私たちが誇りにしておりますのは琥珀の生産でございます。

世界の琥珀産出の 90%をカーニングラード州が提供しております。琥珀におきましては、世界市場での独占という地位を確立しております。

カーニングラード州は、バルト海に向かっておりますので港が大変発達しており、不凍港、凍らない港を持っております。砕氷船を必要としません。また、ロシアとヨーロッパの鉄道の軌道ですけれども、これをどちらも擁しているということで、ロジスティクスにとっては非常に有利な状況を持っております。このようなカーニングラード州ですので、日本の皆様にも関心を持っていただけたかと思えます。まだ、残念ながら日本との直接の地方政府間の交流というものは確立しておりません。

そして、企業レベルにおいては間接的なルートを持って、協力を進めさせていただいておりますけれども、私たちは組み立てラインというものをカーニングラード州に、例えばテレビ、日用家電製品、そして、一連のクラスターが形成されております。そして、世界の有名ブランドとして、私たちの工場が品物を送り出しています。そのほか、日本の設備を買っております。これは特に機械製作分野でありますけれども、この分野だけでも大きなコンタクトがあり、しかも、これだけではなく、今後、この取引関係をどんどんふやしていきたいということを考えております。ですので、カーニングラード州を公式ミッションとして、また、ビジネスミッションとして、ぜひいらしていただきたいと思えます。私たちは温かくお迎えし、強固なコンタクトをつくり、そのような訪問につきましてはさまざまなセットをさせていただきたいと思えます。

ルシコフ市長、ありがとうございました。このような機会をいただき、日本の皆様とお会いできて大変うれしく思います。

#### －秋田県知事(佐竹敬久)－

私は秋田県知事の佐竹敬久と申します。尊敬するルシコフ市長様、そして皆様の前で昨年5月に引き続きましてこの会議で発言させていただくことを大変光栄に思っております。

私は昨年4月に秋田県知事に就任いたしました。それ以前は2001年から秋田市の市長を務めておりまして、全国の市長会の会長も務めさせていただいております。その当時は、市長として極東ロシアの各市との交流も行っております。

私はロシアには1976年ソビエト連邦時代に初めて訪れて以降、秋田市長時代を含め、たびたび訪問をいたしております。特に5年前のカムチャツカのゲーゼル溪谷は大変印象に残っておりまして、今日、また、このようなすばらしい宮殿での会議、印象に残ることだと思います。

交流の状況をお話し申し上げますと、秋田市とウラジオストク市とは1992年に姉妹都市提携を結びまして、代表団の相互訪問や青少年のスポーツ交流を進めてまいっております。また、秋田県政府といたしましては、ハバロフスク地方と2000年に交流同意書を交わしまして青少年交流をしておりますが、最近ではコムソモリスク・ナ・アムールにありますロシアの航空会社、スホイ社から日本人としては初めての技術使節団を受け入れていただきまして、現在、秋田の航空機産業とスホイ社との間の技術交流の可能性について、これを大きくするために進めているところでございます。先ほどハバロフスク地方のシュポルト知事さんともお話をさせていただきまして、これを機会にさらにハバロフスク地方とも交流を拡大してまいりたいと思えます。

また、今年の3月には、今日、沿海地方行政のダリキン知事さんがご欠席で大変残念ですけれども、この3月には沿海地方と経済交流の活性化ということで、友好協定を締結をさせていただきました。この協定には観光交流も含まれておりまして、早速、今年の9月初めには日本最大の客船、飛鳥Ⅱで私を含め、秋田県民およそ800人の大観光団がウラジオストク市を訪れる予定となっております。

りまして、ロシアの皆さんとの交流が一層進むものと、大いに期待をいたしております。

秋田県とロシアの経済交流は北洋材の輸入などで古くから経済的な結びつきがあり、近年では沿海地方から加工木材の継続的な輸入が始まっております。また、経済交流の基礎となる物流ルートの構築について重要視しておりまして、ウラジオストク港などのコンテナ船あるいはRO-RO船の定期航路開設や、秋田港を窓口として、日本国内の鉄道とシベリア鉄道などロシアの基幹鉄道等を海上輸送で結ぶシーアンドレール構想について、現在、先ほど富山県知事さんもお話がありましたけれども、トヨタ自動車の日本の北部への工場展開、それと歩調を合わせまして、日本国政府あるいは秋田県あるいは自動車メーカー、秋田のパルプメーカーが一体となって、この取り組みを進めております。

ロシアのシベリア鉄道を初め、鉄道を大物流のルートとすることは、単に沿海地方、極東ロシアのみならず、鉄道の路線が結ばれる、サンクトペテルブルクまで結ばれるすべての地方と日本との物流の拡大に大変つながるものであり、大いに期待をいたしております。シベリア鉄道の安定性、定時性が保たれますと、多分、すべての日本の地域との、そしてまた、すべてのロシアの地域との経済交流は飛躍的に伸びるのではなかろうかと思っております。このような中で、この3月に沿海地方と結んだ協定の中でも、特に両地域の海上・鉄道輸送網の発展に相互に努力するという項目を加えております。

こういう中で、秋田県といたしましては今年度におきまして、ウラジオストク市内へのビジネスサポートセンターを設置いたします。また、10月にはハバロフスクで貿易セミナーを行うことになっております。毎年、沿海地方を中心にあるいはハバロフスクでさまざまな貿易の商談会等を行って、今後、さらに貿易拡大に努めてまいることにしております。

もう一つ、秋田には国際教養大学という半分が留学生、半分が日本人、すべて英語で教育する県立大学がございます。現在、31カ国、108校の大学と学生交流協定を結んでおります。ロシアではモスクワ大学、モスクワ国際大学、ウラジオストクの極東国立総合大学と交流協定を結んでおりまして、ロシアからの留学生も受け入れております。また、ロシアを中心とする東アジア研究センターを近年中に、この大学の附属研究所として立ち上げる予定でございます。

いずれにいたしましても、秋田は極東ロシアを初め、ロシアを最大の友好的な経済交流の相手として我々は今、努力をしておりますので、各州の皆さん、知事さんの皆さん方も秋田についてご注目をいただきたいと思っております。ご清聴ありがとうございました。

#### ーロシア21世紀委員会議長(モスクワ市長ユーリ・ルシコフ)ー

皆様、ここで第1次セッションを終わらせていただきたいと思っております。

私たちは大変積極的な作業を進めてまいりました。大変興味深いイニシアチブや提案が行われました。ですので、休憩をしてもいいのではないかと思います。ここで皆さんで記念写真を一緒に撮らせていただきたいと思っております。この宮殿の入り口にお集まりいただいて写真を撮り、その後、どうやってお食事の場所に行くかというご説明をさせていただきます。そして、ロシア料理でおもてなしをしたいと思っております。日本食もできるんですけども、日本からのお客様をおもてなしするのに、日本食ではびっくりしていただけないと思っておりますので、ロシア料理でおもてなしをしたいと思っております。ですから、麻生会長とご一緒にここで休憩にさせていただきたいと思っております。そして、お食事の後で全体会の第2部を続けさせていただきたいと思っております。ありがとうございます。

(休 憩)

ーヤロスラヴリ州知事(セルゲイ・ヴァフルコフ)ー ありがとうございます。ルシコフ市長、麻生会長、尊敬する皆様、ご列席の皆様方、ヤロスラヴリ州は日本のお隣ではありません。私たちは何千キロも離れたところにあります。それでも、これまで培ってきた友情、そして、姉妹都市関係、経済関係があります。

一番大きな石油精製工場の一つがヤロスラヴリ製油所であります。日本の投資により日本の設備をもって改修を行い、近代的で高度な設備に改修を終えたところでもあります。そして、年間1,400万トンの石油精製を行っております。

また、オリンピックメディカルという会社が医療用製薬機械を納入し、そして、がんの治療のために使われております。最近、非常に積極的に私たちの関係を伸ばしてきております。ここでヤロスラヴリ州の日本との関係について、お話をさせていただきたいと思っております。

私は潜在的な可能性、協力の可能性については、ビジネス関係の方たちとお話をしたときに、既に話をさせていただいております。今日、お話ししたいのはこれまでの伝統的なおつき合いの中で、オリンピックメディカルは技術センターをオリンピックメディカル社の医療設備の訓練をするために、金沢大学とヤロスラヴリの医学アカデミーの間で、共同で訓練センターをつくっております。そして、私は特に医薬分野の協力というのは非常に重要であると考えており、ヤロスラヴリ州に製薬クラスターをつくるという方針を持っております。そして、日本のパテント、コイクトウヨウオウツクリミテッドのパテントを使いまして、いろいろな療法に使える非常にすぐれた薬をつくるという、そちらの方向に向かって作業を進めているところです。

それから、コマツの工場は、2008年1月に投資協定を結びまして、7月には土地を選定し、そして、今年ちょうど1カ月後の6月2日に竣工式が行われることになっています。この投資プロジェクトは経済危機の困難な時期ではありましたが、この時期に順調に進められてきたこと、そして、迅速に進められてきたことが私たちの協力関係が強固であることを示していると思っております。そして、この工場の第2期というものが計画されております。第1期の工場建設が終わった後、第2期の工場を建設するという予定があります。そして、この工場がつくるエクスカベーターとフォークリフトは、ロシアだけではなく、世界市場に向かうことのできる製品であると思っております。コマツは日本だけではなく、世界で大変高度な技術を持った有名な企業であります。

また、私たちは機械製作の分野でも協力を進めていきたいと思っております。また、エネルギー効率を高め、省エネを進めるという方向性もあります。フリステンコ大臣がおっしゃいましたように、ガスタービンという分野でも協力を進めていきたいし、製薬分野、医薬の分野、そして、さらに人間のコンタクト、つまり、観光を進めていきたいと考えています。

ヤロスラヴリは、ヤロスラヴリ市の開基千年を今年迎えることになっています。これはヤロスラヴリの地に観光を発展させるための大きなベースとなっております。9月に世界政治フォーラムがメドベージェフ大統領の参加をもって行われることになっております。また、去年は、現代国家とグローバルな安全保障というテーマでフォーラムを行っておりまして、そして、危機後の世界秩序についての話し合いをしました。この対話を今年9月に続けるという形で政治フォーラムが行われるわけですが、現代の国家、そして、民主主義とその効率ということをテーマにして行われるものです。効率を図る基準ということテーマにして行われます。

そして、そのようなテーマというのは、また、大統領が経済の高度化という方針を立てておりますが、それにつきましているいろいろな国の専門家をお呼びしまして、ぜひ鳩山総理大臣にもヤロスラヴ

リの地にフォーラムにいらしていただきたいと期待をしております。そのときに首脳会談をメドベージェフ大統領と鳩山総理大臣の間で行っていただくことによって、ロシアと日本の関係が大きく進展することを期待しているところです。私たちは地方レベルといたしましてあらゆる努力をして、このような協力関係が具体的で効果的なものであるために努力をしていきたいと思っております。

今日、私たちは地方のトップである知事として、そのような願いを持ち、そして、行動していきます。そして、私たちは日本の知事の皆様方もよくご存じと思うエピソードですけれども、織田信長はその戦いの中で勝利を信じ、その信じる気持ちによって勝つことができました。そして、寺に戻る途中でコインを投げて、これを絵のほうが出たら勝つだろう、字のほうが出たら敵が勝つだろうと言いました。寺に入って長いこと祈って、そして出てきて投げると、絵の紋章のついたほうが出ました。そして信長軍は勝ちました。

そして部下はどうして運命の天にそのようなことをゆだねていいのかと尋ねたわけです。でも、そのとき、2つの両面に絵のついた特別のコインを投げたんだということがわかりました。確信を持つということは、信じられないほど大きな課題を達成することができるし、そのためには非常に周到な準備が必要だということを示していると思っております。私たちの地方を発展させるために、そして国を発展させるために、私たちの協力が成果あるものであることを心から願います。

#### －東京都副知事(村山寛司)－

東京都の副知事の村山でございます。このたびは発言の機会を与えていただきまして、本当にありがとうございます。光栄に存じております。

本来であれば、石原東京都知事がこの場に参加するところでございますが、また、石原知事もそれを熱望していたわけでございますけれども、日程の調整がどうしてもつかないということで、今回は参加ができないということになりました。石原知事からは、皆様とモスクワで再会できることを非常に楽しみにしていたのに、参加できないのは本当に残念だということについて、くれぐれも皆様方にお伝えするようというふうについております。

まず、私から申し上げたいのは、東京とロシアとの地域間の交流の歴史についてでございます。かつて、18世紀に日本人、大黒屋光太夫が海上で遭難をいたしまして、アリューシャン列島に漂着し、その後、ロシアを旅して、首都ペテルブルクに至った冒険譚というのは映画化もされまして、日本人には広く知られているわけですが、この大黒屋光太夫が日本に帰国して、実は東京、当時の江戸で活躍しておりました。いろんな大名屋敷やあるいは將軍家などに呼ばれまして、ロシアの話をするというふうなことで、いわば18世紀においてロシアと日本とつなぐかけ橋として活躍をしたということです。そういったところから始まって幾世紀にもわたって、この間、日本とロシアというのは友好の歴史を積み重ねてきております。そうした中で、東京とモスクワは姉妹都市ということで、来年は記念すべき20周年という年を迎えることになるわけでございます。

昨年、ルシコフ・モスクワ市長から石原知事に対しまして、東京・モスクワの一層の友情を醸成しようということ、さらには、日本とロシアの友好の証にということで、モスクワの市内に桜を植樹したいというご提案をいただきました。石原知事もルシコフ市長のご提案に全面的に賛同いたしまして、このたび、桜の苗木を贈呈させていただくということになりました。明日、モスクワ市の主催で記念式典を催していただくということで、本当にありがとうございます。また、麻生会長を初め、今日、ここにお集まりの多くの皆様方にもご参加をいただけるということで、私からも心より感謝を申し上げたいと思っております。盛況な式典になることを私としては祈念をいたしております。

また、昨年、東京で開催された日露知事意見交換会におきまして、石原知事から皆様にアジア大都市ネットワーク21への参加の要請をさせていただきました。その際、ルシコフ・モスクワ市長からは、その場で皆様とご検討いただきまして、ロシア代表として会議に参加する都市として、トムスク市をご推薦をいただきました。すべての会員都市がこれに賛同いたしまして、先ほどクレス・トムスク州知事からもお話がございましたように、今年の総会からトムスク市が参加をする運びとなりました。ロシアとの地域間交流の輪が一層広がるということで、実に喜ばしいことと考えております。

石原知事からも、今年の11月に開催されるアジア大都市ネットワーク21東京総会で、クレス・トムスク州知事にお会いできるのを心から楽しみにしているというふうに、伝言を持ってきております。この席をおかりいたしまして、皆様、そして、ルシコフ・モスクワ市長、クレス・トムスク州知事に重ねてお礼を申し上げたいというふうに思っております。ありがとうございます。

東京都は、ロシアとの交流ではさまざまな面から深められてきておりますが、これからも深めていきたいと考えております。とりわけ、共通の課題である環境分野につきましては地球の未来に向けて、日露両国が互いに協力していかなければならないというふうに考えております。2009年5月に、東京都はアジアの政府組織として初めてICAP(低炭素行動パートナーシップ)に加盟をいたしておりますし、また、今年4月から世界で3番目、アジアで初のキャップアンドトレード方式による環境対策を新たな施策として開始をいたしております。

また、お手元に東京都が行っておりますベンチャー技術大賞受賞企業を紹介する冊子を、この冊子でございますけれども、置かせていただいております。これは都内の特に中小企業が開発をした革新的な将来性のある製品・技術をまとめたものでございまして、この中にも環境分野ですぐれたものがたくさん盛り込まれております。ごらんいただければ、東京都あるいは都内の中小企業が、さまざまな先駆的な技術面でのチャレンジを行っていることがおわかりいただけると思います。

また、東京都は水道事業を経営いたしております、その中では水質の浄化技術あるいは漏水防止の技術などについて、自分で言うのも何でございますけれども、すぐれた技術を自負いたしております、これらについても環境技術とあわせて国内はもとよりでございますけれども、海外展開への技術協力を積極的に現在、取り組んでいるところでございまして、ぜひとも、もしお役に立てることがあれば、一緒に事業に取り組んでいければと考えております。

結びに、この日露知事会議におきまして、日露の友好・協力関係が一層深まりますとともに、参加の各都市がますます発展されることを祈念いたします。ありがとうございました。

#### ーコストロマ州知事(イーゴリ・スリュニャエフ)ー

ありがとうございます。スリュニャエフでございます。コストロマ州知事でございます。まず、お招きいただいて感謝いたします。このような会合は我々にとって善隣関係を築く上で非常に有意義なものであります。

コストロマ州では、日本文化、日本製品、日本の設備がよく知られています。また、日本の技術もしかりです。そして、日本料理もほかに負けず、よく知られています。そして、共同プロジェクト、日本の投資を必要としているのがコストロマ州であります。また、日本の観光客も必要としているのがコストロマ州であります。

ロシアのモスクワより北東にあるコストロマ州ですが、モスクワから330キロぐらい離れています。そして、コストロマ州を横断する形でシベリア横断鉄道が続いています。そして、ロシアのあらゆる地域とよく交通網によってつながっております。ということで、去年から交通網を発展させるという意味

においては、飛行機としての定期便が再開されています。モスクワ、サンクトペテルブルクとの直行便が再開されております。

また、コストロマ州はエネルギー供給州であります。投資環境といえばエネルギー的な条件が整っています。発電所は良いものがあり、コストロマ発電所はロシア国内でも最も大きなものの一つであります。コストロマ州の面積のほとんどが森林に覆われておりまして、ロシアの州では最大の森林の資源、リソースを持っているわけでありまして、コストロマ州は水に関しては完全に自給できています。そして、産業に関して申し上げます、農業、軽工業だけではなく、木造加工ですとか、貴金属加工のものもあります。そして、麻生産、貴金属加工ではロシアの数割程度の生産を行っています。輸出モデルでは恐らく日本に関しては麻のものが多いと思います。日本からの輸入としては工業設備が多いでしょう。観光業も発展しておりまして、1年では100万人以上訪れてくださっていますが、日本の観光客は少ないのが現状です。

そして、コストロマ州への観光の関心の一つの理由としては、ロマノフ朝、ゴドノフ朝という2つの王朝がコストロマ州出身であることもあってでしょう。ちなみに、2013年にはロマノフ朝の400周年となります。コストロマには素晴らしい遺跡、遺産、自然も文化もあります。多くの博物館もあり、貯蔵品が数十万もあります。国宝というものも多いです。また、コストロマ州は安定して治安のよい州であります。ロシアで最もよい質のものの一つであります。そして、出生率でもロシアの、ヨーロッパの部分の1位を占めている状況が数年にわたって続いています。コストロマ州としては、日本のあらゆる県とのよき関係を築くことに大きな関心を持っていて、投資、近代化への協力を大変期待しています。科学的な熟練した人材、観光の資源、そして、地理的な位置といったものを持ちまして、素晴らしい投資プロジェクトができるのではないかと思います。

そして、コストロマ州は形としてもロシアに似ているんですけれども、小規模にされたロシアと言われていますが、皆さんはコストロマ州へようこそ、ありがとうございます。

#### ーロシア21世紀委員会議長(モスクワ市長ユーリ・ルシコフ)ー

尊敬するご列席の皆様、発言をご希望される方はいらっしゃいますでしょうか。予定されていた報告はすべて、これで終わりました。でも、ご出席の皆様の間でどなたか特別のご提案をお持ちの方がいらっしゃいますでしょうか。

モスクワ大学の総長のサドゥーニチさん、よろしく申し上げます。

#### ーモスクワ大学学長(ヴィクトル・サドゥーニチ)ー

尊敬するルシコフ市長、尊敬する麻生会長、幾つか提案をさせていただきたいと思います。

昨年の日露知事会議が行われていた時間に、並行して日露の学長会議が行われました。日本の25の大学の学長、総長が参加され、そして、ロシア側の約30の大学の学長、総長が参加した会議でありました。そして、この会議も定期的に行うべきだという結論に達しまして、今年9月に日本側の学長さん、総長さんたちをロシアにお呼びすることになりました。私はロシアの学長会議の会長を務めております。ロシアには約1,000の大学がありまして、その学長が参加している会議でありますけれども、そして、日本政府の30のプログラムというものがあって、失礼しました、日本の政府の教育関係のプログラムでありまして、約30の大学が参加しております。そして、日本側では東北大学が長の役割を務めております。そして、ロシア側ではモスクワ大学が責任者役ということになっておりますので、この日露の学長会議でいろいろな協議をしているわけでありまして。



さて、提案に移りたいと思います。

まず、第1点でありますけれども、私たちのモスクワ大学でありますけれども、今のところ、人工衛星をみずからつくって打ち上げるという、大学としては世界で唯一の大学であるわけです。今、2つの人工衛星を持っております。そして、1年後でありますけれども、ロモノソフのちょうど生誕三百周年というのになりますので、それを記念した人工衛星を打ち上げる予定であります。そして、この人工衛星に関係している、そして、人工衛星に搭載される機器、器具でありますけれども、すべてモスクワ大学の学生、大学院生たちがつくるのであります。

そこで、提案でありますけれども、この人工衛星に搭載される機器を設計すると、そして、それによって参加する大学があればぜひ入ってくださいということになります。この人工衛星ですけれども、自然、そして、その他、さまざまな地球の条件を調査・研究するというものになるわけですが、こういった、このスプートニクプロジェクトに参加をする大学がいらっしやいましたら、直ちに話し合いを始める用意が私どもはできておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

さて、2点目でありますけれども、私どもモスクワ大学でありますけれども、サイエンスフェスティバルというものを既に2回行って、今年が3年目ということになります。若いサイエンティストたちが自分たちの研究の成果を展示会で披露するというものであります。数十万人の若い人たちが参加する展示会ということになります。つまり、自分、そして、自分の同僚たちがどのような研究成果を上げているかということを見るいいチャンスであるからであります。

前回の会議でありますけれども、日本の大学はこのフェスティバルのオブザーバーとしての役割を果たしていました。モスクワ市とモスクワ大学が主催したイベントであります。今年の秋ですけれども、第4回目のサイエンスフェスティバルが開催されます。ロシア全土の大学が参加するといっても、決して大げさな言い方ではありませんので、日本の大学の皆様にも、今年のサイエンスフェスティバルに参加されることを呼びかけたいと思います。つまり、科学の成果、若い研究者たちの成果を披露すると、そして、非常にたくさんの方々が見にいらっしやるという期間ですので、非常に稀有な期間でありますので、どうぞよろしく願いいたします。

## ○共同声明について

### ーロシア21世紀委員会議長(モスクワ市長ユーリ・ルシコフ)ー

ありがとうございます。

ほかに発言はございますでしょうか、ご提案、ご発言などは。もし特にならなければ、私のほうから申し上げます。

麻生会長を初め、尊敬する皆さん、この会議の発表する談話ですが、共同声明ですが、その文書について、皆さん、目を通してくださることができているのでしょうか。私は今日にもそれに調印するというよりは、むしろ幾つか新たに発せられた提案、つまり、実際の発言の中で初めておっしゃられた提案をそれに盛り込んだ形で調印すればいかがでしょうか。

つまり、どういふご提案かということ私をほうから今、まとめて申し上げてみたいと思います。

特に高橋知事の発言の中では、幾つかの非常に有望な提案があったと思います。1つ目には制度の改善ということで、交流、特に経済交流の簡素化につながるような制度改革、近代化に対するご提案がありました。そして、情報交換が遅いということで、連携がうまくいかない場合があると、あるいは時間が無駄にされたり、タマネギが新鮮なものが新鮮でなくなるというようなことで、情報交換の重要性についてのことも、何らかの形で盛り込んだほうがいいのかと思います。

それはどういう形で盛り込むかと申し上げますと、情報交換を例えばホットラインという形で組織することを考える価値はあるというようなことを盛り込む価値はあると思います。つまり、それぞれの側に問題が発生したときに、すぐにも知事同士で問題を話し合った上で、税関などの当局にすぐにも連絡がとった上で、問題解決につながるというようなことを考える価値はあると思います。

そして、クジミツキー知事、カムチャツカ知事からもカムチャツカ、そして、日本の間の直行便を考えるべきだということが発せられています。そして、トムスクのクレス知事が地域交流というものを貿易中心的なものよりは、あるいは中心型からハイテクなどを含めた、より広範な、より広い範囲に拡大させること、例えば学生など人材育成、特にロシア語の学習、日本語学習、互いにそうした努力を進めるべきだというようなことを盛り込むべきではないかと思えます。

そして、富山県の石井知事のほうからも、そして、もうお一人の知事のほうからも、それぞれの国の当局に対しての要請ということで、シベリア鉄道をより使いやすい、より速度の速い日本製品のヨーロッパへのルートにするという発言もありました。つまり、既存の利便性をさらに強めるということで、スエズ運河を通した形より速いというシベリア鉄道のメリットを強化させるといった点がございますが、それは皆さん、そして、麻生会長に対して私の提案ですけれども、今、でき上がっている文章を基本にしまして、今日、発せられたさまざまな提案も含めまして、そして、最後におっしゃられたサドゥーニチ・モスクワ総合大学学長の提案も含めまして、より中身のある文章、より具体的な文章にした上で、私がそれをロシアの指導部に報告いたしますし、そして、皆様方も何らかの形で日本の指導部にもぜひ知らせていただきたいと思いますが、どうでしょうか。

#### ー全国知事会会長(福岡県知事麻生渡)ー

この会議で出された提案を共同声明に書くということに賛成であります。その場合、高橋知事から提案された、更に経済交流を活発にするための様々な国家的なルールの安定性と迅速性の点についてであります。これを行う目的の一つとしまして、やはり両国の中小企業、これが活発に相互に協力し、進出する条件を整えるためにも必要であるという、中小企業の交流という点も強調してもらいたいと思えます。

それから、シベリア鉄道をもっと使いやすいものにする。これは定期性の問題であり、もっと速く走るという迅速性の問題でもあります。これを行う目的はもちろん、我々からヨーロッパへの、あるいはヨーロッパから我々への物流を活発にするという意味もありますけれども、もう一つは極東だけではなくて、ロシア西部の地域と、経済交流を行うためにも必要であるということであり、シベリア鉄道を更に強化するという目的は、ヨーロッパへの我々の物流ということもありますが、ロシアの他の地域と我々が経済活動をするためにも必要なものであるという、目的を二重にしてもらいたいと思えます。

#### ーロシア21世紀委員会議長(モスクワ市長ユーリ・ルシコフ)ー

麻生会長、こうしたらいかがでしょうか。今日、私たちが協議したものはすべて焦眉の問題として協議したものであり、共同声明に盛り込むということでもあります。そして、両国の政府とともにどうするかということを作業していくということになります。つまり、知事同士でももちろん交流を深めていくというのはもちろんでありますし、お互いのチャンス、可能性をよりよく知るということはもちろんでありますけれども、それぞれの国家の指導部とともにより一層協調して、目的に近づくということになるかと思えますけれども、どうぞ。

### －北海道知事(高橋はるみ)－

私が先ほど発言させていただいた提案を共同声明の中に入れていただくというお手配、ルシコフ市長のご発言は大変評価をさせていただきます。その上で、私はもう一つ提案をさせていただいたつもりでございます。それは省エネルギーあるいは新しいエネルギー、そういった環境技術といってもいいのでしょうか、新しいエネルギーの分野における地域間の交流、協力という提案もさせていただきます。そのことについて皆様方のご賛同をいただければ、そのことについても声明の中でのご配慮をご検討いただきたいと思います。

### －ロシア21世紀委員会議長(モスクワ市長ユーリ・ルシコフ)－

それは恐らく異議はないと思います。東京の副知事様のほうからもその旨の発言がありましたし、今日の我々の共通の課題に含まれた分野ですので、省エネ、資源を効率よく使うということですが、それは直接的に世界中の環境に影響を及ぼすものですから、特に大都会というところでは問題となっているのは、当然、それも何らかの形で反映させるべきだと私は思います。共同声明においてもです。

ほかにご提案はございませんか。

そういたしましたら、こういたしましょう。その文章の草案を基本にしまして、今日、発せられたすべての事項を盛り込んだ上で、最後に双方がそれぞれの政府に対し、その提言を行うと。つまり、さらなる検討のために政府に向けて提言するというところでよろしいでしょうか。麻生会長、それでよろしいでしょうか。

それでは、最後になりますが、私たちのこの会議に関しまして、会議の本日程というより、ちょっと別のテーマとしては2つのところがあります。

我が国の芸術、特に美術を愛する人たちに大変愛されているアンドリヤキ氏という画家に報告をお願いしたいと思います。

### －S. N. アンドリヤキ－

尊敬するルシコフ市長、尊敬する皆様、私はアンドリヤキという画家でありますけれども、水彩画の美術スクールというものを主宰しております。水彩画だけを扱う学校、美術学院というものは我が国の歴史上、今まで一度もありませんでした。そして、この水彩画学院でありますけれども、希望者全員を受け入れているという美術学校であります。つまり、文字どおり幼い子どもたちからかなり高齢の方まで、水彩画を習いたいという人はだれでも受け入れている学校であります。そして、このような学院の設立が可能になったのは、ルシコフ市長の深い理解があったからであります。

この美術学校でありますけれども、非常にユニークな稀有な学校でありまして、そして、率直に申し上げますと、設立した当初はこれほど我が国の人々に必要とされる学院になるということは、想像はしていませんでした。そもそも定員 350 人だったんですけれども、実際、現在、1,000 人以上の人が学んでいます。そして、私自身の個展を日本で開催したという機会があったわけですが、日本の画家の方と一緒に共同展示会でありました。2000 年に最初に開催されたわけですが、そして、その後でありますけれども、プーチン大統領の訪日に合わせる形で開催したわけでありまして。2005 ですね、失礼しました、開催しました。

そして、技術的には水彩画というのは大変に深い潜在的な力があるものでありまして、そしてまた、人々の豊かな才能とうまく調和する技術でもあります。そして、私自身、画家としてこの学院の主宰

者といたしまして、芸術教育、そして美術教育というものに寄与しようと常に努めております。そして、日本の皆様と協力をしようと常に心を砕いておりまして、私どものこの美術の学院に日本の芸術家の皆様、日本の美術界の方々にもぜひ来ていただきたい、そして、例えば共同の展示会を開催したいと思っていますのであります。

そして、モスクワ政府、そして、ルシコフ市長みずからの支持を得まして計画されていることでもありますけれども、水彩画美術アカデミーというものがあまして、そのきちんとした学院の建物をつくりまして、そして、寮もきちんとしたものを今後、つくっていくということになっておりますので、こういったことで協力をすれば、お互いのためにも非常に役に立つと、非常に意義があると思います。

あと、手短にまた補足させていただきたいと思っておりますけれども、私どもの学院ですけれども、水彩画の教え方でもありますけれども、今までになかった方法論を私たちは開発いたしました。つまり、希望者であれば、だれでも水彩画をかけるようになるという教育方法であります。つまり、才能があるとかないとか、そういうような無駄な議論をしなくても済むのであります。なぜ、このような方法論が必要であるかということでもありますけれども、つまり、例えで言いますと、目が見えなかった人が目が見えるようになって、周囲がいかに美しいかをたちまち理解すると。それに似たような水彩画の技術の習得の仕方であるわけです。

さて、私のお話を終えさせていただきますけれども、感謝の言葉で締めくくらせていただきたいと思っております。この皆様の会議にお呼びいただいたことをまずお礼申し上げたいと思っております。皆様の本当にハイレベルの本当に大切な会議の開催に招聘をしていただきまして、それに対してささやかなお礼と申しますと僭越ではありますけれども、知事の方々、お一人お一人に水彩画そのものをお贈りさせていただきたいと思っております。私たちの美術学院の生徒たちが描いた作品でありますし、また、私どもの水彩画の学校を紹介したアルバムも、またお一人お一人の知事様に贈呈させていただきたいと思っております。

まず、麻生会長に贈呈させていただきたいと思っております。

#### ーロシア21世紀委員会議長(モスクワ市長ユーリ・ルシコフ)ー

アンドリヤキさん、どうもありがとうございます。

ゲストの皆様、お一人お一人に絵を一枚一枚、贈呈させていただきたいというのがアンドリヤキさんのご希望であります。すべて水彩画ですけれども、そして、イギリス式の古典的な水彩の絵の具を何層にも塗り重ねた技法ということでもあります。アンドリヤキさんでありますけれども、水彩画の専門家としては世界有数の方であると、私たちはそう考えております。水彩画の中でも幾つも手法があるそうですけれども、この技法の専門家でいらっしゃる。知事の皆様お一人お一人に一枚一枚、絵を受け取っていただければ、今回の会議のよき記念にもなるかと思っております。

さて、もう一つの点でありますけれども、協議をしたいと、皆様と話し合いをしたいということで、私は提案させていただきたいと思っております。次回の日露知事会議についてであります。全員共通した意見もあるかと思っております。そして、日本の知事の皆様からいただいた提案もあって、それにお礼を申し上げたいと思っております。次回の日露知事会議ですけれども、2011年に開催するということです。来年ですけれども、来年、東京で開催というご提案があるわけです。ご異論がないということであれば、私たちのこの声明文にもそのことを盛り込みたいと思っております。どうぞ。

—全国知事会会長(福岡県知事麻生渡)—

来年、日露知事会議を開催するという事は賛成であります、日本のどこで開催するかということにつきましては、今日の段階で東京ということはちょっと決め切れない。というのは、東京以外のところからもぜひこれを開きたいという希望も出てきておりますから、日本でということにしておいていただきたいと思っております。

—ロシア21世紀委員会議長(モスクワ市長ユーリ・ルシコフ)—

これは東京に対しても失礼にならないと思っております、いかがでしょうか。日本でも書いてよろしいですか。

本日、集まっていた知事の皆様方が、どの方も次回は日本の知事の方たちを私どもの地方にと、ロシアの知事たちは希望を持っておりますので、2012年におきましては選ぶのが大変だと思います。大変厳しい競争になりますが、だからといって、モスクワは気を悪くしたりはしません。モスクワも、私たちもいろいろな地方を訪問し、いろいろな地方の可能性に触れるということ、それは私たちの共通の豊かさにつながっていくと思っております。皆様、ありがとうございます。

それでは、今日の作業はこれで終えたということになります。

この後、記者会見ということになるかと思っておりますが、また、私たちは今日はコンサートに招待されております。これですけれども、そのときに時差がありますので、日本の皆様方、恐らく日本時間の夜12時などということになりますので、多分、お休みになりたい方も多いかと思っております。ですから、コンサートですけれども、少し早目に、そのコンサートはすぐれたロシアの音楽家、日本でも皆様、ご存じと思っております。世界的に知られているウラジミール・スピルバコフの演奏でございます。とても素晴らしい演奏会になります。ですから、麻生会長様と、そして、皆様方と記者会見、もう一頑張りしていただくよう、お願いしたいと思います。ありがとうございました。

### (3) 記者会見 (注) ロシア側通訳の聴取不能部分あり

#### ーロシア21世紀委員会議長(モスクワ市長ユーリ・ルシコフ)ー

私、ルシコフがこの会議の結果について報告します。

私たちの露日知事会議は15回目なんですけれども、昨年5月に新しいフォーマットで日本とロシアの知事による会議を開催いたしました。ですので、今回は2回目というで行われています。それで、……(聴取不能)……教育、いろいろな分野における教育、近代化、文化の分野における……(聴取不能)……はとても大事だと思います。会議では、開会式では鳩山総理大臣とメドベージェフ大統領からのメッセージが開示をされて……(聴取不能)……けれども、両国の政府がこのような……(聴取不能)……とても大事な役割があると思います。

の知事会議は の役割を果たしています。というのは、知事はいろいろ地域で全部解決します。けれども、これだけではなくて、今回の会議ではいろいろ具体的な……(聴取不能)……について具体的な提案がありました。そのこと、法律改正とか、いろいろ両国の関係、間にある問題解決方法についての提言がありました。そういう意味で、私たちはこの提案を両国の政府に伝えたいと思います。

#### ー記者(日本 共同通信社)ー

日本の共同通信です。

私からはルシコフ市長と麻生全国知事会会長に伺います。同じ質問です。今日、会議で提案がありましたいろいろな提案、例えば税関の手続の簡素化ですとか、あるいはシベリア鉄道の活用とか、あるいは領土問題の解決とか、そういう問題は国の積極の参加がないと解決ができない問題ではないかなと思いますけれども、これを地方の指導者の皆様は、どのようにこれから実現していくおつもりでしょうか。

#### ー全国知事会会長(福岡県知事麻生渡)ー

今の質問に直接答える前に、我々日本側として今回の会議について、どのように認識しているかということをもっと申し上げたいと思います。今回の会議は非常に時宜を得た会議であり、非常に重要である会議だと思っています。なぜならば、我々は世界経済の大きな混乱と不況に直面いたしました。両国経済とも大きな打撃を受けたんですけれども、今はそれを克服して立ち直りつつあります。そして、両国とも新しい経済発展戦略をつくりつつあるという段階であります。

その経済発展戦略の中で、ロシア側は極東の開発ということを大規模に進めていきたい。その中心は資源開発であります。また、日本側も新しい発展をするためには、日本は資源がない国でありますから、資源を確保することが発展のためには不可欠であります。それらのことを考えますと、両国は今後、重要な分野で相互の発展のために、多面的な協力をしなければいけないという時期にあります。

そのような協力を進めるに当たりまして、様々な経済活動を行う際の規制あるいは手続、これをもっと簡素化すべきである、あるいはシベリア鉄道をもっと使いやすい効果的な鉄道にする、これが経済発展のために非常に重要な手段であるということで共通の認識が得られました。これにつきましては両国政府にこのような認識、そしてまた、改善を求めていきます。言われるとおり、これらの点については我々地方だけでは解決できない。しかし、私どもは問題を提起し、そし

て、そのす。

－記者(ロシア)－

今回の会議は初めてペトロフスキー宮殿で行われた。それで、この宮殿の印象はいかがでしょうか。それから、今、モスクワは休日なんですけれども、綺麗に飾られたモスクワをごらんになったチャンスがあったら、今の……(聴取不能)……はいかがでしょうか。

－全国知事会会長(福岡県知事麻生渡)－

まず、宮殿についてでございますけれども、これはすばらしい非常に美しい宮殿であります。しかも、歴史的な様々な物語がこの宮殿に込められております。このようなすばらしい宮殿に私どもを泊めていただき、また、このすばらしい宮殿に滞在出来るということは、大変な喜びでありますし、楽しい思いをしております。

後段の問題はどういう意味なんですか、さっきの質問の2番目というのは。2つ、質問があったわけでしょう。

－記者(ロシア)－

今、モスクワは祭日なんですけれども、モスクワの街には電飾がかけられているけれども、もしもごらんになったら街の印象はいかがでしょうか。

－全国知事会会長(福岡県知事麻生渡)－

私がモスクワを訪れましたのはソ連邦の末期、ですから、20 数年前ですけれども、本当にモスクワは変わりました。一つは今日市場に行ったわけですね。スーパーマーケットに行きましたけれども、肉から魚から野菜から山のように置いてありまして、本当にモスクワは豊かになりましたね。それから、街が本当にきれいになりました。そして、街の隅々まで清掃が行き届いています。世界のこれだけの大都市で、車で走っていきまして、ごみが散らかっていない、全く散らかっていないという都市は、モスクワが一番、今、徹底しているのではないのでしょうかね。モスクワは非常に豊かになり、そして美しい都市になったと思います。

－記者(ロシア)－

次の質問は21世紀委員会事務局長さんに対する質問です。21 世紀委員会の……(聴取不能)……地域開発における役割はどう思いますか。

－ロシア21世紀委員会事務局長(イゴール・チトフ)－

うちの答えはすごく簡単であると思います。ルシコフ市長は21 世紀の会長でいらっしゃいます。ルシコフ市長の会長のイニシアチブで、日本における露日知事会議が行われた。今回のモスクワでの会議もルシコフ会長、麻生会長のイニシアチブで行われています。そういう意味で、ルシコフ市長が会長であって、パートナーとして日本の麻生会長であります。そういう意味で、お二人とも市長と知事であって、もちろん、日本とロシアの自治改革に一生懸命努力していますと同時に、21 世紀委員会はこの活動に直接に参加しています。

ーロシア21世紀委員会議長(モスクワ市長ユーリ・ルシコフ)

これで記者会見を終わります。

ご清聴どうもありがとうございます。

#### 4. モスクワ大学訪問



### －ロシア21世紀委員会議長(モスクワ市長ユーリ・ルシコフ)－

昨日、「明日は天気になりますように」とみんなで祈っておりました。そして、今朝は素晴らしいお天気のもとモスクワ大学のとおり「雀が丘」に日本の知事と桜を植えました。桜は特別のシンボルです。ここにもいらっしゃいますが、フセボロド・フチニコフさんが有名な「桜の枝」という本を書かれ、日本の文化について紹介をしています。

そしてフチニコフさんは素晴らしい日本の深い哲学をロシアの国民の前に開いてくれました。私たちロシア人にとって桜の枝にまつわる日本の深い哲学というものは、非常に大きな関心を持っています。

桜は日の美のシンボル、美しさのシンボルです。日本では桜の咲く時期というのは特別の意味を持っています。日本人は桜の咲く時期に深い瞑想にふけり、自然を愛で、深く自分のこと、まわりのことを考える時期になります。そしてシンボルである桜は美しさだけではありません。桜は美しさのシンボルであるだけでなく、深い気持ち、愛国心、献身というようなたくさんの気持ち、このように桜にまつわる日本人の気持ち、哲学というものは私たちロシア人も学び、根付かせていきたいと思う心です。

私はここでもう一度、日本の友人方、知事の皆様に御礼を申し上げたいと思います。そして、桜の苗木を送って下さった東京都に御礼を申し上げたいと思います。

この桜ですが、いろいろな種類がある中で特に寒さに強い桜を選んで下さいました。私はここからこの桜がロシアの地に根付き、それとともに日本の方々の生活の哲学というものが私たちロシア人の心に根付いてくれることを祈っております。

### －東京都副知事(村山寛司)－

ただいま紹介を頂きました東京都副知事の村山です。今日は桜の植樹式にご挨拶の機会をいただきありがとうございます。

先ほど、桜を植えさせて頂いて、ロシアの植樹式というのは日本の植樹式とは随分違っていて、自ら穴を掘って根から植えるというだいぶ重労働をさせて頂きました。今晚腰が痛くならないといいなと思いますが、実質を重んじるロシアの国民性に触れた思いです。

今回、このように桜を植えさせて頂くようになった経緯は、昨年ルシコフ市長と石原知事が会った際に、是非モスクワの地に桜を植えたいというご提案があり、それはいいと石原知事が賛同して今日の運びとなったものです。

たとえばルシコフ市長のご挨拶の中で、桜についての哲学的な考察が示されまして、それを伺いまして、改めてモスクワの地に桜を植えたいという市長の気持ちを理解いたしました。

確かに日本人にとって、桜というのは長い冬が終わって春を迎えるという喜びとか祝祭の気持ちだとか、それぞれの気持ちにあるいろいろな人生について考えることを含めた特別な花でございます。

古来日本人は常に桜について考え、歌に詠んで参りました。たとえば、最近では俳句というのが日本以外でも多く作られていると聞きましたが、17世紀の日本人の俳人である松尾芭蕉も桜について詠んでおります。紹介します。「初桜 折しも今日は 良き日なり」という句があります。桜に対するめでたい気持ちがよく現れていて、今日の日には松尾芭蕉が作ったかのようなピッタリの俳句だと思います。

桜を愛でるそのような昔からの気持ちというのは、現代になっても脈々と日本の習俗の中に受け継がれておりまして、春になると満開の桜の下に集って花見をするというのが習慣になっています。そこにみんな集まって老若男女が集まって酒を飲むというのが、花見酒と呼ばれているわけです。

ロシアの人々も酒好きの方が多いと聞いております。今日、もう咲いていましたけれども、是非とも毎年咲くと思いますので、この雀が丘の場所が花見の名所として、モスクワ市民あるいはロシアの皆様にとって花見で花見酒を行う場所になればいいなと思っております。

そしてまた、今日ここに集った皆さん、是非私どももその場に参加させて頂いて、何年後かに改めてこの場に集って、花見酒をご一緒してそのことがモスクワと東京の友好、あるいはロシアと日本の友好の一助となればいいなと強く思っているところで、是非ここで花見酒を飲みましょうということ呼びかけて、東京都代表としての私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

#### ー全国知事会会長(福岡県知事麻生渡)ー

今日はモスクワ大学を訪問させて頂きました。そしてモスクワ大学の歴史的な展示物を見させて頂きました。私はロシア語はあまり判りませんが、このようなことを「オーチンハラシヨ」というのではないのでしょうか。

チャーホフの肖像画もございました。チャーホフは日本では「桜の園」という文学で有名な作家であり、また我々の間で尊敬されている大文豪であります。トルストイの肖像画もありました。

ノーベル賞学者もたくさん出ておりますし、学生諸君が作られた衛星もあるということで、モスクワ大学はまさにロシアを代表する大学でありますけれども、同時に世界を代表する大学だと言えるでしょう。

我々日本とロシアは太平洋のパートナー、密接な友達であります。そのことに今、この経済的な関係を基に、広く大学間の協力、学術の協力、あるいは人材の協力、文化の協力、ハイテク分野の協力、非常に大きな分野での協力関係を作ろうといたしております。

その非常に重要な分野は「知の交流」でございまして、今後是非日本の大学とモスクワ大学はじめ多くの大学との活発な交流がなされることを特に希望いたしております。

日本側でもロシアのことを研究しておりますから、是非皆さんにも大きな関心をもって日本の研究をして頂きたいと思っております。

私どもルシコフ・モスクワ市長の下で、我々日本の知事会とロシアの知事会で会議を行いました。地方同士でいろんな理解協力を進めていこうということです。その目的はつまるところ日本とロシアの皆さんが協力して、お互い平和に繁栄していくという目的でした。

桜はその象徴です。桜はずっと育って行くでしょう。それとともに、我々日本とロシアの関係がますます発展をしていく、協力をしていく日露両国の関係が発展していくことを祈念いたしまして、ご挨拶いたします。

## 5. 要人面談

### (1)トラヴニコフ地方発展省次官との面談の概要

2010. 5. 4(火) 10:00～

於 ロシア地方発展省

#### ー全国知事会会長(福岡県知事麻生渡)ー

- ・今日は大変お忙しい中、時間を割いて頂き、感謝申し上げます。(以下、自己紹介及び代表団知事の紹介)この度は、貴国に関わりの深い日本海側の知事で訪問しており、貴国との交流を深めたいとの希望を持っている。
- ・今回は、日露知事会議に出席するため貴国を訪問した。会議では、ロシア側代表をルシコフ・モスクワ市長が務められ、多くの知事と熱心な意見交換を行った。両国の中央政府間での交流が進んでいるが、地方政府間でも広く地域間交流を進めていくことが会議の目的だ。
- ・今日はトラヴニコフ次官から、特に極東地域における開発政策をお聞きしたいと希望している。それをもとに、ロシアに近い日本の各地域とロシアとの経済関係を中心として発展を深めたいと考えている。

#### ートラヴニコフ地方発展省次官ー

- ・政府の極東開発政策のアクションプランが7月くらいには決定されるであろうこと。そして、プレゼンを秋にも行いたいということであった。我々はこれに非常に大きな関心を持っている。我々としては、現在の進められている開発計画は入手可能であるが、7月に政府に承認されるであろうアクションプランについて、速やかに入手したいと希望している。また、北海道知事から話があったが、プレゼンの実施については、日本の多くの地域が情報を得たいと関心を持っているので、その機会を与えていただきたい。
- ・日ロの政府間では、貿易、経済関係の進化に向けて具体的に策がとられている。
- ・近年も引き続き、多くの日本企業が進出し、成功している例がある。
- ・多くの企業はロシアの中の中央部分と極東部分において活動し、聞いている限りでは、うまくやっているようだ。
- ・それ以外にもまだ、日ロ間の協力の潜在性がある。
- ・このため、政府では政府間委員会の下にある地域間交流分科会が創られ、議長のレベルが各省庁の次官級まで格上げされた。
- ・日ロ間の経済関係の進化ということについては、今後も引き続き、主に大企業が主導的役割を果たしていくものと思われる。
- ・その大企業が開いた道を、中小企業も利用することができるだろう。その中小企業が、日ロ間の地方間の交流を支えていくものと思われる。地方発展省としては、このような中小企業の活動支援を行っていききたい。
- ・2年ほど前になるが、次官級に格上げされた後の、最初の分科会が開催された。それにはロシア側からは私、日本側からは河野外務審議官(現在のロシア大使)が出席し、その場で、ロシアにお

ける有望な投資プロジェクトを作ることで合意し、現在、182件となっている。その対象は極東のみならず、ロシアのヨーロッパ部分も包括されている。

- ・先日、河野大使とこのリストを今後、どのように進めていくかについて協議し、その中から、より有望なものに凝縮したリストを作ることで合意した。さらに、具体的なプロジェクトのサクセスストーリーを日ロ共同で作っていく必要があると話した。また、今後、地域間交流というものも、経済団体等を通じて支援していくことも合意した、

- ・経済団体がそのようなミッションを派遣する際、ミッションに都道府県の代表も入ってもらえるなら、非常に有効かと思われる。

- ・ロシア側としては、ビジネスミッションというものに、都道府県の企業関係者も参加いただき、連邦構成主体を訪れていただきたい。政府レベルで地方の訪問を支援し、地方への投資を呼び込みたい。

- ・これも河野大使とも話したことだが、具体的な投資プロジェクトというものが形成された場合には、地域間交流分科会の議論の対象とすることも考えている。

- ・昨年末に岡田外務大臣が訪ロされ、フリステンコ産業貿易大臣と会談し、その場で日ロの貿易経済日ロ政府間委員会共同議長間会合を開催した。その結果、地域間交流分科会を活用し、地域間交流の発展を評価していくことで合意した。このように。ロシア側としても日ロの地域間の交流を非常に重視していることを申し上げたい。

- ・知事の皆さんへお願いとしては、このように地域間交流を強化してゆきたいとロシア側も日本側も考えているといったシグナルを中央に送っていただきたい。私からもカウンターパートナーである、小田部外務審議官にも伝えようと考えている。

- ・我々の地域交流分科会というものが、単に中央政府だけが参加するものではなく、ロシア、日本、それぞれの地方政府の代表者も参加するのが有効ではないかと私は考えている。もし要望があれば、地方の政府や企業に対して、詳細な説明の用意もある。

- ・地方発展省としては、日本の各都道府県の方々と、適当なロシアの地方政府とのコンタクトの創設や、既にあるコンタクトの強化についても協力していきたい。その他にも、各都道府県とロシアの地方、また、市同士の姉妹都市関係の構築についても支援する用意がある。このような地方レベルでの関係の強化は、両国民間での信頼の強化、2国間関係全体の強化にもつながるものと考えている。

- ・最後に、数分間だけ、ロシアの極東における開発政策について述べたい。まさに、最近、極東及び東シベリアに関する政府委員会が極東で開催された。ご承知かもしれないが、ロシア政府は、「極東の発展に関する戦略」を採択している。この中では、極東の地域ごとにおける経済社会発展のための重点項目が記述されている。また、ロシア連邦政府として、地方の発展のために、地方政府が果たすべき役割、権限についても記述がある。また、資源分野での開発、木材、金属等の生産に関する記述もある。運輸分野や製造業の発展についても記述がある。既にある工場の近代化だけではなく、新たな生産設備の構築についても記述がある。極東南部の農業(特に大豆)の発展についても記述がある。

- ・現在、この戦略に基づいて、具体的にどのように行動すべきかについて、計画を策定中で、7月には政府による承認を受けたいと考えている。

- ・我々としては、ロシアの極東開発に対し、近隣のすべての諸国に参加してもらいたい。既に中国、韓国から一定の関心が示されており、日本も非常に重要な役割を果たしてもらえると考えている。

・この分野では、ある一定の成果、合意が達成されている。具体的には諸処のエネルギープロジェクトがあげられる。特に、サハリンで成功裡に実施されているエネルギープロジェクトがある。また、受注会社として参加している日本の大企業もある。

・しかし、協力がこれらに限定されるとは考えていない。製造業、生産の分野、たとえば、木材加工の分野で協力してもらえるものと考えている。その他にも、農業、漁業の分野、機械製造業も協力の可能性がある。これにより、日本企業は、ロシアにおける新たな販売市場を手中にできることになる。ロシア国内で生産されたものは、ロシア国内の市場向けとするだけでなく、アジア・大洋州地域への輸出も検討する。

・木材加工についていえば、日本市場でも需要があると聞いており、それに向けた生産も可能である。これらの投資は必ずしも大規模である必要は無く、中小の投資も非常に有効であると思われる。

・この分野で具体的にプロジェクトを発掘できれば、政府間の地域交流分科会で議論するプロジェクトに含めることが可能になると思う。

・我々は、現在、極東開発の戦略や具体的な計画に関するプレゼンを用意している。仮に、今年中に地域間交流分科会が開催できるのであれば、都道府県向けのプレゼン実施も検討したい。

・2014年からは、極東発展に関する戦略の新たなプログラムが実施に移されることになる。それは非常に大きいもので、現在、実施されている連邦特別プログラムを置き換えていくことになる。その中で特に重要なのは、資金手当である。仮に日本企業が、ロシアの戦略で重視されている分野に投資してもらえれば、ロシア政府としても、インフラの整備等に必要な予算の手当を行いたいと考えている。インフラというのは、エネルギー、運輸、用地で、その予算的な手当を意味する。

・また、複合的な開発も重視している。一例をあげると、ロシアと中国の国境にあるボリショイ・ウスリースキー島の複合的な開発がある。地方発展省としては、特に、観光客誘致のためのインフラを重視している。これは、多くの部分について、中国政府の関心とも重なっている。我々としては、日本が有している、宿泊施設等の建設の経験を共有していただければと考えている。優先項目については、以上のとおり。

#### －北海道知事(高橋はるみ)－

・北海道は日本の一番北に位置する島で、サハリン州とは航路でユジノサハリンスクと札幌が2時間で結ばれる、まさに隣同士で、そのような位置づけのため、サハリン州とは特に提携関係を強くしており、年に1～2回はホロシャヴィン知事と面会し、意見交換し、具体的な協力の中身を検討してきている。ユジノサハリンスクには北海道事務所を開設しており、また、民間銀行も事務所を持って事業を行っている。

・経済交流のみではなく、文化、人的交流も幅広くやっているが、時間の関係もあるので、いくつか例示すると、寒冷地向けの建築技術は、北海道の企業が、日本の他の企業よりも優位性を持っており、ユジノサハリンスクをはじめとするサハリン州の住民の方々に住居の提供等ができるよう、モデル的な事業を具体的に進めている。

・サハリン州を含めて、沿海地方、ハバロフスク地方の極東3地域との間で、北海道は1992年に経済協力プログラムを策定し、常設合同委員会を設置し、プログラムの推進管理を行っている。

・そういった隣同士の地域間で様々な交流が進められている中、連邦政府のトラヴニコフ地域発展省次官はじめ幹部の方々にお目にかかれ、新たな情報提供をいただけるのは意義深い。

・私たちが具体的に協力を進めていく分野に加え、今、次官からは、木材加工品や農業、漁業、機械製造業など、今後、協力の可能性が強い分野について言及があった。北海道は、日本の森林面積の4分の1を占めて、自ら生産し、加工する技術も優れていると思っている。また、単に木の伐採のみではなく、計画的な植樹、森林の管理についても一定のノウハウを有しているので、そういった面での協力ができればと、次官の話聞いて思った。

・先ほど、次官から、日ロ間の地域間交流を発展させるための分科会について言及があり、日本の都道府県向けのプレゼンをやることも考えているとの話があった。北海道は、大変感銘し、是非、お受け入れをしたいと思っている。

#### －秋田県知事(佐竹敬久)－

・簡単に秋田とロシアとの交流の状況、そして、これから、経済交流をはじめ、交流拡大のため、特に、重視している点について話したい。

・秋田では、もう100年以上前から、ロシアの木材を輸入している。最近では、シベリアの加工した木材を輸入している。

・秋田市とウラジオストク市は姉妹交流都市20年になる。秋田県とハバロフスク市が10年前に交流協定を結んでいる。この3月に、沿海地方行政のダリキン知事と包括協定を結んだ。最近では、秋田から、米、果物等の輸出も始まっている。コムソモリスク・ナ・アムーレのスホーイ社は、秋田との技術協力の準備を始めている。

・こういう中で、これから極東ロシアとの交流拡大を図るため、最もウラジオストクに近い港の拡大を行っている。

・特に、シベリア鉄道の活用は、将来、日本のみならず、東アジアとロシアの経済交流拡大には非常に大きな役割を果たすものと思われる。極東ロシアのみならず、ロシア国内路線の周辺すべての開発に影響を及ぼすことになる。次官におかれては、今後、シベリア鉄道の近代化、運行の定時制の確保、運搬にかかる相互の技術的課題等々いろいろあるが、秋田県は日本政府と一緒に、輸出入の拡大、ロシア全域との経済交流の拡大を目指しているので、是非とも、シベリア鉄道の活用を重要視されたい。

・今回、沿海地方行政と包括協定を結んだ記念に、この9月、秋田からウラジオストクに800人の観光客を送ることにしている。

#### －山形県知事(吉村美栄子)－

・山形県の位置だが、東京から北へ約300キロ、秋田県の南側にある。だいぶ前だが、職員をハバロフスクに派遣していた。ロシアからは、木材や山菜などを輸入している。次官の話を知って、農業分野での交流に関心を持った。山形県は、日本の中でも大変おいしいものができる場所で、米、牛肉、豚肉、果物王国といわれるほど、多彩な果物を生産している。また、風光明媚で、温泉も多く、映画も作製され、映画村もある。そういう意味では、観光交流などもさせていただければと思っている。

・新鮮で美味しいものをロシアの皆さんに召し上がっていただきたいと思っているが、モスクワ経由ではないと地方に出荷されないというように聞いている。日本の地域から、ロシアの地域に直接運ぶことができるようなシステムの実現可能性についてお聞きしたい。

・昨年、ハバロフスクの見本市に職員を派遣し、調査をさせていただいた。今年の秋には、ハバロ

フスクで商談会を開催する予定だ。山形とロシアとの交流は、これから始まると認識しており、是非、幅広く、交流関係を築いていきたいと思っている。

#### ートラヴニコフ地方発展省次官ー

・知事の皆さん、非常に興味深い話をありがとう。いくつかコメントをさせていただきます。

サハリンとの交流は、日ロ交流のひとつの良い例となっていると思う。サハリンは、日本によく知られていて、インフラ設備は日本の統治時代に築かれたものも多いと聞いている。気候条件も特に北海道と近いとも聞いている。日本企業が参画できる有望なプロジェクトが多くあるとも聞いている。既に、話が進んでいるものの他には、ウグリゴールスキーにおける石炭生産プロジェクトにおける協力が可能かと思う。また、コルサコフ(豊原)における港湾の拡張プロジェクトにも将来性があると思う。

・私としては、このサハリン州と日本との協力を、日ロの地域間交流のパイロットプロジェクトのようなものにしていければと考えている。そして、このような考えから、日本の外務省に対し、次の交流分科会をユジノサハリンスクで開催するよう提案している。これは非常に個人的な提案で、実は、私の父はユジノサハリンスク出身である。

・シベリア鉄道については、輸送能力強化及び近代化は、ロシア鉄道が直面する重要課題だ。ロシアの民間企業にとって重要なだけでなく、各地域の発展という観点からも非常に重要だ。

・我々としても、極東地域の経済的発展および人口の流入等は、シベリア鉄道の発展なくして実現不可能だと理解している。聞くに、シベリア鉄道は輸送能力の限界まできているとのことだ。今後の喫緊の課題としては、たとえば石油パイプラインを作ることによって、シベリア鉄道の輸送の負担軽減を図ることを検討しているし、輸送速度の調整も検討している。これらは、ロシア極東の港湾の能力にも密接に関係している。そのほか、北極海航路など、代替輸送ルートの検討も行っている。シベリア鉄道のトランジット能力の強化を進めているが、未だ、実現には至っていない。

・また、農業にも関心を示していただき、感謝する。極東地域のすべてが農業に適しているわけではないが、実際、農業が盛んな地域でもある。アムール州、ユダヤ人自治区、沿海地方を重視している。これらには、農業に適した気候と、未利用地がある。関心がある日本企業があれば、地方発展省としても地方行政とのコンタクトの開設で協力をしていきたい。この地域で生産された農産物は、地元向けのみではなく、ロシアの欧州部およびアジア太平洋地域のいくつかの国に輸出することも考えられる。たとえば、韓国なども有望な市場となりうる。中国も農産物の輸入量が多い。

・輸入手続きの簡素化の問題は、常に、ロシア側の優先課題のひとつとなっている。質の管理と手続きの簡素化のふたつのバランスが重要になる。もちろん、日本の農産品が質が高いことは理解している。しかし、法律上、いかなる国からの農産品であっても同等に扱うということが定められている。この観点からは、日本の農産品が犠牲になっているということは否めない。本日の、農産品の輸入がモスクワ経由でできないといった情報は、初めて聞いた。おそらく、直接、輸出入することはできるのではないかと思っている。それほど数多くはないが、農産品を扱う権限を有する税関ポストが極東にある。関税の審査のみではなく、ロシアの連邦衛生監督庁及び連邦技術監督庁の審査も受けていると聞いている。いずれも検疫を行うためのものだ。輸送規律上の理由からモスクワを経由して輸入した方が適当であるというものは排除できない。特に、高価な農産品については、輸送費が占める割合は低くなるので、ロシア国内の市場により迅速に届

けるという観点から、モスクワを経由して輸入されることもある。

・もうひとつは、地方における輸送インフラの整備が進んでいないということがある。ロシア極東の輸送インフラの問題ではなく、国際的な輸送インフラということも含めてのことだ。極東開発の戦略の中では、ロシア国内の都市間及び周辺諸国との輸送インフラの整備というものが重要であると記述されている。いずれにせよ、重要なことは、日本の企業が高度な技術を用いて、ロシア国内でも生産を開始し、投資を進めていただくことだと考えている。

・漁業の分野での加工業も協力の将来性があると考えている。日本が既に持っている高度な技術と、アジア太平洋地域での広い市場を考えた場合、非常に将来性がある。

・今日の話を通じて、将来性のある分野はひとつではなく、いろいろあることがはっきりした。極東に限らず、ロシアのすべての地方を含み、いくつかのコンタクトがあることがわかった。今日は非常に興味深い会談をさせていただき、感謝している。私としても今後、日ロの地方間の交流を強化するための役割を再確認した。皆様のご支援により、日本の企業がロシアに投資していただけることを期待している。今ある問題、または今後生じる様々な問題については、今後、地域間交流分科会の枠組みにおいて、話し合い、解決されることを期待している。そして、今後も、このようなコンタクトを維持してゆきたいと期待している。

#### ー全国知事会長(福岡県知事麻生渡)ー

・政府による極東開発政策のアクションプランが7月には決定されるであろうこと、そして、秋にもプレゼンテーションを行いたいということであった。我々は、これらに非常に大きな関心を持っている。我々としては、7月に政府で承認されるであろうアクションプランを速やかに入手したいと希望している。また、北海道知事から話があったが、プレゼンテーションの実施については、日本の多くの地域が情報を得たいと関心を持っているので、その機会を与えていただきたい。

#### ートラヴニコフ地方発展省次官ー

・関心を示していただき、感謝する。このプレゼンについては、地域間交流分科会の開催に近づけて、実施するかどうかも含めて今後検討していきたい。戦略については、現在、ロシア語版しか資料がないが(英語もない)、プレゼンを行う際には、少なくとも主要な部分については、英語または日本語で提示できるようにしたいと考えている。



## (2) ボリソフ「ロシアの柱」会長との面談の概要

2010. 5. 4(火)12:00～

於 ロシアの柱本部

### ー全国知事会会長(福岡県知事麻生渡)ー

・今日は忙しい中、このような機会を設けていただき、感謝申し上げます。我々は日露知事会議に出席するため貴国を訪れているが、ロシアの中小企業に非常に大きな関心を持っている。我々、地方政府を担当している者からすると、中小企業は非常に大事である。それは、地方の雇用の約8割以上を中小企業が担っているためである。地域経済の発展は、中小企業の発展なしにはなしえないといった関係にある。今日は、ロシアにおいて、どのように中小企業を育成しているのか、また、日本の中小企業とどのような関係を築くことができるかなど、是非、意見交換したい。

### ーボリソフ会長ー

・モスクワによろこそ。権威ある代表団に、我々のところに来ていただき光栄に思う。時宜も得ている。なぜなら、我々もちょうど日本から戻ってきたばかり。我々は、このような技術視察のため海外訪問を行っており、今回の日本の訪問が4回目。この訪問で、高度な技術などを学ぶために海外に行っている。我々のロシアの柱の沿海地方支部が、新潟県と関係を持っており、我々も新潟を訪問して、非常に充実したプログラムをこなすことができた。

・我々の代表メンバーの希望に沿って、日本における金属加工業、特に自動車大手メーカーへ部品を提供している企業、これらの視察を行うことができた。その他にも農業、建設業の分野で非常に高度な技術を使って業務を行っている企業の視察を行った。我々は、その他の地域との関係も発展させていきたいと考えているので、今回は、このような代表団の方々に来ていただき、非常に歓迎している。

・訪日の最後には、外務省も訪れ、欧州局長やロシア課長とも会談を行った。また、経済産業省の関係者、中小企業団体の方々とも会談を行った。日本において、中小企業へ融資を行う団体との会合も行った。ジェトロの関係者とも会談した。

・ロシアの中小企業問題について、率直に申し上げて、発展段階にある。ロシアには、自営業者も含めて 500 万を超える中小企業があり、自営業者だと 400 万、小さな企業だと職員が 100 人以下という定義がある。小規模な企業は 160 万、職員数 250 人までの中規模な企業は 1 万 7 千社ある。構造的に見るとほとんどが商業を行っており、製造業を行っている企業が非常に少なく、約 11%。最も残念なのは、ハイテク分野の中小企業が非常に少なく、2%に満たない。このようなことがあるので、大統領、首相によって、中小企業政策の強化が指示されている。中小企業に雇用されている労働可能人口は、約 25%。日本と比較すると非常に少ない。これを 2020 年までに、50～60%まで引き上げることが目標となっている。これは野心的な目標で困難なものであるが、実現可能だと考えている。これは、大統領、首相の下、経済の近代化が指導され、さらに労働生産性の向上によって、達成できると考えている。一方、労働生産性の向上によって、放出されてしまう雇用も出てくるため、それらの受け皿のために、中小企業は必要となってくる。この関係で、現在我々は政府と共同で、中小企業の分野ごとの発展のための戦略を策定中である。つまり中小企業の経済の多

角化が必要となる。中小企業の発展を妨げるもう1つの問題がある。それは、すでに存在している様々な障壁を取り除くということだ。障壁には、行政障壁があるが、これは我々は、政府と協力して、可能な限り排除する努力をしており、また、行政による過剰な管理、これも排除し、企業の生産性を高めていくための政策をとっている。

(ここにあるチョコレートは、有名なブランド「コロクノフ」、ロシアの柱の副総裁の会社のものです。是非召し上がってください。)

・昨年、新たな法律、規則が制定され、すでにライセンスを必要とする業種の数の削減、様々な承認を必要とする業種の削減等に取り組んでいる。我々は、中小企業を統括するロシアで最も大きな団体として、政府と協力して中小企業政策に取り組んでいる。我々の課題は、この法律がどう運用されているかということをはっきりと示していくことだ。また、今後どのような法律が必要とされているのか、どのような運用が必要なのかということも検討していくのが役割となる。我々の組織は、非政府組織であるので、批判も受けますが、きちんとした客観的な状況判断に基づいて、政府の政策の修正にも資するようにしている。まだ、全ての問題が解決されたわけではないが、解決に向けた傾向は見ることができる。既に国家による中小企業に対する検査の削減は順調に行われていて、去年1年間で検査の数は半分になった。ライセンスを必要とする業種も大幅に削減しており、およそ1500あったものを70まで減らした。これも終わりではなく、まだ作業を続けている。また、中小企業の自己管理も強化している。つまり、消費者に対する責任を中小企業自身が、きちっと負えるようにすることを目的としている。

・ロシアの柱がどのようなものかについて申し上げたい。ロシアの柱は若い組織で、今年9月で創設8年目を迎える。ロシアの柱は2つの大きな枝に分けられ、まず、様々なギルド、経済団体を統合した。資料の6ページにあるが、一番左に、125の様々な団体が参加している。私自身がこのロシアの柱に参加した経緯は、1つの経済団体であるロシア燃料同盟というものの会長をしていたので、その資格でロシアの柱に参加した。次に真ん中をみて頂きたいが、特に地方の団体を統合しており、ロシアの柱の中では、既に80の連邦構成主体を構成している。これは、ロシアのほぼ全てをカバーしている。最近、政府、労組とも交渉していくという観点から、中小企業経営者を統括する団体も立ち上げた。全てを総合すると、我々の団体としては、およそ35万の中小企業の利益を代表している。我々の団体は、大きい団体になっており、ロシアの各地方全てにおいて名前が知られている。我々は国民が選んだ政府と仕事をしている。我々は政治活動を行っていない。政党との関係についても、中小企業政策を実施している政党全てと関係を持っている。若干、難しい概念であるが、我々が目指しているのはプラズマチックであるが純粹、この2つを同時に追求している。我々は、政府と協力して様々な場を提供している。コンサルティングの場であったり、専門家会合の場であったり、これらの場を関連省庁と協力しながらつくっている。

・また、我々はロシアの連邦商工会議所と共同で新しい中小企業に関する法律の作成にも携わった。そしてこの法律がロシアの国会および大統領によって承認された。

・我々が最も深い関係を維持しているのは、ロシアの経済発展省。この経済発展省のなかに、中小企業を担当している部局がある。我々は、経済発展省とのコンタクトを常に維持しており、彼らの会合に我々の代表者も参加するし、また、彼らも我々の幹部会に出席している。そして、共同で今後実施する必要のある中小企業政策のプロジェクトについて、選択を行っている。2年前に、我々は政府を説得して、すべての関連省庁に対して、中小企業を担当する部局を作るように政府決定を出してもらうことができた。従って、今は全ての省庁に中小企業政策を扱う部局がある。また

我々のイニシアチブによって、中小企業に関する政府間委員会も立ち上げられている。この政府間委員会の議長は、シュバロフ第一副首相が務めています。副議長の1人は、ナビュールナ経済発展大臣で、もう1人の副議長を私が務めている。このように経済界からロシアの政府委員会のこのようなポストに就くのは初めての例だと聞いている。

他にも関連省庁の大臣、知事、ルシコフモスクワ市長も参加しており、非常に活発な議論が行われている。このような政策効果もあり、また、中小企業向けの資金手当の拡大ということもあり、経済危機の前の時点では、中小企業の設立の数は **10%**の純増だった。逆に経済危機の影響を受け、大幅に減ったが、それでも **3%**の増加だった。

・現在、戦略的に優先事項として考えられている分野は、イノベーション分野の中小企業です。つい最近、定期意見フォーラムを開催しまして、ここでは、イノベーションを扱う中小企業を取り上げた。このフォーラムには、プーチン首相も参加した。このように我々のフォーラムにプーチン首相に参加していただくのは、**2** 回目です。これを受けて私の方からプーチン首相には、定期的に参加いただき感謝するとともに、来年もまた、参加していただきたいということを述べた。このフォーラムの結果は、文書にしているところで、我々の研究報告も現在、作成しているところだ。これらが出来次第、皆さんにお送りしたい。英語で資料を作成し、大使館を通じて送付させていただきたい。これが将来像だが、我々としても、海外のパートナー達の経験を積極的に勉強していきたいと思っている。専門家もこれまで指摘しているように、中小企業が国際的に活躍していくのは今後も引き続き増すものと考えている。大企業が進出した後には、中小企業も進出していくことと思う。これは、競争力を維持するために必要なことだ。日本の名だたる大企業がロシアに進出していることはご存じだと思うが、これらはすべて組み立て業務を行っている。優遇措置が与えられる期間があり、その期間の間にローカリゼーションを図って、部品等は現地で調達するということが求められると思う。既に欧州から部品組み立ての企業が、大企業の工場の近辺に建てられつつあります。これは、非常に賢明な策であります。なぜなら、部品の輸入のためには、**5~7%**の関税がかかるからです。従って、我々としては、日本からも中小企業の進出を歓迎し、必要な支援を行いたいと考えている。我々はロシアの国内企業の会員と、進出してくる日本の企業とを差別する考えはない。法的権利の確保等を支援していきたいと考えている。我々は、特別プログラムである「アポーラフレンドシップ」というプロジェクトを立ち上げている。ロシアの関係企業、団体がロシアの移民政策の関係で協力することになっている。これらの海外の企業がロシアで活動しやすくなる協力を行う。強調しておきたいのは、中小企業の国際化というものは、非常に複雑なプロセスであるということだ。大企業は、国際化、海外展開のための必要な人員を豊富に抱えているが、中小企業については、そのような人員が不足しているということがあげられる。そのような観点から統合的な経済団体が必要な支援を行うことが必要になってくる。我々は、既に支部を、ヨーロッパにはチューリッヒに、アジアでは上海に設立している。また、関連する諸国における支部の開設を今後も考えている。既に、イタリア、スウェーデン、フィンランド、トルコ、オーストリアの国々で、この支部の開設に向けての話を進めており、このような海外展開は、今後も続けていくつもりだ。

・今回の訪日により、日本においても支部を設立する必要があるということを実感した。地理的にも、通信面での必要性からも必要であると考えている。我々は常に日本を含む海外における活動が豊富な中小企業に権限を委任することによって、日本とのコンタクトを密にしていきたいと考えている。

・我々は、情報分野における活動も重視しており、インターネットサイトも充実している。今年の夏には、我々のインターネットポータルサイトの英語版ができる予定だ。既に日本語のサイトも準備

が進んでいる。既に北海道における支部設立の準備が進んでいる。北海道知事には有益な情報かもしれない。また、福岡での設立も検討されている。もちろん東京も。私は、訪日の際に、あるアイデアを提案したが、ここでも共有させていただきたい。このように組織的な対応、情報化を進めていくと、非常に有益かつ必要な情報が集積するようになる。中小企業が今後、活用していくうえで、様々な問題が生じるが、これを解決することが必要になる。この観点から我々としては、日本とロシアの間にある政府間委員会を利用したいと考えている。まさに我々が訪日している時に、ロシア側からフリステンコ産業貿易大臣が参加して政府間委員会が開催された。自分もフリステンコ産業貿易大臣が日本に出発する前に電話で話をし、中小企業に関するワーキンググループを、この政府間委員会の下に作ることを提案した。このワーキンググループは、既に存在している地域間交流分科会および貿易投資分科会と緊密な連携をとりながら活動していくことが可能だと思います。フリステンコ大臣の反応は、肯定的なものだった。ただ、大臣が言っていたのは、飛行場の問題については、よく考えなければならない。このようなワーキンググループを設立することによって、例えば税関で生じる問題とか、様々なスタンダードを満たすための規則の問題とか、入国管理の問題、このような問題に迅速に対応することが可能になる。他の国との政府間委員会の下には既に同趣旨のワーキンググループができています。例えば、フィンランドとの間では、成功裡に実施されていて、私も最近会合に参加した。他にはオーストリア、スイスがある。スイスについては、政府間の委員会の下にある中小企業関係のワーキンググループの共同議長を私が務めている。これが、我々の計画、その他の情報ですが、もし何かご関心あればどうぞ。

#### ー全国知事会会長(福岡県知事麻生渡)ー

・ボリソフ会長、有意義な話を広範囲に説明いただき、ありがとうございました。「ロシアの柱」が何を目指しているのか、よく分かった。

#### ー北海道知事(高橋はるみ)ー

・ボリソフ会長、クリノフ副会長にお会いできて大変光栄です。ありがとうございます。ボリソフ会長から興味深い、組織の概要について、あるいはロシア国内における中小企業の現状、あるいは国際的な様々な連携、取組み、将来の目標について、幅広いお話を伺いし、大変興味深く思った。そういったなかで、私が関心をもった一つが、ロシア国内における雇用のカバレッジが 25%とのことで、日本では 8 割以上が中小企業で、その違い。そして将来的にはもっと、ロシアにおいて高めたいと思っておられる。そのことに関心を持った。

#### ーボリソフ会長ー

・追加で申し上げると、GDPに占める割合は非常に少なく、21%となっている。

#### ー北海道知事(高橋はるみ)ー

・私は、今北海道の知事ですが、その前は、日本の中央政府で中小企業政策をやっていた経験がある。そういった経験を踏まえて、申し上げると、国のなかにある中小企業の振興策を考える場合に、中央政府の役割より地方政府の役割の方が格段に高いと思っている。なぜかと言えば、大企業は、ロシアでも日本でもそうだが、全国を活動範囲としてビジネスを行うが、中小企業の場合、多くが、それぞれの地域資源を活用しながら、比較的小さなマーケットを目指すのが通常だから

だ。

・もちろん中央政府の役割として管理と規制緩和がある。多い規制を緩和していくのが法律を通じて中央政府が行うことだが、一方でビジネスを展開するには、どのようなニーズが消費者にあるのか。それを実現するために、それぞれの地域にあるシーズをどう活用するのか、そういったきめ細やかな指導、振興策は中央政府ではなく、地方政府が展開することが重要だと思っている。もちろん、スタートにおいて、地域資源を使って小さく始めたビジネスが世界的な展開をして、ニッチ産業、もの自体は小さいけれども、それが無いとある製品が作れない、中小企業が世界のマーケットの多くをカバーしている、隙間産業。そういう日本企業の成功例はたくさんある。

・いずれにしても中小企業のスタートは、小さく、地域の資源を活用してスタートするわけで、それを育てていく我々政府の役割は大きいと思う。日本の中小企業のロシアに対する投資を歓迎するという話もあった。その上で、最も重要なのは、体力のない、資金力の少ない中小企業なので、政府としての手続き面の簡素化、スピードアップを政府をあげてやっていただくことを要望する。

#### ーボリソフ会長ー

・まさに我々の組織は、そのようなことをすることを目的にしているので、今後もそのような活動をしていきたいと思う。

#### ー全国知事会会長(福岡県知事麻生渡)ー

・北海道、福岡県も事務所を設置する検討対象になっているようで、大変、我々喜んでます。大歓迎をいたします。日本の中小企業がロシアに出て行く場合、出発点として何が必要かという情報です。ロシアの中で、様々な地域、産業分野、プロジェクト、何が起きているのかと。その情報が一番重要でして、それを考えて、それでは我々ほどの分野に進出できる可能性があるのかということを考え始めるわけです。従って、先ほどの政府間の委員会もありますけれども、できるだけ、ロシアで、中小企業に対する支援策はこういうことがあって、経済はどのような方向で改革をされようとしているのか、それぞれのプロジェクト、発展計画がどうなっているのかというような情報をできるだけ迅速に正確に教えていただくと、中小企業の方々は非常に優秀ですから、様々なことを考えて、自分たちのチャンスを見いだしていくと、このように思っている。

#### ーボリソフ会長ー

・もちろん情報提供を行ってきたいと思う。また、この知事会議を使った情報提供も今後検討したいと思う。ご存じかもしれませんが、福岡県出身の田村さんという方と私は会合をもちまして、特に省エネや建設の分野で非常に高度な技術を持って活動されている方で、このような方ともコンタクトを築きながら常に作業を進めている。

今日は本当にありがとうございました。今後も協力を拡大させていきたいと考えています。よろしくお願ひします。

### (3) ボロダフキン外務次官との面談の概要

2010. 5. 4(火) 13:30～

於 ロシア外務省

#### ーボロダフキン外務次官ー

- ・ロシアにお越し下さり、ありがとうございます。今日はロシアと日本の交流関係の、特に地域レベルの関係の発展についての意見交換を行いたいと思う。ロシアと日本はパートナー関係を持っており、戦略的なパートナーシップを築くために頑張っている。そういう二国間関係の大事な一部である地域間交流だが、特に隣接しているロシアの極東や東シベリアの地域は日本との関係を大事にしている。今後、そういう地域レベルでの交流が進んだら、そういう戦略的なパートナーシップの確立に貢献するものと思う。
- ・さきほど、日本の代表団がロシアの地域の首脳と話し合いを行い、その交渉は大変有意義なものであったと伺っている。特にロシアと日本は今後も経済貿易の分野や都市レベルの協約に関して様々な合意を達成して、それを歓迎したいと思う。我々外務省としてはそういう地域交流の促進のためにできる限り後押ししたいと思っている。
- ・それで、今麻生知事さんをお願いしたいと思う。先ほどのロシアの知事との話し合いの結果へのご印象について伺いたい。また、もう一つの質問としては、今後、ロシア外務省は地域間交流のためにどういう貢献を期待しているかについてお教え頂きたい。

#### ー全国知事会会長(福岡県知事麻生渡)ー

- ・ボロダフキン外務次官、今日は大変お忙しい中、こうして会う時間を設けてくださり、感謝申し上げます。今回、ルシコフ・モスクワ市長をはじめ、ロシア側から多くの地方政府代表者が参加し、日本側からは8名の知事あるいは副知事が参加して会議を行い、日本とロシアとの関係について基本的な認識が一致した。
- ・現在、両国とも3年前の世界的な経済不況を乗り越え、次の発展期に向かっている。つまり、ロシアも日本も新しい成長戦略、発展戦略を構築中の段階にあると感じた。
- ・そのような中、ロシア側は極東の開発ということに大きな力点を置き、又、大きな投資をするという方針を明示されている。そして、日本も今後発展していくためには、ロシアとの関係、特に日本は多くの資源を必要としている。そのような資源を得るために、ロシアと積極的に協力関係を拡大し、又、進化をしていく。そして、日本とロシアの間に非常に大きな相互協力関係、補完関係を築くという認識である。
- ・今、日本とロシアの関係は、太平洋のパートナーと位置づけられているが、まさに今後は戦略的なパートナーとして発展していくべき段階に入っていると思う。そして、我々の地域間交流は、国家間の交流、友好を基礎から強化するものであると認識した。国家間の交流に加えて、我々の地域間交流、草の根の交流が積極的になされてこそ、健全な両国間の発展を促し、友好を深めるものであると考えている。
- ・昨日の会議においてはいくつかの提案がなされ、それを実現するために両国で努力するということが合意された。今後、日露間の経済関係をさらに拡大し、活発にするためには、一つは

両国間の渡航、通関手続き、あるいは、定期的な空路の開設といったことについての手続きの簡素化・迅速化を行うことが不可欠である。

・2番目に、経済関係をさらに進めるためには、大企業分野での交流・投資と並行して、中小企業の進出、相互交流が非常に重要で、これを支援する必要があると考える。

・それから、次の点はシベリア鉄道についてである。我々の経済交流関係を単に極東だけではなく、さらに深くロシア西部に及ぼし、広い地域での交流を深めていくためにはシベリア鉄道が非常に大事である。ぜひシベリア鉄道の能力の拡大、あるいは迅速性、きちんと時間通り運行される定時性の能力の拡大が必要である。

・それから、経済発展になぞらえて、環境問題について並行して対処しなければならない。経済発展と環境問題を両立させるための協力を行う必要がある。このような各提案を、それぞれ両国の地方政府が中央政府に要請し、それぞれの立場で努力していく。その際、これからは両国の地方政府代表者との間で直接話ができるように、ホットラインをつくっていこうということで合意した。

・それから、次官の第2番目の御質問だが、一番大切なことは情報である。今、日本では、ロシアで今何が行われているか、具体的にどのような政策やプロジェクトが行われ、例えば、中小企業への支援がどのように行われているのかといった情報が不足している。両国政府の間では、多くの情報交換、意見交換の枠組みがあるが、そこで交換された情報、あるいはこのような場で直接我々が得た情報、日露知事会議での意見交換等は、我々にとって極めて貴重である。何が行われようとしていて、何が起きているのかについて、日本の経済界に正確に情報を提供し、伝達することが何よりも必要であると考え。これがまさに、中小企業を含めた経済・文化・学術交流を促進する一番重要な出発点になると考える。

#### －北海道知事(高橋はるみ)－

・北海道知事の高橋です。一昨年はメドベージェフ大統領やラヴロフ外務大臣にも北海道へお越し頂き、我々道民も大変名誉なことで感謝申し上げます。我々北海道はサハリン州と飛行機で2時間程度と大変近く、また気候条件や自然が似通っており、地域間交流を活発に行っている。ユジノサハリンスクに北海道の事務所があり、北海道の民間の北海道銀行も事務所を置き、活動を行っている。経済交流ばかりではなく、文化交流や青少年交流も活発に行っている。

・ホロシャビン知事とは大変交流を深めているが、今、次官からお話のあった2つ目についてはやはり麻生会長から話があったように様々な情報提供が重要になってくると考える。サハリン州の段階で情報提供を頂くことがあるが、やはりモスクワ発の情報も多々あると経験的に理解していて、そういう点でのロシア外務省の役割に大変期待している。

・そして、ご案内のとおり、北海道は領土問題が存在する地域である。その地域として、ひとこと領土問題にも触れさせて頂きたい。鳩山総理は北海道初の総理である。その鳩山総理とメドベージェフ大統領との首脳会談では、両国間の政治と経済の問題を車の両輪のように進めていくことで一致をし、自分たちの代で領土問題を解決していこうという意欲をお互い述べあっていると承知をしている。私は北方領土問題を抱える地元の知事として、隣人同士である北海道とロシア極東の地域はもとより、日本とロシアのそれぞれの地域間において真のパートナーシップを築き、協力と連携を深めていくためにも、この北方領土問題を早期に解決し、日ロ間に平和条約を締結することを強く望む。

### －秋田県知事(佐竹敬久)－

・秋田県知事の佐竹です。お会いでき光栄です。秋田県とロシア・シベリアとの関係は100年前からの付き合いである。私も1976年、ソビエト連邦時代に初めてロシアを訪問した。

いずれ国際経済の中心は東アジアに移っていくことが確実である。その中で、ヨーロッパからアジアまで広大な国土を持つロシアの役割は非常に重要になるものと思う。その中で、私どもも、単に木材や農産物の輸出入のみならず、たとえば、コムソモリスク・ナ・アムールのスホーイ社と秋田県の航空機産業と接触をしており、そのような技術協力も発展するのではないかと考えている。

・秋田県は石油化学、あるいは銅、鉛等の非鉄金属の精錬所がありまして、いずれにしてもロシアとの相互の貿易拡大を目指している。これからロシア外務省のお力も頂き、一層の友好関係、さらに経済協力という形での21世紀をつくっていききたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

### －山形県知事(吉村美栄子)－

・山形県知事の吉村です。日本海側の秋田の南隣の県です。私は初めて今回ロシアを訪問し、お会いでき光栄です。私のロシアの印象は、若い頃にドストエフスキーやチェーホフを好んで読んでおり、偉大な作家を生み出した国という印象が強い。

・昨年2月に山形県知事に就任し、2年目となるが、山形県の将来を考えると日本海側の対岸の諸国とやはり交流を深めていきたいという考えがあり、その中で、ロシアについては隣の国だがよく分からないというのが正直な印象である。

・15～6年前に山形県庁職員を派遣し、2年ほど滞在したが、ロシア人の奥さんを連れて帰ってきた。近くて遠い国という印象はあるが、文化的、人的、経済交流を通して、活発な交流関係を少しずつ築いて将来につなげていきたいと考えている。具体的には昨年、ハバロフスクの国際見本市に職員を派遣し調査をさせた。それを踏まえ、今年の秋にハバロフスクで商談会を開催する予定である。

・先ほど麻生会長もおっしゃったが、地域と地域の交流を通じてロシアと日本との友好関係の一翼を担いたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

### －ボロダフキン外務次官－

・今、ロシアと日本の地域の交流に関していくつかの発言があった。まず最初に領土問題からスタートしたいと思う。まず、ロシア外務省は日本側と同じく、古く、ソビエト時代から残った問題の解決のためにできる限り努力したいと思う。ロシアと日本の間には、様々なレベルで、首脳レベルでもそういう問題を解決するための様々な話し合いの場が開催されている。しかし、残念ながら、我々と日本との意見の隔たりはかなり大きく残っていると思う。それで、今後我々は日本のパートナーと協力してそういう隔たりをできる限り小さくして、様々な話し合いの枠内で相互受け入れ可能な解決の方式を探したいと思う。

・我々の基本的なアプローチとしては、そういうことに関して、いち早くやりたいと思っているが、例えば2人の知事ではない一般の人が議論している場合、友達ではない者同士が解決策を見つけるのは難しい。しかし、2人の間にとっても親しい友好関係があり、議論があった場合、その友好関係を重視し、両者の間に解決策を見いだすことはもっと簡単であると考えます。今の段階で、日本とロシアの間では、友好関係や交流関係を促進しようとしている。そういう好ましい雰囲気をつくったら、一番難しい問題も解決できるのではないかと期待している。



- ・特に地域間交流の発展、友好的パートナーの雰囲気築くために大きく貢献すると考えている。しかし、そういうパートナーシップを促進するためには、地域レベルだけでなく、もっと広い意味でのパートナーシップが必要で、それはモスクワにとっても東京にとっても利益になると考えている。
- ・先ほど日本からおっしゃった今後の協力分野についてであるが、もちろん様々な資源の開発だけでなく、自然資源の確保や製品の生産、又はエネルギー資源の開発や技術、新エネルギーなどについて日本とロシアが協力できると考えている。一つの例としては領土保全をして、日本とロシアの経済界は鉄道を活発的に運用したら、相互にとっても大切になると考えているが、そういう輸送ルートはシベリア鉄道だけではなく、アジアからヨーロッパまでの海のルートがあり、それは北極用のルートであるが、将来には活用できると思う。
- ・または、日本側からロシアとの地域の協力を促進すると、それは石油貿易だけではなく、技術協力に関してということがあり、ロシア政府の基本的な戦略にも合っているので、今後、有効な分野だと考えている。
- ・もう一つの方法は農業である。双方が協力しながらロシアの農業の人材育成や効率化などで協力したら、今後アジア太平洋の食糧安全に大きく貢献すると考えている。日本はそのアジア太平洋地域の一員であって、日本の食糧安全にも貢献すると考えている。
- ・または、我々は環境保護も大切にしている。それで、今後、極東の開発と環境保護を並立させるつもりである。その開発プロセスには、日本の環境に優しい技術やクリーンな技術を使いたいと思っている。
- ・もう一つの点なんです、地域間交流について、いわば、日本の企業のロシアへの進出や投資について、いつもおっしゃっている。しかし、今の段階でロシアのビジネスは十分な力を持っていて、日本国内でも精力的に活動できると考えている。それで、今後、双方にとって日本の国内でも共同プロジェクトについても考えなければならないと思っている。それはもちろんロシア企業は日本国内での新しいプロジェクトに投資、あるいは技術協力をできるということができれば、議論したら良いと考えている。
- ・または、日本の知事のみさんから、今後ロシア外務省の役割についてとても貴重な発言を伺った。我々はロシアでの入国手続きとか、税関手続きとか又は中小企業の支援についての情報等、ロシアの様々な情報を提供して問題の解決に努めたいと思う。
- ・それは、今ロシア政府はそういう問題の解決のために頑張っている。今年 5 月 12 日からAPEC のためにビジネスマンのロシアの入国手続きを簡素化している。そういう問題もなくなると思う。

#### －全国知事会会長(福岡県知事麻生渡)－

- ・ありがとうございました。我々はぜひロシアの企業に日本で大いに活動して欲しい。それを心から歓迎したい。
- ・それから、2012年にAPECが行われることを我々は非常に歓迎している。APECが行われることで、ウラジオストクやロシアの極東、それに付随する広範囲な地域が非常に大きな将来性を持った地域であるということを、この会議を通じてぜひ世界に大きくアピールする機会にしたいと我々も考えている。
- ・APECを開くまでには多くの準備会議が開かれる。今述べられたように、具体的に貿易上の手続きの簡素化が取られ始めているということである。ぜひその機会に、積極的に民間企業も参加するようなフォーラムが開かれ、この地域の潜在的な発展可能性が2国間だけではなく、広く世界

に認識される機会にすべきだし、そういう活動に対して我々地域も積極的に参加したい。  
ぜひAPECに世界の注目を集め、大成功させたいと思っている。

—ボロダフキン外務次官—

・どうもありがとうございました。今日は麻生さんはじめ知事のみなさんと有意義なお話を伺うことができありがとうございました。無事に帰国されることを願っています。

以上

## 6. 沿海地方視察

### (1) ダリキン沿海地方知事との面談の概要

2010. 5. 5(水) 16:30～

於 沿海地方政府迎賓館

#### －ダリキン知事－

・尊敬する日本の知事の皆様、日ロ知事会議が開催されたモスクワから、はるばるウラジオストクにいらしていただき、沿海地方の知事として、心から、歓迎します。

花見の時期と重なったが、今年は寒くて、いつもより1週間くらい春の訪れが遅れた。しかし、日本の都道府県とウラジオストク、沿海地方等の極東地域におけるロシア自治体との国際交流関係がさらに暖かくなり、これからも深くなりつつあると思う。

・皆さんの中で何回かこちらにお越し頂いている方がいらっしゃると思いますが、鳥取県知事の平井さん、北海道知事の高橋さんをはじめ、みなさんに心からの歓迎申し上げます。

#### －全国知事会会長(福岡県知事麻生渡)－

・今日は大変忙しい中、このような機会を設けていただき、感謝申し上げます。私どもは日露知事会議をモスクワで行った。日露両国の関係、あるいは地方政府同士でどのような交流を行うべきか非常に活発な議論を行い、大きな成果を収めることができたと思う。

・モスクワでの話し合いの中で、ロシア政府としては今後、極東地域・沿海地方の開発に非常に大きな、政策的な、あるいは戦略的な重点を置くという話がたびたびあった。そして、今回訪問している知事は、まさにウラジオストクとは、日本海を挟んで反対側の日本海側の知事である。我々は今後ロシアにおいてどのような開発なり、発展がなされるのか、特に極東地域が今後どのような発展をするのか、強い関心を持っている。それと共に、経済的な関係はもちろんだが、文化関係や芸術関係等において幅広い交流をしたいということで、特にここウラジオストクに立ち寄った次第だ。

・2012年にはウラジオストクでAPECが開催される。これは世界中の目がウラジオストク、沿海地方に注がれるという画期的な時期となる。これを契機に一段と極東ロシアが世界の注目を浴び、そして大きな発展を遂げ、同時に我々日本側地域との協力関係が一層進むことを特に期待する。  
(会長 麻生福岡県知事が高橋北海道知事、佐竹秋田県知事、吉村山形県知事、平井鳥取県知事、中川全国知事会事務総長を紹介)

・本日の場を借りて在ウラジオストク総領事館山田総領事にも一言感謝を申し上げます。日露関係の進展のためには欠かせない方だ。

ウラジオストク市内には15カ所の領事館が開設されており、そのうち、総領事館は7カ所ある。領事館の数でいうとウラジオストクは全ロシアの中で、トップ3に入っている。活動の面で、日本の総領事館は非常にリーダーシップをとっており、感謝の言葉を申し上げた。

・皆様方はせっかくモスクワからいらして頂いているわけですが、ロシアの領土の2/3くらい越え

て来られ、途中で(時差も)7時間くらい超えてしまわれたことになる。

それでロシアの規模を皆さんは実感いただけたとは思いますが、そういう状況なので我々政府、知事などの指導者が自分の仕事を続け、経済交流、交通などあらゆる面で、ロシア国内で仕事が成り立つのが難しいといった事情がある。そういうこともあって、ロシア連邦政府はウラジオストクや沿海地方の役割を大きくしようとしている。

・日ロ知事会議には、仕事のため私は出席できなかったが、今度の知事会議はぜひウラジオストクで開催されることを期待している。

・去年の世界金融危機によって、日ロビジネスの関係者にも、日本の会社やロシアの実業家にも大きな影響が及ぼされてきたわけだが、それでも経済活動においては日本は我々の一番大きなパートナーである。去年にわたって大きく変化したことは、ウラジオストクと境港の間に定期便が開かれたことがある。そしてルースキー島において風力発電所を建設するという契約を三井物産と交わした。また、ウラジオストクの近辺での、これから開かれる会議ゾーンの建築にあたっては、日本の大きな企業から投資を受ける計画があるが、その契約をこれから結ぶ予定だ。さらにAPECサミットに向けての準備について言えば、大橋を2つ建設するが、日本の業者から購入することも計画されている。APECサミットの開催というのは、我々ウラジオストク沿海地方にとっては大きな成長の要素になっているわけだが、それだけではない。これから10年かけて沿海地方の総生産高を3倍にするという大きな計画があり、そのためには石油パイプラインなどの工事も進んでおりまして、ナホトカなどからすでに石油が出荷されている。原油の買い手には日本の企業にも大きく期待している。今回は新潟のみなさんがお見えになっていないが、特に新潟の方はこれに興味を示している。日本にとっては一番近くにある石油パイプラインのターミナルになっている。

・日ロ首脳会議に何回か参加させて頂くことがあったが、我々の国のリーダーが必ず経済協力を強化していこう、進展しようということを指摘しながら色々話し合いをしていた。石油パイプラインをベースにして石油工場をナホトカ近辺で建設する計画もある。このプロジェクトのリーダーであるロスネフチという大きな公社が、可能性として日本の実業家にもこのプロジェクトに参加してもらいたいというように私は聞いている。

・2013年まではシベリアとサハリン両方からガスパイプラインの建築が完成される予定だが、それにより、また新たな日本と資源エネルギー分野での協力の進展が可能になると思う。

・ガспロム公社の事業計画では、ガス加工工場を3カ所造る(液体化工場)ということが書かれているが、日本では新潟県になるが、大きな受け入れ先の一つになる。また、アンモニア工場、ヘリウム工場の計画も作成中だ。

・インフラ整備に関わっているプロジェクトの他にも、環境保全のプロジェクトにも大きな投資が国からなされている。まず原子力潜水艦の解体事業、そしてウラジオストク市街の浄化施設は大きく改善されたところだが、近いうちにその浄化施設は完成されて日本海にきれいな水を捨てるのが可能になる。そして発電所。発電兼暖房等をガスに切り替えるという大きな計画もあり、それでこのような環境に関わるプロジェクトに国が何十億ドルも投資しようというものである。

・特別に指摘しなければならないことは、ルースキー島に新しく連邦大学を作る計画だ。学生数で言うと、5万人くらいという大規模な計画で、そして医学部や海洋学部も設けており、人間の寿命を大きく延ばそうという研究を幅広く行っていこうという学部も設ける予定にしている。日本の研究所の経験なども必要になってくると思うので、ご協力願いたい。

・今日の時間は限られており、全プロジェクトについての説明は不可能だが、連邦政府の政令で

は 60 の計画が採用されており、それによって日本との協力分野がさらに拡大していくのではないかと確信している。ありがとうございました。

－全国知事会会長(福岡県知事麻生渡)－

・ありがとうございました。それでは北から。

－北海道知事(高橋はるみ)－

・北海道知事の高橋です。ダリキン知事とはここウラジオストクで一昨年、去年は東京でお目にかかった。再会でできてうれしい。一昨年の秋にウラジオストクを訪問させて頂いた時と、今回と街の様子が大きく変わっていることに驚いている。APECの開催に向けて街の開発が大きく進み、街に活気が溢れている様子を大変感銘を受けて見ていた。私たちの日本側知事の代表団はモスクワにおいて日ロの知事会談を行うと同時に、桜の植樹やトラヴニコフ地域発展省次官等連邦政府の要人にもお会いし、様々な情報交換をさせて頂いた。

・特にトラヴニコフ次官からは、沿海地方をはじめ極東の開発が連邦政府にとって大変重要である点、そして、そのためにも日本とロシアの地域間の交流が重要であるという発言を頂き、大変、我々としても両地域の交流拡大の意を強くしたところである。

・私たち北海道はより近い隣人同士ということで、サハリン州との提携がより進化している現状にはあるが、ウラジオストクでもAPECの関連工事に我々北海道の企業も一部参画させて頂いているし、また、ウラジオストクの住民の方々のために快適な住宅を提供するべく、ウラジオストク近郊で北海道の住宅メーカーがモデルハウスを建築しているところ。

・今、ダリキン知事から様々な情報も頂いたので、さらに我々としても沿海地方におけるプロジェクトが 60 もあるということを伺い、情報を収集しながら北海道との交流拡大に努めていきたいと思っている。

－山形県知事(吉村美栄子)－

・はじめまして。山形県知事の吉村美栄子です。皆様と本日お会いでき、大変光栄に思います。ロシアを訪問したのは初めてで、今日ウラジオストクを訪れ、船の上から開発の状況を見せて頂いたが、2012年のAPECに向けての大橋の建設など、大変スケールの大きな開発が行われていることに感銘を受けた。これだけ大きな開発がなされるということは、ロシア中央政府が極東に力を入れているという証拠だと思う。

・山形県の位置は、東京から北に 300 km、新潟の北隣となる。日本海側の拠点港の一つである酒田港がある。酒田港は大変昔からの古い港であり、ロシアとも 30 年来の付き合いがある。極東ロシアでは日本製品や食品への信頼度が高いと聞いている。山形県はおいしいものがたくさんとれる県として日本でも大変有名なところ。例えば、おいしいお米や果物王国と呼ばれるほど多彩な果物が生産されている。さくらんぼは日本一で、メロン、梨、りんご、すいか等数え切れないほどの果物が生産されている。それから、バラやアルストロメリアといった花の栽培も盛んだ。こういう農産物をたくさん生産しているので、これからの貿易潜在力は高いと考えている。

・山形県はこれから極東ロシアとの経済交流を拡大するために、昨年ハバロフスクの国際見本市に職員を派遣し、調査を行った。これを踏まえて、今年の秋にはハバロフスクで商談会を行う予定だ。こうしたハバロフスクでの取り組みを足がかりにして、沿海地方を含めて極東ロシアとの

貿易の一層の推進を図っていきたいと考えている。

・山形では映画の撮影等も盛んに行われており、観光地としても大変魅力のあるところだ。観光交流や青少年交流といったものも含めて、様々な交流を極東ロシアと行っていきたい。こうして地域と地域との交流を盛んにして友好関係を築き、日本とロシアとのさらなる友好交流の一翼を担いたいと思う。

#### －秋田県知事(佐竹敬久)－

・秋田県知事の佐竹です。6ヶ月ぶりの再会で大変うれしく思っている。1月に知事さんが秋田県にお見えになる予定があるということで、スキー場を整備して待っていたが、残念ながらおおいでになれないということで、できるだけ早く秋田県においで頂きたいと思っている。

・ダリキン知事さんのご理解の下、3月に包括協定を結ばさせて頂き、感謝申し上げます。

私どもはその包括協定に基づいて、今、具体的にプログラムを進めつつある。観光交流の分野では、この9月1日に日本最大の客船「飛鳥II」に乗って、秋田から800人の観光客をこのウラジオストクへ私が団長で連れて参る予定だ。これには私のみならず、秋田県議会の議長や秋田県内の重要な経済人も同行する。いずれ詳細なご連絡を申し上げますので、よろしく願いたい。

・また、今年中にウラジオストク市に秋田の連絡事務所を開設するとともに、これから長いお付き合いの中で、貿易拡大を図るということで、秋田港に県が大きな投資をしている。

・また、ウラジオ極東大学とこの4月に、秋田の県立国際教養大学が留学生の交換協定を締結した。

・それから、様々なAPEC関係の建設工事に伴って、秋田県にロシアの建設業の調査団が先日入っている。

・さらに、今のお話の、人間を長生きさせるための研究ということだが、秋田には心臓と脳の日本最高水準の医療研究所がある。

・いずれにしても一つ一つ個々の具体的なプログラムを進めていくつもりなので、ダリキン知事はじめ、皆さんとの様々な形での連絡体制を強化して相互の発展に結びつけたいと思う。よろしく願いたい。

#### －鳥取県知事(平井伸治)－

・まず、ダリキン知事がこの度、2月に再選されて、5年の任期を迎えるということで、お喜びを申し上げます。私はまだこれから1年後に選挙があるかないか、出るかでないかという状況なので、非常にうらやましく思っている。今日はダリキン知事と昨年夏に語り合いました姉妹提携につきまして、見事に今日締結となり、本当にありがとうございましたと感謝を申し上げます。考えてみれば今から3年前に、境港で、ぜひこれからは経済交流など実質的な交流をやるとういうことをお互いに話し、境港とウラジオストクを結ぶ航路について語り合った。当時は夢であったが、それが昨年7月に現実のものとなった。

・今朝も経済人や観光関係者と話し合ってきたが、色々と課題もある。例えば全ロシアから観光客をまずウラジオストクへ集めて、そこから鳥取へ向かわせようという青少年向けの観光商品も開発された。

・また、境港に荷をまとめてそれで運ぼうというプロジェクトも経済人同士で話があると聞いた。

我々は日ロの経済交流等を通して本当の意味のそれぞれの地域の繁栄を導かなければならないと思っている。先日の日ロ知事会議がモスクワで開かれた結論として、私も主張したが、シベリア鉄道とこうした定期航路を組み合わせるとロシアの西部ヨーロッパに至る交通を開こうではないか。その意味でウラジオストクは結節点になると。そういう協議を決議としてまとめさせて頂いた。ルースキー島へかかる橋と同じように、ダリキン知事と私も一人の知事として日ロの架け橋となるように邁進して参りたいと思う。

・まず、これから5月23日に再会しますので、その時に詳しい協議をさせて頂きたいと思っているが、太平洋経済会議が7月はじめに開催されるということで、ぜひまた知事にもご了解頂いて「私も出席して良いかな」と。今日は実は経済サービス大学の皆さんと話をしたところだ。

・それから、サッカークラブのルチ・エネルギーを優勝させなければならない、上のリーグへ戻さなければならない。そのために鳥取県にキャンプを張るという構想もあるようなので、鳥取県も応援したいと思う。

・これから色々と協力の輪を広げていきたいと思う。これからもご指導賜ることをお願い申し上げ、私からのメッセージとさせて頂きたい。

#### －ダリキン知事－

・知事のみなさんから大変有意義なお話を頂き、ありがとうございました。

いくつかお答えするところもあり、また提案もある。まず、北海道の高橋さんにお聞きしたい。

・昔からこちらの水産業者が商品を北海道に流してきたと思うが、水産の分野ではかなり経験が豊富だ。そこで、日本の技術を活かして、水産資源加工工場を作りませんかというのが提案。北海道の業者にも入って頂いて、合弁会社のような形で今までの経験を活かして新たに立派な企業を作りませんかという提案をしたい。

・吉村知事から山形県の紹介をして頂いて、以前から農業の有名なところだと聞いており、私はかなり興味を持った。それでハバロフスクだけではなく、ウラジオストクでも開かれる見本市にも参加して頂けたらと思うし、それによってこれからの協力計画が整っていくのではないかと考えてる。必要なことがあったらおっしゃっていただきたい。

・また、青年交流に関しても私たちは全面的に支持をしており、最近の交流では、去年、中国の四川で大きな地震があり、その後2回、500人くらいの子どもの視察団を受け入れた。実はウラジオストクの近辺には夏期は1,100人、冬期は650人が同時に宿泊できる施設がある。全ロシアから集まって勉強しながら交流をするというプログラムが行われているが、それも国際化して色々な国から集まって交流をしたいと思う。

・また、秋田の団体がこちらを訪れることを、首を長くしてお待ちしています。秋田県、鳥取県とはかなり昔から条約が結ばれているが、これからの計画もきちんと固まっている。そこまで達していない都道府県に関しては、これから同じような提携を締結してはどうかということを私から提案したいと思うし、今日の議事録にも同じようなことを残したいと思う。

・前から友情関係を保ってきた平井鳥取県知事の言葉にお答えしますと、近年は日本からの中古車の輸入が大幅に下がってきたわけだが、それと同時にウラジオストク市内にいくつもの車を組み立てる工場ができています。現在、日産とトヨタとも交渉が行われているところだ。新しい航路に関して言えば、今年新しいフェリーを手に入れて、ウラジオストク、カムチャツカ、サハリンの

定期航路を開きたいと思っている。それで、境港とウラジオストクの航路をサハリンやカムチャツカへ延ばしても良いのではないかと考えている。特にカムチャツカのことを考えれば、日本人のお客さんが多いわけだし。

・麻生知事さんのお言葉にお答えすると、福岡県はすぐそばに釜山があると思う。そしてウラジオストクの漁船が福岡に入港してオークションに参加することもあったようだ。最近は全て釜山に移っているようだ、フェリーの定期航路も便利に使いやすくなっていると聞いている。それで、ロシアの漁船が釜山ではなく、再び福岡を訪れることに我々が努力することは可能だと思うので、それも議事録に反映させたいと思う。

・今まで、締結されていない県と友情、発展協定を結びたいと思っているし、鳥取県と同じような有意義な交流ができれば私もうれしく思う。

・それで、これからビジネスの関係者、自治体の関係者、市町村の関係者、文化の関係者がどこで会って、今後の交流進展に関して話し合いができるかという、まず経済関係者は今年 7 月 4 日から開かれる第4回太平洋経済会議ということになる。と同時に、ウラジオストクの 150 周年記念日が重なるので、ウラジオストクの市長を代表して、私がみなさんをご招待したいと思う。連邦の首脳も来ると思う。

・もう一つは無限(?)の自然という環境フォーラムで 9 月 9 日にある。今年は、沿海地方はトラの1年となっているが、トラをテーマにしたイベントが数多く開催される。

・そしてルースキー島にはサミットだけでなく、リクリエーションエリアを造ろうという大きな計画がありまして、ロシア連邦政府の政令にも認められている。それで沿海地方の絶滅に近い動物、トラやヒョウをはじめ環境保全をテーマにした施設を色々と造っていきたいと思います。

・もう一つなんです、今年 5 月 11 日からウラジオストク映画祭が開催される。太平洋諸国の映画をテーマにした映画祭だが、毎年日本からの映画もいくつか上映される。

・同じく5月だが、全世界から水産関係者が集まってくる水産会議を行いたいと思う。

今年中にはこういうイベントが予定されておりますので、ぜひお越しいただきたい。ありがとうございました。

#### －北海道知事(高橋はるみ)－

・先ほどダリキン知事から北海道の水産加工メーカーがこちらに進出して、水産加工工場を造らないかという具体的なお提案があったので、早速持ち帰って北海道の漁業関係者の意向の確認をしたいと思う。

#### －全国知事会会長(福岡県知事麻生渡)－

・冒頭、数多くの魅力的なプロジェクトをご紹介して頂いたが、その全体を紹介したような資料等があれば御紹介頂きたい。

#### －ダリキン知事－

・今日中にはみなさんにそういう文章をお渡ししたいと思う。

#### －全国知事会会長(福岡県知事麻生渡)－

・ダリキン知事は冒頭、風力発電を行うと言われた。ロシアは溢れる程エネルギーを生産されて



いると思うが、それでも風力発電をするのはなぜか。

－ダリキン知事－

・天然資源がいくらあるといっても限りがある。それを大事にしないといけない。全世界の動向も興味深く研究しているが、その第一歩としてまずは風力発電所を作りたいと思っている。その次の一歩として、日本で最近注目を集めている太陽発電所にも取り組みたいと思う。

－山形県知事(吉村美栄子)－

・先ほどダリキン知事がおっしゃったウラジオストクでの見本市についての資料を頂けるのか。後ほどで結構だが。

－ダリキン知事－

・可能性としてはいくつかあるが、農業関係の見本市もあって、経済会議というものもある。ただ、農業の見本市は時期が遅れましたので、来年必ずご参加頂ければと思う。今日中にパンフレットはお渡しする。

－山形県知事(吉村美栄子)－

・ありがとうございます。

－沿海地方政府議会議長－

・ご来場のみなさん、ご臨席賜りありがとうございます。ダリキン知事にいくつか付け加えて申し上げると、外交、国際交流にはいくつかのレベルがあり、知事の交流もあれば草の根の交流もある。そこで私から一つ指摘すると、議員の交流も非常に意味が深いと思う。今年新潟で開催される日本海議会関係者の会議は私たちもそれを重視しているし、みなさんからも注目を払って頂ければと思う。

(以上)

## (2) 極東工科大学訪問

2010. 5. 6(木)9:30～

於 極東工科大学

### －ファトクリン極東国立工科大学学長－

皆さん、おはようございます。ようこそ極東国立工科大学にお越し下さいました。知事の方々にこんな前までご列席を賜っているのは、我々は初めてなので、大変名誉に思っております。私は極東国立工科大学学長、ファトクリンと申します。よろしく申し上げます。

ロシア側から本日、出席させていただきますのは、副学長を初め、我々の大学の教授等でございます。日本では今のところはゴールデンウィーク、みどりの日を初め、いろいろなお祭りがあると私はお聞きしておりますが、それではおめでたいと思います。みどりの日といいますと、大自然が生まれ変わるという意味も込められているかと思いますが、それで、我々の日本との関係も生まれ変わると私は期待しております。

極東国立工科大学というのはロシア極東において、一番大きな技術を教えるところです。学生の数でいいますと3万5,000人以上おりまして、大学の枠内では17カ所の学院、12カ所の支部、そして、30カ所の研究所が含まれています。我々が接している学生の中では、石油・ガス関係または飛行機の製造などのハイテク、高い技術の専門科がたくさんあります。そして、鉱山や機械製造、ITなど、そして、人文学などの専門家を育成しております。同じ方面でああいう研究も進めていくわけでございます。

本日、指摘しておきたいのは我々の国際交流事業ですが、17国の80以上のパートナーを持ちまして、本日、私が申し上げたいのは日本の大学とか日本の業界との交流です。日本の学習機関の中で9つのところとの交流が盛んに行われていまして、青森大学、室蘭大学、国士舘大学、大阪大学などがありまして、そしてみちのく銀行を含め、三井戦略研究所というところとも密接に協力をしています。あらゆる協定を締結しており、学習交流とか教養交流を始め、文化交流などを盛んに行ってきました。我々の大学で名誉教授を受けたのは8人の日本の博士です。

文化交流、学習交流も盛んに行われていますけれども、共同事業というものも盛んです。共同研究事業といいますと、まず、住宅をつくる技術を集中をして、石炭埋蔵のガス開発、省エネ環境などの分野で共同研究事業を行ってきました。私は全面的な開発といいますか、これから発展する方面は環境だというふうに言ってもいいと思います。

我々の大学は近年、日本語学科を開いて、非常に日本と仕事のできる人材を育成してきました。それで、本日、皆さんに日本語の授業に来ていただきたいと思います。それで、我々の相互理解、共同計画、それから、これから今後の交流を強調しながら、簡単ではございますが、ごあいさつとさせていただきます。ありがとうございます。

### －全国知事会会長(福岡県知事麻生渡)－

おはようございます。

今日は大変伝統のある国立極東工科大学に、私どもは訪問をさせていただきました。快く受け入れていただきまして、心から感謝を申し上げます。

我々はモスクワで日露知事会議を行いました。その目的は両国の地方政府同士で多様な交流を進めていく、それがまた、両国の友好・協力関係発展の基礎をなすと考えているからであります。モスクワの会議では、ロシア中央政府の代表者、ルシコフ・モスクワ市長を初め、地方政府代表者の皆様、一致して今後のロシアは太平洋国家としまして、極東の開発に大きな力を入れていきたいということをございました。我々はこのようなロシア政府の大きな方針を大いに歓迎するものでございます。

ロシアの極東開発が進む、その一つの中心はやはり資源を中心としたものであらうと思います。日本も今、世界的な大不況を克服しまして、新しい成長戦略を考えております。発展するためには、日本は資源がない国でございます。大いに資源を確保したい。そういう点から考えましても、日本はロシアの極東開発ということは、我々の発展の直接的な利益につながるものであり、また、日本とロシアとの関係は、非常に大きな相互補完関係を持って、ともに成長・発展できる関係であると思っています。特に今後の日本とロシアとの関係は、アジア太平洋のパートナーでありますけれども、さらに戦略的なパートナーに発展をさせていく、そのような方針の表明もございました。

およそ地域の発展ということにとりまして、大学ほど重要なものはないわけでありまして、大学は地域の発展にとって不可欠なすぐれた人材を教育し、社会に送り出す役割を持っています。また、我々は様々な地域的な政策を形成し、また、実行いたしますため、産学官協力とっておりますけれども、大学と協力しまして新しい知恵や、新しい考え方をどんどん取り入れて実行いたしております。そういう意味で、大学は我々のまさに知恵袋であるわけでありまして、すぐれた大学を持つということは、地域の発展上、不可欠な条件であり、逆にすぐれた大学があれば、我々の地域の発展が図られるということでもあります。

一方、私どもはまさにグローバル時代に生きているわけでありまして、我々は常に大きな世界的な視野を持って活動する必要がありますし、学生諸君も広い世界的な知識と視野を持って学問に励んでいき、また、活動するということが不可欠であります。今日、私どもはこの極東工科大学の活動状況をぜひお聞きして、今後、我々の地域と皆さんの地域との協力におきまして、不可欠であります学術あるいは大学間の協力、これを進めていきたい。そのためにぜひ皆さんの大学の模様を知りたいと思っております。また、今日は特に本大学で日本語を勉強している諸君ともお会いし、また、日本語で討論ができるということでございます。このような機会を特に設けていただきまして、心から感謝を申し上げます。

#### －ファトクリン極東国立工科大学学長－

皆さんがいらっしゃるこちらの私どもの周辺なんですけれども、非常に意味のあるところだと指摘したいと思います。つまり、100年以上前に、ここでロシア極東に初めての大学が生まれたわけでございます。皆様のちょうど手前にあるレンガでつくったものは、1899年、明治時代につくられた東方学院の建物です。その東方学院というのは、ロシア極東において初めてつくられた高等学校でございます。こちらの大学についてもちょっとしたプレゼンテーションも用意させていただきましたが、その歴史も含めて、いろいろ紹介していきたいと思っております。

国際交流担当の副学長、ベロフムです。よろしく申し上げます。

#### －ベロフム極東国立工科大学副学長－

極東国立工科大学について話したいと思います。

学長が申し上げたとおり、我々の大学は極東地域における一番古い学校の一つでございますが、その歴史は東方学院に由来しております。これは非常に古い写真ですけれども、皆さんの手前にあるレンガづくりの建物が写っています。それで、1918年に初めて工科大学、工科高等学校が創立されました。ロシア極東において初めて技師を育てる学校ができたわけでございます。

初期には、鉱山学部と技術学部がありまして、学生の総数は600人ぐらいしかいませんでした。初期のうちの大学の学長でありましたメントリムッシュ、ヘイアムアッシュらの写真も載っております。

1930年に学部がさらに増えて、大学全体の規模も大きくなりました。さらに学生の総数はやっと1,000人を超えました。それで、1940年に造船学、1944年にエネルギー学、51年には木材学の学部が設立されました。そして、その次にも幾つかの学部が開かれて、そういうことによって、極東国立工科大学はロシア極東において一番大きな技術関係の大学になってきました。

それで、現在の状況を申し上げますと、石油・ガス関係を初め、海洋技術、鉱山技術、造船技術、環境などをテーマにした研究または学習が盛んに行われています。現在の構成、構造を申し上げますと、14カ所の学院、その中に99の学部、ほかにも12カ所の支部が別個にございます。そして、海外にも2つの学校がございます。それで、現在、もともとのソ連式の教育システムも続けておりまして、つまり、5年制まで勉強をするシステムもまだ生きているんですけれども、アメリカで言う修士課程、4年と6年のシステムも取り入れております。ほかにも大学院がございまして、修士、博士の課程がございます。あらゆる方面で現在、160以上の学習プログラムも開発しています。現在、夜間と通信以外での学生の総数は2万3,921人だそうです。

現在の我々の大学の建物を少し紹介したいと思います。本部と鉱山学部、造船学部、建築学部、ラジオ技師学部、大学の施設の中で展覧会場、そして、美術館などもあります。ラジオ電子学部の風景です。石油・ガス学、環境学、うちの研究所の様子です。海外のパートナーの信用を受けながら、幾つかの研究センターを開いてきていまして、その中には日本の島津社、そして、ヒューレット・パッカードなどがあります。

我々の大学では15の研究部がありまして、一応、30以上の方面で研究を行っています。活発に積極的に連邦の研究プログラムにも参加してきています。地元の企業とも密接に関係を持ちまして、その企業の参加を受けながら、共同研究も行ってきました。日本の室蘭大学を初め、共同研究事業、共同ラボも持っています。我々のパートナーはあらゆる国の単科大学にあるというふうに認識しているんですけれども、ごらんのようにございます。そして、研究の方面に応じて国際研究事業もあらゆるテーマに従って行われてきています。町の文化活動にも積極的に参加をしまして、皆さんが今、おられるところは我々大学が運営している劇場です。もちろん、図書館とか体育館もありまして、大いに使われてございます。

簡単ですが、以上で紹介をさせていただきました。ありがとうございました。

#### －ファトクリン極東国立工科大学学長－

100年以上の歴史を持っているうちの大学を、三、四分ぐらいで紹介することは無理に近いのですが、できることをしました。3,000人以上の先生が勤めておりますが、そのうちの何人かが今日はここに来ているわけでございます。もし皆さんのほうからご質問がありましたら、学習プログラムや研究プログラム、共同研究事業などについて、いろいろ話が出来ると思います。

それで、ちょっとディスカッションに入る前に一つ指摘したいところがありまして、ロシア・アジア太平洋諸国共同事業センターというのを設けてまして、我々の大学をベースにして連邦政府がつくった

施設なんですけれども、アジア太平洋地域諸国との学習研究などの交流を管理しているところでございます。それで、我々の大学だけではなく、我々が持っているネットワークの各大学についても情報を与えられますし、皆さんのほうからもし何かありましたら、ご質問でもありましたら、我々はお答えいたします。

#### －北海道知事(高橋はるみ)－

北海道知事の高橋と申します。

今日は極東国立工科大学のファトクリン学長を初め、副学長、そして、各教授の皆様方とこうやって意見交換ができることを大変うれしく思います。今、ご説明にもございましたとおり、極東工科大学と多くの国際交流が行われている中についてで、一つとして北海道の中におきましても室蘭工業大学、それから、札幌学院大学とさまざまな分野で提携をさせていただいていることを私自身、大変うれしく思っております。特に室蘭工業大学との間では、室工大、そして、こちらの極東工科大学、加えて三井物産生命研究所の三者による学術交流協定の締結をされておりまして、エネルギー分野、環境分野などさまざまなレベルの研究協力が行われていると、先ほどの副学長のご紹介の中でも触れてございまして、私も室蘭サイドからいろいろな情報を得ているところです。

最近、私が室蘭に行ったときに、室蘭工業大学で最近、一生懸命やっている研究の一つの分野として、シップリサイクルというのがありました。それはでき上がった船を解体をして、それぞれすべての部分を改めて新しい分野にリサイクルして使うという試みです。船に使われる鉄というのは大変純度の高い鉄だそうでありまして、そのことを廃船として、船をそのまま使わない状況に置くのは大変無駄である、それを必ず新たな分野に使うことによって、今、資源というものが世界的になくなっていく中で、大変有効な技術だというふうに担当の室蘭工業大学の先生から説明を受けました。こういった分野も含めて、これからますます北海道の大学と極東国立工科大学との連携が進めばいいというふうに、北海道の知事としても思いました。

そして、一つ、多くの教授さん方がおられますので、私から質問させていただきたいと思っておりますけれども、よろしいでしょうか。今、ウラジオストクの中で 2012 年、APEC 開催に向けて大きな橋梁の橋の建設であるとか、道路整備であるとか、さまざまな動きが出てきておりますが、こういった具体的な工事の分野の効率的な運営などに、こちらの極東国立工科大学の研究者の方々は、何がしかの連携をしておられるかどうかという点です。

#### －ファトクリン極東国立工科大学学長－

我々の大学、そして、我々の日露研究事業について、良い言葉をいただきましてありがとうございました。

我々の教師と学生がどのような程度でAPECサイエントというのを設けて事業に参加しているかといいますと、それほどではないという結論を出します。できるだけは参加したいと思っております。現在、溶接された構造のテストなどに取り組んでいるんですが、そして、橋の建築に使われているボルトなどのテストを行ったり、そして、海底の研究やテスト、つまり、橋の柱が海底に置かれるんですけども、その海底の様子の研究などにも取り組んで、そして、うちの建築学部の先生がサミットの施設の配置図をつくったというように、ある程度、参加しているわけでございます。

もう一つ、つけ加えたいのは、APECサミット施設の近くに日本製の風力発電所、ウインドタービンがつけられる計画もありまして、そして、ハイソクマストとか、ウインドタービンの開始に関する計算

などは、我々の学者によって行われてきましたし、これから取り付ける作業にも我々の専門家がおります。共同事業ですが、もう一つ大事なのは、うちの学生は夏休みになるとAPECサミットに向けての工事に一生懸命に参加しているわけです。もう一つ大事なのは、うちの大学を卒業した専門家も、この工事現場で働いている人が多いというわけでございます。

#### －鳥取県知事(平井伸治)－

私のほうから簡単に少しコメントさせていただきたいと思うんですけども、2007年にこの工科大学のトゥルモフさんに、鳥取のほうへ来ていただきました。そのとき、鳥取県、それから韓国、そして中国、モンゴルとまたがった環日本海地域の地域協議会を設立をしたわけであります。

ぜひとも先ほどファトクリン学長さんがおっしゃったとおり、環日本海地域の学术交流は大切だと思いますので、促進をしていただければと思います。2007年の各国間の合意に基づきまして、今では鳥取県と江原道、そして、ここウラジオストクを結び航路が開設をされました。わずか220ドルで鳥取まで来られますので、ぜひ学生の交流などを図っていただければありがたいと思います。

最後に、一つ工科大学の皆様にお礼を申し上げたいと思います。皆様が育てていただきました優秀な人材が今、鳥取県で活躍をしています。クセーニャさんです、国際交流を担当しています。

#### －ファトクリン極東国立工科大学学長－

我々の卒業生が日本に就職して、日本で活躍していることを大変名誉に思っています。クセーニャさんに限らず、ああいう日本の会社、あとは研究所に勤めている我々の卒業生がおりまして、ここに来て日本の話をすると、必ず一番いい話をしたり、一番いい印象しか持って帰らないということも指摘したいと思います。

#### －秋田県知事(佐竹敬久)－

私は秋田県知事の佐竹でございます。今日はこのようなお時間をいただきましてありがとうございます。

私も秋田には国の大学と県の大学がございます。いずれも国も県も工科系大学を持っております。その中で、特に工科系大学の研究開発というのは、大変なお金がかかるわけでありますが、研究支援の確保ということについて、どういう形で研究支援を確保しているのかということが一つ、もう一つはこの大学でどのぐらいの留学生を受け入れているのか、この2つをお聞きしたいと思います。

#### －ファトクリン極東国立工科大学学長－

支援に関していえば、一つ大きく支援していただいているのは、やっぱり連邦プログラムです。2008年にロシアの大学の中でイノベーションコンテストというのが開催されて、我々はそれに優勝した。それで10億ルーブルぐらいの資金を受けて、その運用の仕方についていえば、まず、新しい設備を購入しましたし、そして、先生方は研究者の研修にもある程度使いました。日本にも研修に送ることがありました。

そして、連邦がやっぱり一定の目的に応じて支援をするという、一点一点のプログラムというものありまして、我々はそれにも応募しています。それで、こういうプログラムにも一生懸命に応募したことによって、去年だけでも1億ルーブルぐらいの融資を受けているわけでございます。

もう一つ大事な要素というのは、最近の実業界も研究に興味を持ち始めて、まず水力発電、そして水中の工事に関する民間の融資も受けながら、環境に関する研究や機械の製造、いろいろありますがロシア国内企業だけではなく、海外の企業も時には興味を示しているわけでございます。とにかく大々的に発展しようと思えば、それなりに手段があると思います。

我々の大学の留学生に関していいますと、300人ほどおまして、8カ国からの留学生です。大勢いるのはやはり中国の方です。日本の大学からの留学生は、どちらかというと短期留学生が多いわけです。みちのく銀行の支援を受けながら、みちのく銀行の学習センターを利用して日本語の授業も行うことがあります。そのみちのく銀行学習センターというのは我々の施設の一つなんです。つまり、日本ではなくて、こっちでロシア人が日本語を勉強するという施設なんですけれども、最近ではロシア人だけでなく、大体、どこの方も日本語を勉強しているわけです。そして、留学生会館というのでも今、作り始めています。それによって留学生の数も大いにふえていくのではないかと期待しております。ありがとうございました。

#### －山形県知事(吉村美栄子)－

山形県知事の吉村美栄子です。よろしく申し上げます。

このように伝統のある大学を訪問させていただいて、大変喜ばしく思っております。山形県には4つの大学がありますが、その中に国の大学で山形大学というのがございます。その山形大学の工学部というのが大変レベルの高いところでございまして、全国的にも知られているところです。今、注目されているのは2つありまして、一つは有機EL、有機エレクトロルミネッセンスの研究と、それから、プラスチックの研究なんです。プラスチックはへこんでもすぐ戻る素材というものを開発いたしました。この2つが今のところ注目を浴びています。

有機ELの方は国の支援事業の採択を受けたところなんです。世界中からノーベル賞級の研究者を招きまして、今からいろいろな研究を始めるという段階から、もっと研究開発を進めるという段階に至っています。2008年に北海道の洞爺湖サミットがありましたけれども、あのとき、これに合わせて設置された先進的な環境技術の展示施設で飾られた照明ですけれども、それは山形大学が主導する研究所で開発した有機ELの照明でした。このように伝統のある極東国立工科大学と山形大学とのいろいろな交流というものも進めばいいなというふうに、今日、訪れて思ったところでございます。

それから、あと質問なんですけれども、大変優秀な学生さんがここで研究を行って就職なさると思いますが、就職はどのようになっていますか、就職率とか、それから、どういう地域に就職しているとか、そういうのをお聞かせいただければと思います。

#### －ファクトリン極東国立工科大学学長－

まず、共同研究事業ですけれども、プラスチックというのは最近やり始めて、とても見通しのあるテーマだと思いますので、そういう関係では何かはやってみれば、何かやってみることでいいと思いますので、よろしく申し上げます。工学部というのもありまして、最近、飛行機やヘリコプターをつくるような機械などを国の支援を受けて購入しているわけでございますので、新しいレベルの研究ができると思います。さらに新しい素材などを開発しているところに目を向けているわけでございますので、とても我々の研究のテーマにも合っているようなものでございます。

ちなみに、3,500人ぐらい卒業するんですけれども、そのうち成績優秀者というのは2割しかない

んですね。ただし、就職率というのは一定なんです、大学としては。授業している途中であらゆる知識を持った上で、自分の専門を生かす分に関しては特に問題はないと思います。どこの企業も喜んで就職させてくれると思います。

ただし、専門を生かそうと思うのはまだ 100%ではないですね。学生のうちの何%か、ロシアの違う地方へ行って、そこで就職したり、海外へ行って、そこで就職したりするという現象もありますし、そして、昔の卒業試験に向けて研修所での授業というのもやりまして、つまり、再教育授業も設けていまして、50 以上のプログラムがあります。大体のことを言いますと、卒業者はみんな受けた教育のレベル、水準に属していると私はお聞きしているんですが。

ちょっと最後の質問をしていただいてから、日本語の授業に移りたいと思います。

#### ー全国知事会会長(福岡県知事麻生渡)ー

ここに2つの石炭化学についてのプロジェクトが紹介されています。一つはアンダーグラウンド工法ガスステーション、もう一つはコウギン・プロセッシング・シンセティックビルドビーヤ。我々はこの2つのコールサイエンスに非常に興味を持っておりますけれども、この2つのプロジェクトの進行状況について教えていただきたい。

#### ーファトクリン極東国立工科大学学長ー

石炭埋蔵ガスの専門家にちょっとマイクを。

#### ー極東国立工科大学石炭埋蔵ガス担当ー

石炭関係では研究を具体的に進めてきまして、地下でも地上でも石炭をガス化するという技術を我々は持っています。あらゆる業者とも密接に協力しながら研究を行ってきたんですが、ガスのうちの大学の枠内でラボを開いて、我々の研究した技術をこれから産業的に応用していくという計画もあります。最新の技術を開発したと言ってもいいぐらいです。そして、常に新しい技術設備をねらって、いろいろ新しい機械も買っているわけですから、あと1年ぐらいすると、やっぱり世界でも指折りの設備を持っているラボになると私は期待しています。

室蘭大学とも同じ根源の研究を進めていきたいと思います。

#### ー全国知事会会長(福岡県知事麻生渡)ー

アンダーグラウンドというのはどこのマインでやっているのですか。

#### ー極東国立工科大学石炭埋蔵ガス担当ー

この周辺は地上しかやらないですけども、地下はケネロボという旧ソ連で一番大きな鉱山ですけれども、そこで実施するわけです。つまり、こちらで研究を進めて、その導入はケネロボ地域にあるというようなガス化の工場です。

#### ーファトクリン極東国立工科大学学長ー

極東地域はとりあえず環境を守りましょうという、極東地域の自然環境を守りましょう。

皆さんは時間はちょっと厳しいかと思いますがけれども、日本の授業の見学に移りましょう。

以上



## 第 15 回日露知事会議共同声明

2010 年 5 月 2 日、第 15 回日露知事会議がモスクワにおいて開催された。  
この会議には、日本側から以下 8 名が出席した。

麻生 渡	日本国全国知事会会長、福岡県知事
高橋 はるみ	北海道知事
佐竹 敬久	秋田県知事
吉村 美栄子	山形県知事
泉田 裕彦	新潟県知事
村山 寛司	東京都副知事
石井 隆一	富山県知事
平井 伸治	鳥取県知事

ロシア側からは以下 10 名が出席した。

ユーリ・ルシコフ	ロシア 21 世紀委員会議長、モスクワ市長
ヴィクトル・クレス	トムスク州知事
オレグ・コロリョフ	リペツク州知事
セルゲイ・ヴァフルコフ	ヤロスラヴリ州知事
アナトリー・アルタモノフ	カルーガ州知事
ヴァチェスラフ・シュポルト	ハバロフスク地方知事
イーゴリ・スリュニャエフ	コストロマ州知事
アレクサンドル・ホロシャヴィン	サハリン州知事
アレクセイ・クジミツキー	カムチャツカ地方知事
ゲオルギー・ボース	カリーニングラード州知事

両国においては、友好親善関係の増進と経済・貿易関係の発展をめざし、過去 1968 年から 1997 年まで 14 回にわたり日露知事会議を開催してきた。

その後、2009 年 5 月 12 日の日露知事意見交換会において、今後、両国地方政府代表者による多面的な協力体制や日本・ロシアの相互理解と協調関係を築いていくためには、継続した対話を重ねることが最も重要であることを確認し合い、休止状態にあった日露知事会議の再開を決定したものである。

これにより、本日、モスクワ市において日本の都道府県知事とロシア連邦構成主体の地方政府代表者が一堂に会し、友好親善の発展はもとより、両国間の経済交流をはじめ、環境、エネルギー、観光、科学技術等の地域間交流の実態と望ましい交流のあり方、活性化方策について率直に意見交換を行った。

この会議の開催に当たっては、日本側から河野駐ロシア特命全権大使が、ロシア側からフリステンコ産業貿易大臣が出席し、それぞれ鳩山内閣総理大臣、メドヴェージェフ大統領のメッセージを読み上げた。

会議において、日本側参加者は、本格化するロシア極東・シベリア地域の開発に合わせ日露間の経済交流の活性化と拡大を図るため、両国での招聘・渡航手続の簡素化、通関手続の簡素化・迅速化、定期航空路線・定期貨客船等の利用促進、中小企業の進出支援などの取り組みが重要であることを提案した。

また日露経済交流をロシア西部にも進めるため、日露間の定期貨客船とシベリア鉄道を結ぶ物流ルートを確立した上で同鉄道の定時性・迅速性の向上を図ること、さらには経済発展に伴う環境問題への対処と地球環境問題の解決に向けた地域間の技術交流の促進が重要であることを提案した。

ロシア側参加者からは、緊急度の高い具体的な課題の解決を図るため、日本の都道府県知事とロシア連邦構成主体の代表者との間にホットラインを設置することについて提案があった。

また、ハイテク・省エネルギーに関する技術交流、ロシア極東・シベリア地域における燃料エネルギー複合施設の開発と住宅の建設、農作物・漁業資源の加工、観光・交通インフラの開発、日露地域間の交流範囲の拡大、観光発展のためのカムチャツカ地方と日本の都道府県との間の定期航空路線と定期貨客船の開設、大学間交流の一層の推進等の分野における協力について提案があった。

これら両国地方政府代表者の提案は極めて有益なものであり、両国地方政府はその実現に向けて努力し、それぞれ中央政府に対し要請していくことを合意した。

日露双方の参加者は、平和条約の問題に関し相互で受け入れ可能な解決を目的とした対話の継続についての日露首脳の方針を支持した。

会議の内容について、我々は大変満足できるものであったと評価する。

2012年にはウラジオストクで APEC 首脳会議が開催される予定である。ロシア極東・シベリア地域の発展は、今後、両国の発展にとって、大きな影響を及ぼすものであり、APEC 首脳会議の成功と大きな成果を期待している。

最後に、次回の日露知事会議を 2011 年に日本において開催することを決定した。

2010 年 5 月 2 日

日本側代表団団長  
全国知事会会長  
福岡県知事  
麻生 渡

ロシア側代表団団長  
ロシア 21 世紀委員会議長  
モスクワ市長  
ユーリ・ルシコフ

日本側出席知事(2009.5.11)  
Participants on the Japan side

全国知事会 会長 福岡県知事 麻生 渡	<b>President of the National Governors' Association Governor of Fukuoka Prefecture</b>	<b>Wataru Aso</b>
北海道知事 高橋 はるみ	<b>Governor of Hokkaido Prefecture</b>	<b>Harumi Takahashi</b>
秋田県知事 佐竹 敬久	<b>Governor of Akita Prefecture Satake</b>	<b>Norihisa</b>
岩手県知事 達増 拓也	<b>Governor of Iwate Prefecture</b>	<b>Takuya Tasso</b>
新潟県知事 泉田 裕彦	<b>Governor of Niigata Prefecture Izumida</b>	<b>Hirohiko</b>
東京都知事 石原 慎太郎	<b>Governor of Tokyo Metropolitan</b>	<b>Shintaro Ishihara</b>
茨城県知事 橋本 昌	<b>Governor of Ibaraki Prefecture Hashimoto</b>	<b>Masaru</b>
埼玉県知事 上田 清司	<b>Governor of Saitama Prefecture</b>	<b>Kiyoshi Ueda</b>
富山県知事 石井 隆一	<b>Governor of Toyama Prefecture</b>	<b>Takakazu Ishii</b>

ロシア側出席者

(2009.5.11 現在)

【Mayor/Governors】

- ・Chairman of the Russian Committee of the XXI century  
The Moscow City Mayor Yu. Luzhkov  
(ロシア21世紀委員会議長 モスクワ市長 ユーリー・ルシコフ)
  
- ・Governor of Sakhalin Region A. Khoroshavin  
(サハリン州知事 アレクサンドル・ホロシャヴィン)
  
- ・Governor of Primorye Region S. Darkin  
(沿海地方知事 セルゲイ・ダリキン)
  
- ・Governor of Kamchatka Region A. Kuzmitsky  
(カムチャツカ地方知事 アレクセイ・クジミツキー)
  
- ・Governor of Amur Region O. Kozhemyako  
(アムール州知事 オレグ・コジェミャコ)
  
- ・Governor of Tomsk Region V. Kress  
(トムスク州知事 ヴィクトル・クレス)
  
- ・Governor of Ryazan Region O.Kovalev  
(リャザン州知事 オレグ・コヴァリョフ)
  
- ・Prime-Minister of the Republic of Tatarstan R.Minnikhanov  
(タタールスタン共和国首相 ラスタン・ミニハーノフ)